

西武学園文理中学校

<学習の指針>

令和7年度

PHILOSOPHY OF EDUCATION 建学の精神

The cultivation of scholarship and skills.
学識と技術の錬磨

The development of a spirit of appreciation.
報恩の精神

Perseverance and a quest for excellence.
不撓不屈の精神

EDUCATIONAL POLICY 教育方針

Thou shalt do everything wi'heart;
Thou shalt be a man o'iron will.
Thou! Dost stick to th'ultimate end!

「すべてに誠をつくし最後までやり抜く強い意志を養う」

SCHOOL MOTTO 校訓

Sincerity	誠実
Reliance	信頼
Service	奉仕

BUNRI'S



INDEX

各教科 学習の指針

P. 3 ~ P. 79

➤ 国語	P.3
➤ 社会	P.9
➤ 数学	P.17
➤ 理科	P.26
➤ 音楽	P.32
➤ 美術	P.38
➤ 保健体育	P.44
➤ 技術・家庭	P.50
➤ 英語	P.62



教科	国語	科目	国語	単位数	4	対象学年	中学1年生 MYP years 2
MYP科目群	言語と文学					対象クラス	SA・C・AC
使用教科書	光村図書「国語1」、光村図書「中学書写 一・二・三年」						
使用教材 (副教材)	新学社「新基礎の学習1」 昇級式漢字トレーニング						

科目のねらい

<ul style="list-style-type: none"> • 言語を、思考、創造性、振り返り、学習、自己表現、分析、および社会的な相互作用の手段として利用する。 • さまざまな文脈で、聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと、見ること、発表することに関わるスキルを身につける。 • 文学および非文学のテキストを学習し分析することへの、批判的で創造的で個人的なアプローチを探究する。 • 歴史上のいろいろな時代とさまざまな文化のテキストに取り組む。 • 文学および非文学のテキストを通して、自分の国や学校所在地の文化、その他の文化を探究し、分析する。 • 多様なメディアや伝達様式（モード）を通して言語を探究する。 • 生涯にわたる読書への関心を育む。 • 実際のさまざまな文脈の中で、言語的・文学的な概念とスキルを応用する。

目標および評価規準

MYP 評価観点	
A: 分析	i) テキストの重要な側面を特定し、それについて意見を述べる。
	ii) 作者の選択を認識し、それについて意見を述べる。
	iii) 例、説明、用語を用いて、意見や考えの根拠を示す。
	iv) テキスト内および複数のテキスト間で特徴の類似点や相違点を見いだす。
B: 構成	i) 文脈と意図に応じた組織的構造を採用する。
	ii) 意見や考えを論理的な方法で整理する。
	iii) 参照と形式化のツールを利用して、文脈や意図に適した体裁を作成する。
C: 創作	i) 創造的プロセスへの個人的な関わりから生じる新しいものの見方や考え方を探究しながら、考えや想像を表すテキストを創作する。
	ii) 言語的、文学的、視覚的な表現の観点から、受け手に与える影響を認識したスタイル（文体）を選択する。
	iii) アイデアを育むために、関連する詳細情報と実例を選び出す。
D: 言語の使用	i) 適切で多様な語彙、構文、表現形式を使用する。
	ii) 適切な言語使用域（レジスター）とスタイル（文体）で書き、話す。
	iii) 正しい文法、統語法、句読法を用いる。
	iv) 正確に綴り（アルファベット言語）、書き（文字言語）、発音する。
	v) 適切な非言語的コミュニケーション技法を利用する。

関連概念（学習を通して、生徒は以下の概念についても考えます）

受け手側の受容	登場人物	文脈	ジャンル
テキスト間の関係性	視点	目的	自己表現
設定	構成	スタイル（文体）	テーマ

年間計画

学期	ユニット	1:重要概念 2:グローバルな文脈 3:ATL	学習内容・教材等	総合的評価課題の MYP 評価観点 ([]内) および課題概要と評価方法	学習指導要領観点との対応
1学期	1	1.コミュニケーション 2.アイデンティティーと関連性 3.コミュニケーション	意見交流・合意形成の方法について学ぶ 〔教材〕 ・詩「野原はうたう」・物語「はじまりの風」・説明「ちょっと立ち止まって」・文法「言葉のまとまりを考えよう」	【B】話し合いの整理や議論の発展につながるような活動を通し、洗練された結論を出すことに貢献する。 【D】状況に応じて声の大きさや視線の使い方などを工夫し、コミュニケーションがより円滑になるように実践する。	①知識・技能-【D】、定期 ②思考・判断・表現- 【B】、定期 ③主体的に学習に取り組む態度-【B】【D】
	2	1.形式 2.時間的空間的位置づけ 3.組織	論理的な文章構成について学ぶ 〔教材〕 ・説明「ダイコンは大きな根？」・物語「大人になれなかった弟たちに・・・」・文法「言葉の単位」	【A】授業で学んだ構成や文脈に関する知識を用いながら、必要に応じて複数のテキストにわたって類似点を整理しながら内容を分析する。 【B】序論・本論・結論の構成に留意しながら、自分とは異なる意見の存在を想定して説得力のある主張・考察を明確に書く。	①知識・技能-【A】、定期 ②思考・判断・表現- 【B】、定期 ③主体的に学習に取り組む態度-【A】【B】
2学期	3	1.形式 2.個人的表現と文化的表現 3.振り返り	むかしのことばといまのことば 〔教材〕 ・言葉「指示する語句と接続する語句」 ・漢字「熟語の構成」・文法「言葉の関係を考えよう」・文法「文の組み立て」・古典「いろは歌」・古典「漢文を読む」	【A】授業で学んだ文法事項や文法表現を用いて、日常生活の中での文法的性質について分析・考察する。 【B】筆者の意見や考えを、文脈と意図に照らし合わせながら適切な言葉遣いで表現されていることをまとめる。	①知識・技能-【B】、定期 ②思考・判断・表現- 【A】、定期 ③主体的に学習に取り組む態度-【A】【B】
	4	1.創造性 2.公平性と発展 3.協働	描写と解釈 〔教材〕 ・意見「不便の価値を見つめ直す」・小説「星の花が降る頃に」	【A】作品に描かれた中心的な変化やすぐれた描写が、どのようなもので、どのように効果的に表現されているかを分析・考察する。 【C】ありきたりではない新しい視点やアイデアを提示し考えを深める。また、具体例やデータ、引用によって考えを深め、読み手を説得できるような独創的な主張を述べる。	①知識・技能-【A】、定期 ②思考・判断・表現- 【C】、定期 ③主体的に学習に取り組む態度-【A】【C】
3学期	5	1.つながり 2.時間的空間的位置づけ 3.転移	文学とは何かを読む 〔教材〕 ・古典「蓬莱の玉の枝」 ・小説「少年の日の思い出」	【A】古典から現代までつながる型を発見し、竹取物語と現代テキストに通じるものを分析する。 【B】登場人物の心情だけでなく、それを描写した筆者の考えを考察し、それらがどのように文脈に表されているかを整理する。	①知識・技能-【A】、定期 ②思考・判断・表現- 【B】、定期 ③主体的に学習に取り組む態度-【A】【B】
	6	1.形式 2.アイデンティティーと関連性 3.批判的思考	正しい言葉と適切な言葉 〔教材〕 ・文法「単語の性質を見つけよう」 ・文法「単語の分類」	【C】言語的な領域だけでなく、文学的、視覚的な表現の観点から、受け手に与える影響を認識した形式で表現する。 【D】文字や文を正しく整えて書くほか、ふさわしい語彙をつかひこなす。加えて、情報が読み手に伝わりやすい最も適切な方法は何かを考え実践する。	①知識・技能-【D】、定期 ②思考・判断・表現- 【C】、定期 ③主体的に学習に取り組む態度-【C】【D】

教科	国語	科目	国語	単位数	4.5	対象学年	中学2年生 MYP years 3
MYP科目群	言語と文学					対象クラス	C・AC
使用教科書	光村図書「国語2」						
使用教材 (副教材)	新学社「新基礎の学習2」						

科目のねらい

- 言語を、思考、創造性、振り返り、学習、自己表現、分析、および社会的な相互作用の手段として利用する。
- さまざまな文脈で、聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと、見ること、発表することに関わるスキルを身につける。
- 文学および非文学のテキストを学習し分析することへの、批判的で創造的で個人的なアプローチを探究する。
- 歴史上のいろいろな時代とさまざまな文化のテキストに取り組む。
- 文学および非文学のテキストを通して、自分の国や学校所在地の文化、その他の文化を探究し、分析する。
- 多様なメディアや伝達様式（モード）を通して言語を探究する。
- 生涯にわたる読書への関心を育む。
- 実際のさまざまな文脈の中で、言語的・文学的な概念とスキルを応用する。

目標および評価規準

MYP 評価観点	
A: 分析	i) テキストの内容、文脈、言語、構造、技法、およびスタイル（文体）と、複数のテキスト間の関係性を特定し説明する。
	ii) 作者の選択が受け手に与える効果を特定し説明する。
	iii) 例、説明、用語を用いて、意見や考えの根拠を示す。
	iv) ジャンルやテキスト内、および複数のジャンルやテキスト間で特徴の類似点と相違点を解釈する。
B: 構成	i) 文脈と意図に応じた組織的構造を採用する。
	ii) 意見や考えを、持続的で一貫性のある、論理的な方法で整理する。
	iii) 参照と形式化のツールを利用して、文脈と意図に適した体裁を作成する。
C: 創作	i) 創造的プロセスへの個人的な関わりから生じる新しいものの見方やアイデアを探究し検討しながら、思考、想像力、感受性を示すテキストを創作する。
	ii) 言語的、文学的、視覚的な表現の観点から、受け手に与える影響を認識したスタイル（文体）を選択する。
	iii) アイデアを発展させるために、関連する詳細情報と実例を選び出す。
D: 言語の使用	i) 適切で多様な語彙、構文、表現形式を使用する。
	ii) 適切な言語使用域（レジスター）とスタイル（文体）で書き、話す。
	iii) 正しい文法、統語法、句読法を用いる。
	iv) 正確に綴り（アルファベット言語）、書き（文字言語）、発音する。
	v) 適切な非言語的コミュニケーション技法を利用する。

関連概念（学習を通して、生徒は以下の概念についても考えます）

受け手側の受容	登場人物	文脈	ジャンル
テキスト間の関係性	視点	目的	自己表現
設定	構成	スタイル（文体）	テーマ

年間計画

学期	ユニット	1:重要概念 2:グローバルな文脈 3:ATL	学習内容・教材等	総合的評価課題の MYP 評価観点 ([]内) および課題概要と評価方法	学習指導要領観点との対応
1学期	1	1:つながり 2:空間的および時間的な位置づけ 3:創造的思考スキル コミュニケーションスキル	小説 アイスプラネット		思考・判断
			古典 枕草子	【A】作者の表現方法・視点の理解をプリントで評価する。 【C】原典の表現を踏まえた上での現代文の正確かつ工夫した表現をレポートで評価する。	思考・判断・表現
	1:創造性 2:個人的表現と文化的表現 3:創造的思考スキル	詩歌 短歌に親しむ・短歌を味わう	【C】知識・表現技法や新たな視点・創造性を駆使した短歌を創作して発表し、創作活動をレポートして評価する。 【D】適切で多様な語彙を使用できたかをレポートで評価する。	知識・技能・思考・表現	
		言葉 類義語・対義語・多義語 漢字 熟語の構成 文法 自立語		知識・技能 知識・技能 知識・技能	
2学期	2	1:ものの見方 2:科学・技術の革新 3:批判的思考スキル・リサーチスキル	随筆 字のない葉書		思考・判断・表現
			論説 モアイは語る 地球の未来 等	【A】本文の正しい理解を要約を書くことで評価する。 【B】意見を論理的に展開しているか課題文で評価する。 【D】適切で多様な語彙を使用できたかを課題文で評価する。	
		古文 平家物語・徒然草 漢字 同音・同訓異義語 文法 用言の活用 言葉 敬語		知識・技能・判断 知識・技能・判断 知識・技能・判断・表現	
3学期			漢文 漢詩の風景		知識・技能・表現
			論説 君は「最後の晚餐」を知っているか		知識・技能・判断・表現
	3	1:コミュニケーション 2:アイデンティティと関連性 3:協働スキル・批判的思考スキル・創造的思考スキル	小説 走れメロス	【A】表現の効果を理解し応用できるか創作文で評価する。 【B】構成を理解したか、プリント・創作文で評価する。 【C】適切な文体・語彙の使用、また表現の工夫を創作文で評価する。	知識・技能・判断・表現
			漢字 送り仮名 文法 自立語・「付属語 言葉 話し言葉と書き言葉		知識・技能・判断 知識・技能・判断 知識・技能・判断・表現

教科	国語	科目	国語	単位数	3.5	対象学年	中学3年生 MYP years 4
MYP科目群	言語と文学					対象クラス	C・AC
使用教科書	光村図書「国語3」、光村図書「中学書写 一・二・三年」						
使用教材 (副教材)	新学社「新基礎の学習3」 昇級式漢字トレーニング						

科目のねらい

<ul style="list-style-type: none"> • 言語を、思考、創造性、振り返り、学習、自己表現、分析、および社会的な相互作用の手段として利用する。 • さまざまな文脈で、聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと、見ること、発表することに関わるスキルを身につける。 • 文学および非文学のテキストを学習し分析することへの、批判的で創造的で個人的なアプローチを探究する。 • 歴史上のいろいろな時代とさまざまな文化のテキストに取り組む。 • 文学および非文学のテキストを通して、自分の国や学校所在地の文化、その他の文化を探究し、分析する。 • 多様なメディアや伝達様式（モード）を通して言語を探究する。 • 生涯にわたる読書への関心を育む。 • 実際のさまざまな文脈の中で、言語的・文学的な概念とスキルを応用する。

目標および評価規準

MYP 評価観点	
A: 分析	i) テキストの内容、文脈、言語、構造、技法、およびスタイル（文体）と、複数のテキスト間の関係性を特定し説明する。
	ii) 作者の選択が受け手に与える効果を特定し説明する。
	iii) 例、説明、用語を用いて、意見や考えの根拠を示す。
	iv) ジャンルやテキスト内、および複数のジャンルやテキスト間で特徴の類似点と相違点を解釈する。
B: 構成	i) 文脈と意図に応じた組織的構造を採用する。
	ii) 意見や考えを、持続的で一貫性のある、論理的な方法で整理する。
	iii) 参照と形式化のツールを利用して、文脈と意図に適した体裁を作成する。
C: 創作	i) 創造的プロセスへの個人的な関わりから生じる新しいものの見方やアイデアを探究し検討しながら、思考、想像力、感受性を示すテキストを創作する。
	ii) 言語的、文学的、視覚的な表現の観点から、受け手に与える影響を認識したスタイル（文体）を選択する。
	iii) アイデアを発展させるために、関連する詳細情報と実例を選び出す。
D: 言語の使用	i) 適切で多様な語彙、構文、表現形式を使用する。
	ii) 適切な言語使用域（レジスター）とスタイル（文体）で書き、話す。
	iii) 正しい文法、統語法、句読法を用いる。
	iv) 正確に綴り（アルファベット言語）、書き（文字言語）、発音する。
	v) 適切な非言語的コミュニケーション技法を利用する。

関連概念（学習を通して、生徒は以下の概念についても考えます）

受け手側の受容	登場人物	文脈	ジャンル
テキスト間の関係性	視点	目的	自己表現
設定	構成	スタイル（文体）	テーマ

年間計画

学期	ユニット	1:重要概念 2:グローバルな文脈 3:ATL	学習内容・教材等	総括的評価課題の MYP 評価観点 ([]内) および課題概要と評価方法	学習指導要領観点との対応
1学期	1	1:アイデンティ 2:自己と他者の関係 3:思考対人関係スキル	短編小説「握手」等	【B】アイデアの整理・展開・文章の構成の理解をプリントで評価する。 【D】語彙力や知識を活かした表現をレポートで評価する	思考・判断・表現
	2	1:感受性 2:個人と簿雲霞の表現 3:自己管理・思考・表現	「俳句の可能性」「論語」等 漢字 熟語の読み方 和語・漢語・外来語 文法の総復習	【A】内奥、構成、文体、主題、技法などを理解し、テストで評価する 【C】表現の工夫、創造性、目的に応じた創造活動をレポートで評価する 【D】自分の考えた表現を発表する	知識・技能・思考・判断・表現 知識・技能 知識・技能 知識・技能
2学期	3	1:時間 2:方言・歴史・伝統 3:調査・思考スキル	古典「古今和歌集仮名序」「三大和歌集・奥の細道」等	【A】作品の要素を理解し、解釈・説明する力をテストで評価する。 【D】正確で効果的な語彙・文法の理解をテストで評価する。	知識・技能、思考・判断・表現
	4	1:コミュニケーション 2:文化的生活 3:対人関係スキル	論説文教材「それでも、言葉を」 慣用句・ことわざ・故事成語	【A】作者の主張や根拠の読み取りをプリントで評価する 【B】作品の要素を理解し、論理的に組み立てた自分の考えをまとめ、プリントで評価する	知識・技能、思考・判断・表現 知識・技能
3学期	5	1:創造性 2:時間・場所・空間 3:創造的思考・自己管理スキル	小説「故郷」など	【B】主題や根拠の読み取りや要点の整理をレポートで評価する 【D】語彙力を活かし表現力豊かに自分の意見を伝えるのを発表で評価する。	
	6	1:視点 2:公共と個人 3:対人関係・コミュニケーションスキル	意見文・スピーチ作製と発表 文法の総復習	【B】説得力のある構成で、自分の考えを相手に伝える力を作文で評価する。【D】論理性・構成・語彙の適切さを作文で評価する。	知識・技能

教科	社会	科目	地理	単位数	3.4	対象学年	中学1年生 MYP years 2
MYP科目群	個人と社会（地理）					対象クラス	SA・C・AC
使用教科書	『中学社会 地理 地域に学ぶ』（教育出版）						
使用教材 (副教材)	『中学校社会科地図』（帝国書院）、ノート、授業プリント						

科目のねらい

- 人間と環境に見られる共通点や多様性を認識すること。
- 個人、社会、環境の相互作用や相互依存性を理解すること。
- 環境の体系と人間の体系がどのように作用し進化していくかを理解すること。
- 人間のコミュニティと自然環境の健やかさについて、問題点を特定し啓発すること。
- 地域およびグローバルなコミュニティの責任ある市民として行動すること。
- 探究のスキルを養い、個人と社会とそれらが生きる環境との間の関係性を概念的に理解すること。

目標および評価規準

MYP 評価観点	
A: 知識と理解	i) 文脈に合った語彙を使う。
	ii) 記述や説明、または事例を使って、科目ごとの内容と概念についての知識と理解を示す。
B: 調査探究	i) 研究課題の選択を説明する。
	ii) 研究課題を探究するための行動計画を実践する
	iii) 研究課題にとって関連性のある情報を収集し記録する。
	iv) 調査のプロセスと結果を振り返る。
C: コミュニケーション	i) 情報や考えを明確に伝達する。
	ii) 課題にとって効果的に、情報や考えを整理する。
	iii) 課題の指示に従った方法で、情報源を列挙する。
D: 批判的思考	i) 見解、出来事、視覚表現、議論の要点を特定する。
	ii) 意見を正当化するために情報を活用する。
	iii) 幅広い情報源やデータを出典や目的という観点から特定し、分析する。
	iv) さまざまな見方とそこに含まれる意味を特定する。

関連概念（学習を通して、生徒は以下の概念についても考えます）

因果関係（原因と結果）	文化	格差と公平	多様性
グローバル化	管理と関与	ネットワーク	パターンと傾向
力・権力	過程	規模	持続可能性

年間計画

学期	ユニット	1:重要概念 2:グローバルな文脈 3:ATL	学習内容・教材等	総括的評価課題の MYP 評価観点 ([]内) および課題概要と評価方法	学習指導要領観点との対応
1学期	1	1.グローバルな相互作用 2.文化 3.思考スキル	第1編 世界と日本の地域構成 第1章 世界の地域構成 (4) 200近くの国々にからなる世界 ・教科書p.12~13	「プレゼンテーション資料」【C】 世界の各州における文化の特徴やそれぞれが抱える課題を整理して評価する。	【C】-③
	2	1.体系 2.因果関係(原因と結果) 3.自己管理スキル	第3編 日本の様々な地域 第2章 日本の特色と特色区分 (4) 四季のある気候 ・教科書p.154~155	「プレゼンテーション資料」【A】【D】 日本において、気候は6つに大別されるが、それぞれの特徴を分析し、またなぜそのような分類になるのかという要因を解明する。	【A】-① 【D】-②
2学期	3	1.時間・場所・空間 2.ネットワーク 3.コミュニケーションスキル	第3編 日本のさまざまな地域 第3章 日本の諸地域 ・教科書p.172~276 日本の各地域が抱えている産業・都市・人口問題を分析し、それに対してどのような対応策を考えているか。	「プレゼンテーション資料」【A】【C】 以下の切り口から日本の諸地域を考察し、地域の変化や改善に向かう取り組みなどを分析する。 ① 産業の特色と課題 ② 都市の特色と課題 ③ 人口分布の特色と課題	【A】-① 【C】-③
3学期	4	1.変化 2.持続可能性 3.リサーチスキル	第2編 世界のさまざまな地域 第1章 世界各地の人々の環境 ・教科書p.26~p.43	「調査計画書」「プレゼンテーション資料」【A】【B】【D】 世界の諸地域で様々な気候に応じて人々が生活していることを分析しつつ、地球温暖化などの気候変動が生じている現在においても同地域で同様の生活が送れているのかどうかを考察する。	【A】-① 【B】-③ 【D】-②

教科	社会	科目	歴史	単位数	3	対象学年	中学2年生 MYP years 3
MYP科目群	個人と社会 (歴史)					対象クラス	C・AC
使用教科書	『新しい社会 歴史』(東京書籍)						
使用教材 (副教材)	ノート、授業プリント						

科目のねらい

<ul style="list-style-type: none"> 人間と環境に見られる共通点や多様性を認識すること。 個人、社会、環境の相互作用や相互依存性を理解すること。 環境の体系と人間の体系がどのように作用し進化していくかを理解すること。 人間のコミュニティと自然環境の健やかさについて、問題点を特定し啓発すること。 地域およびグローバルなコミュニティの責任ある市民として行動すること。 探究のスキルを養い、個人と社会とそれらが生きる環境との間の関係性を概念的に理解すること。

目標および評価規準

MYP 評価観点	
A: 知識と理解	i) 文脈に合った幅広い用語を使う。
	ii) 記述や説明、または事例を通して、科目ごとの内容と概念についての知識と理解を示す。
B: 調査探究	i) 明確かつ的の絞られた研究課題を設定または選択し、その関連性を説明する。
	ii) 研究課題を調査するための行動計画を策定し実践する。
	iii) 関連性のある情報を収集し記録するための方法を活用する
	iv) 指導を得て、調査のプロセスと結果を評価する。
C: コミュニケーション	i) 受け手と目的にとって適切な方法で、情報や考えを伝える。
	ii) 課題の指示に従って、情報や考えを構成する。
	iii) 引用文献のリストを作成し、情報源に言及する。
D: 批判的思考	i) 概念、問題点、モデル、視覚表現、理論を分析する。
	ii) 情報を要約して、有効かつ論拠のある主張を行う。
	iii) 幅広い情報源やデータを出典や目的という観点から分析し、その価値や限界を認識する。
	iv) さまざまなものの見方を認識し、そこに含まれる意味を説明する。

関連概念 (学習を通して、生徒は以下の概念についても考えます)

因果関係 (原因と結果)	文明	対立	協調
文化	統治	アイデンティティー	イデオロギー
革新と革命	相互依存	ものの見方	重要性

年間計画

学期	ユニット	1:重要概念 2:グローバルな文脈 3:ATL	学習内容・教材等	総括的評価課題の MYP 評価観点 ([]内) および課題概要と評価方法	学習指導要領観点との対応
1学期	1	1.体系 2.文明 3.社会性スキル	日中関係の変遷(朝貢貿易～日宋貿易) ・教科書 p.20～p.73 「古代の日本と中国王朝との関わり」 古代日本(弥生時代～平安時代)の政治史と対中国関係の変化について学ぶ。	・単元テストにおいて、知識・理解および資料読解に関する問題に正しく解答する。 ・歴代中国王朝(～宋)と古代日本の支配者との関わりに、どのような変化があったのかを、資料を元に実例を挙げながら説明する。 [A] [B] [D]	[A]-① [B]-② [D]-③
	2	1.変化 2.対立と協調 3.コミュニケーションスキル	日中関係の変遷(～大航海時代) ・教科書 p.74～p.107 「中世の日本と中国との関わり、そして西欧の大航海時代到来」 中世日本(鎌倉～戦国時代)の政治史と対外関係の変化について学ぶ。	・単元テストにおいて、知識・理解および資料読解に関する問題に正しく解答する。 ・中世の武家政権と中国の宋・元・明との関係の変化について、資料を元に実例を挙げながら説明する。 ・戦国時代に西欧人が来航し、社会に起こった変化について理解を深める。 [A] [B] [D]	[A]-① [B]-② [D]-③
2学期	3	1.グローバルな関わり 2.文化 3.批判的思考スキル	西欧人の来航と東アジア世界の変化 ・教科書 p.100～p.129 「16世紀～17世紀の世界」 戦国時代から江戸時代の鎖国体制確立に至るイエズス会による布教活動と新技術の紹介、それに対する戦国大名や天下人の対応とは。	・単元テストにおいて、知識・理解および資料読解に関する問題に正しく解答する。 戦国時代の日本でのイエズス会とキリシタン大名との関わりを調べ、それぞれの発表を通じて比較検討する。鎖国体制が生まれた背景について理解する。 [A] [B] [C]	[A]-① [B]-② [C]-③
	4	1.変化 2.革命と革新 3.批判的思考スキル	市民革命・産業革命 列強の世界進出と鎖国体制の崩壊 ・教科書 p.130～p.137、 p.150～173、p.176～195 「18世紀～19世紀の世界」 近代ヨーロッパ諸国は東アジアの「鎖国」体制をどのように動揺させ、政治体制はどのように変化したのか。	・単元テストにおいて、知識・理解および資料読解に関する問題に正しく解答する。 市民革命、産業革命を通じて自由権、社会権の理念が生まれたことを理解する。また、列強のアジア進出が旧来の東アジア社会に与えた影響を理解する。(～日清・日露戦争) [A] [B] [D]	[A]-① [B]-② [D]-③
3学期	5	1.時間、場所、空間 2.因果関係,対立・協調 3.コミュニケーションスキル	二つの世界大戦 ・教科書 p.208～p.239 「20世紀前半の世界」 二つの世界大戦はなぜ勃発し、世界にどのような影響を与えたのか。	・単元テストにおいて、知識・理解および資料読解に関する問題に正しく解答する。 二つの世界大戦勃発の経緯を理解し、戦争を回避し平和を維持し続ける方法についてそれぞれの考えを発表する。 [A] [B] [C]	[A]-① [B]-② [C]-③

教科	社会	科目	歴史	単位数	4	対象学年	中学3年生 MYP years 4
MYP科目群	個人と社会 (歴史)					対象クラス	C・AC
使用教科書	「新しい社会 歴史」						
使用教材 (副教材)	プリント、ノート						

科目のねらい

<ul style="list-style-type: none"> 人間と環境に見られる共通点や多様性を認識すること。 個人、社会、環境の相互作用や相互依存性を理解すること。 環境の体系と人間の体系がどのように作用し進化していくかを理解すること。 人間のコミュニティと自然環境の健やかさについて、問題点を特定し啓発すること。 地域およびグローバルなコミュニティの責任ある市民として行動すること。 探究のスキルを養い、個人と社会とそれらが生きる環境との間の関係性を概念的に理解すること。

目標および評価規準

MYP 評価観点	
A: 知識と理解	i) 文脈に合った幅広い用語を使う。
	ii) 記述や説明、または事例を通して、科目ごとの内容と概念についての知識と理解を示す。
B: 調査探究	i) 明確かつ的の絞られた研究課題を設定または選択し、その関連性を説明する。
	ii) 研究課題を調査するための行動計画を策定し実践する。
	iii) 関連性のある情報を収集し記録するための方法を活用する
	iv) 指導を得て、調査のプロセスと結果を評価する。
C: コミュニケーション	i) 受け手と目的にとって適切な方法で、情報や考えを伝える。
	ii) 課題の指示に従って、情報や考えを構成する。
	iii) 引用文献のリストを作成し、情報源に言及する。
D: 批判的思考	i) 概念、問題点、モデル、視覚表現、理論を分析する。
	ii) 情報を要約して、有効かつ論拠のある主張を行う。
	iii) 幅広い情報源やデータを出典や目的という観点から分析し、その価値や限界を認識する。
	iv) さまざまなものの見方を認識し、そこに含まれる意味を説明する。

関連概念 (学習を通して、生徒は以下の概念についても考えます)

因果関係 (原因と結果)	文明	対立	協調
文化	統治	アイデンティティー	イデオロギー
革新と革命	相互依存	ものの見方	重要性

年間計画

学期	ユニット	1:重要概念 2:グローバルな文脈 3:ATL	学習内容・教材等	総括的評価課題の MYP 評価観点 ([]内) および課題概要と評価方法	学習指導要領観点との対応
1学期	1	1.変化 2.革命と革新 3.批判的思考スキル	市民革命・産業革命 列強の世界進出と鎖国体制の崩壊 ・教科書p.130~p.137、p.150~159 「18世紀~19世紀の世界」 近代ヨーロッパ諸国は東アジアの「鎖国」 体制をどのように動揺させ、政治体制はど のように変化したのか。	・単元テストにおいて、知識・理解および 資料読解に関する問題に正しく解答す る。 市民革命、産業革命を通じて自由権、 社会権の理念が生まれたことを理解す る。また、列強のアジア進出が旧来の東ア ジア社会に与えた影響を理解する。 [A] [B] [D]	[A]-① [B]-② [D]-③
	2		Unit2から公民のユニットプランに移行		
2学期					
3学期					

教科	社会	科目	公民	単位数	4	対象学年	中学3年生 MYP years 4
MYP科目群	個人と社会(経済)					対象クラス	C・AC
使用教科書	東京書籍『新しい社会 公民』						
使用教材 (副教材)							

科目のねらい

<ul style="list-style-type: none"> 人間と環境に見られる共通点や多様性を認識すること。 個人、社会、環境の相互作用や相互依存性を理解すること。 環境の体系と人間の体系がどのように作用し進化していくかを理解すること。 人間のコミュニティと自然環境の健やかさについて、問題点を特定し啓発すること。 地域およびグローバルなコミュニティの責任ある市民として行動すること。 探究のスキルを養い、個人と社会とそれらが生きる環境との間の関係性を概念的に理解すること。

目標および評価規準

MYP 評価観点	
A: 知識と理解	i) 文脈に合った幅広い用語を使う。
	ii) 記述や説明、または事例を通して、科目ごとの内容と概念についての知識と理解を示す。
B: 調査探究	i) 明確かつ的の絞られた研究課題を設定または選択し、その関連性を説明する。
	ii) 研究課題を調査するための行動計画を策定し実践する。
	iii) 関連性のある情報を収集し記録するための方法を活用する
	iv) 指導を得て、調査のプロセスと結果を評価する。
C: コミュニケーション	i) 受け手と目的にとって適切な方法で、情報や考えを伝える。
	ii) 課題の指示に従って、情報や考えを構成する。
	iii) 引用文献のリストを作成し、情報源に言及する。
D: 批判的思考	i) 概念、問題点、モデル、視覚表現、理論を分析する。
	ii) 情報を要約して、有効かつ論拠のある主張を行う。
	iii) 幅広い情報源やデータを出典や目的という観点から分析し、その価値や限界を認識する。
	iv) さまざまなものの見方を認識し、そこに含まれる意味を説明する。

関連概念(学習を通して、生徒は以下の概念についても考えます)

選択	消費	公平	グローバル化
成長	モデル	貧困	力・権力
資源	希少性	持続可能性	貿易

年間計画

学期	ユニット	1:重要概念 2:グローバルな文脈 3:ATL	学習内容・教材等	総合的評価課題の MYP 評価観点 ([]内) および課題概要と評価方法	学習指導要領観点との対応
1学期	2	1. 時間・場所・空間 2. 市民権・協調・権利 3. 思考スキル、社会性スキル	1節 日本国憲法の成り立ちと国民主権 ・人権の考え方と歴史 ・日本国憲法の考え方	「レポート」「討論」[B][C][D] 人権の歴史や日本国憲法の基本理念から、差別や偏見について考察するとともに、主権者としてどのように関わってゆくべきか示す。 ・死刑制度についての討論 ・沖縄の基地問題についての討論 ・今ある国際紛争についての調査	② ② ③
			2節 憲法が保障する基本的人権 ・基本的人権の尊重/各種人権 3節 私たちと平和主義 第6章 国際社会に行く瑠私たち		
2学期	3	1. 体系 2. 権威、政府、力・権力 3. 批判的思考	第3章 私たちの暮らしと民主政治 1節 民主政治と日本の政治 2節 三権分立のしくみと私たちの政治参加	「レポート」[A][B][D] 日本の政治の仕組みについて理解し、より良い民主国家の在り方について考察するとともに、主権者として政治にどのように関わってゆけばよいか示す。 ・現代の政治的課題の発見とその解決策の提案 ・模擬裁判による裁判員体験 ・議院内閣制の現状と課題	① ② ③
			第4章 私たちの暮らしと経済 1節 消費生活と経済活動 2節 企業の生産のしくみと労働		
3学期	4	1. 変化 2. 消費、成長、資源、希少性、持続可能性 3. 思考スキル	第4章 私たちの暮らしと経済 4節 金融と財政の役割 第5章 安心して裕に暮らせる社会 1節 暮らしを支える社会保障	「レポート」[A][B][D] 経済活動における三主体それぞれの役割を理解するとともに、基本的人権の保障の立場から経済活動の自由との兼ね合いについて考察し、財政の役割を理解する。 ・金融教育(投資体験)	①②
			第4章 私たちの暮らしと経済 4節 金融と財政の役割 第5章 安心して裕に暮らせる社会 1節 暮らしを支える社会保障		
3学期	5	1. 変化 2. 消費、成長、資源、希少性、持続可能性 3. 思考スキル	第4章 私たちの暮らしと経済 4節 金融と財政の役割 第5章 安心して裕に暮らせる社会 1節 暮らしを支える社会保障	「レポート」[A][B][D] 経済活動における三主体それぞれの役割を理解するとともに、基本的人権の保障の立場から経済活動の自由との兼ね合いについて考察し、財政の役割を理解する。 ・金融教育(投資体験) ・社会保障制度の歴史と今後 ・株式会社設立体験	①② ① ①②③
			第4章 私たちの暮らしと経済 4節 金融と財政の役割 第5章 安心して裕に暮らせる社会 1節 暮らしを支える社会保障		

教科	数学	科目	数学	単位数	2.5	対象学年	中学1年生
						対象クラス	SA C AC

使用教科書	これからの数学1 (数研出版) これからの数学2 (数研出版)
-------	---------------------------------

使用教材 (副教材)	スパイラルアップ 中学数学1年 (数研出版) スパイラルアップ 中学数学2年 (数研出版)
------------	---

年間計画

学期	学習内容・教材等	学習指導要領観点との対応	備考
1学期	<p>中学1年「これからの数学1」</p> <p>第1章 正の数と負の数</p> <p>第1節 正の数と負の数</p> <p>① 符号のついた数</p> <p>② 数の大小</p> <p>第2節 加法と減法</p> <p>① 加法</p> <p>② 減法</p> <p>③ 加法と減法の混じった式</p> <p>第3節 乗法と除法</p> <p>① 乗法</p> <p>② 除法</p> <p>第4節 いろいろな計算</p> <p>① 四則</p> <p>② 素因数分解</p> <p>③ 正の数, 負の数の利用</p> <p>中学1年「これからの数学1」</p> <p>第2章 文字と式</p> <p>第1節 文字と式</p> <p>① 文字を使った式</p> <p>② 文字式の表し方</p> <p>③ いろいろな数量の表し方</p> <p>④ 式の値</p> <p>第2節 文字式の計算</p> <p>① 1次式の加法・減法</p> <p>② 1次式と数の乗法・除法</p> <p>第3節 文字式の利用</p> <p>① 文字式の利用</p> <p>② 関係式を表す方法</p>	<p><input type="checkbox"/> 正の数、負の数の意味を理解でき、$+$、$-$の符号を用いられる</p> <p><input type="checkbox"/> 反対の性質を持つ量や変化を正負の数を用いて表せる</p> <p><input type="checkbox"/> 自然数や絶対値などの数学用語を正しく理解できる</p> <p><input type="checkbox"/> 正負の数を数直線上に表せる</p> <p><input type="checkbox"/> 数の大小関係を不等号を用いて表せる</p> <p><input type="checkbox"/> 正負の数の加法を計算できる</p> <p><input type="checkbox"/> 減法を加法に直して計算できる</p> <p><input type="checkbox"/> 加減混合計算ができる</p> <p><input type="checkbox"/> 正負の数の乗法の計算ができる</p> <p><input type="checkbox"/> 累乗の意味を理解し、累乗の計算ができる</p> <p><input type="checkbox"/> 正負の数の除法の計算ができる</p> <p><input type="checkbox"/> 逆数の意味を理解し、逆数を使って除法を乗法に直して計算できる</p> <p><input type="checkbox"/> 乗除混合計算、四則混合計算ができる</p> <p><input type="checkbox"/> 分配法則を利用して工夫して計算ができる</p> <p><input type="checkbox"/> 正負の数の計算を利用して、身近な問題を解決できる</p> <p><input type="checkbox"/> 自然数を素数の積であらわすことができる</p> <p><input type="checkbox"/> 文字式の表し方の約束を活用し、式を簡潔にできる</p> <p><input type="checkbox"/> 式の値を求められる。</p> <p><input type="checkbox"/> 項、係数、1次式などの数学用語を正しく理解できる</p> <p><input type="checkbox"/> 同類項をまとめられる</p> <p><input type="checkbox"/> 1次式の加減や1次式と数の乗除の計算ができる</p> <p><input type="checkbox"/> かっこのある1次式の計算ができる</p> <p><input type="checkbox"/> 分数形の1次式の計算ができる</p> <p><input type="checkbox"/> 文字式の計算と数の計算を関連づけながら考えられる</p> <p><input type="checkbox"/> 数量の関係や法則を、文字を用いて説明できる</p> <p><input type="checkbox"/> 不等式を用い、数量の大小関係を表現できる</p> <p><input type="checkbox"/> 等式、左辺、右辺の意味を理解し、数量の間の関係を等式で表せる</p>	
2学期	<p>中学1年「これからの数学1」</p> <p>第3章 1次方程式</p> <p>第1節 1次方程式</p> <p>① 方程式とその解</p> <p>② 等式の性質</p> <p>③ 1次方程式の解き方</p> <p>④ 比例式</p> <p>第2節 1次方程式の利用</p> <p>① 1次方程式の利用</p> <p>中学1年「これからの数学1」</p> <p>第4章 比例と反比例</p> <p>第1節 比例</p> <p>① 関数</p> <p>② 比例</p> <p>③ 座標</p> <p>④ 比例のグラフ</p> <p>第2節 反比例</p> <p>① 反比例</p> <p>② 反比例のグラフ</p> <p>第3節 比例と反比例の利用</p> <p>① 比例と反比例の利用</p>	<p><input type="checkbox"/> 方程式の解を文字に代入して、いろいろな値を求められる</p> <p><input type="checkbox"/> 等式の性質を使って簡単な方程式が解ける</p> <p><input type="checkbox"/> 移項の考えを使って方程式が解ける</p> <p><input type="checkbox"/> 基本的な方程式を解くときの手順を理解している</p> <p><input type="checkbox"/> かっこをふくむ形、小数係数、分数係数、比の形に表された方程式が解ける</p> <p><input type="checkbox"/> 解と方程式の関係を理解している</p> <p><input type="checkbox"/> 様々なタイプの文章題を方程式を利用して解くことができる</p> <p><input type="checkbox"/> 数の意味を理解する</p> <p><input type="checkbox"/> 例、反比例の意味、および、比例定数の意味を理解する</p> <p><input type="checkbox"/> 例、反比例の式や比例定数を求められる</p> <p><input type="checkbox"/> 字を変数として扱える</p> <p><input type="checkbox"/> 変数や変域の意味を理解する</p> <p><input type="checkbox"/> 座標の意味を理解する</p> <p><input type="checkbox"/> 変化や対応のようす、グラフの形など、比例や反比例の特徴を理解する</p> <p><input type="checkbox"/> 比例、反比例の特徴を、表、式、グラフを相互に関連づけて理解する</p> <p><input type="checkbox"/> 座標平面上の直線図形の面積を求められる</p> <p><input type="checkbox"/> 比例、反比例の関係を利用して、身のまわりの問題を考えられる</p>	
3学期	<p>中学2年「これからの数学2」</p> <p>第1章 式の計算</p> <p>第1節 式の計算</p> <p>① 単項式と多項式</p> <p>② 多項式の計算</p> <p>③ 単項式の乗法・除法</p> <p>④ 式の値</p> <p>第2節 文字式の利用</p> <p>① 文字式の利用</p> <p>② 等式の変形</p>	<p><input type="checkbox"/> 単項式、多項式、次数について理解できる</p> <p><input type="checkbox"/> 同類項をまとめる計算ができる</p> <p><input type="checkbox"/> 多項式同士の加法と減法を計算できる</p> <p><input type="checkbox"/> 多項式と数との乗法と除法を計算できる</p> <p><input type="checkbox"/> 分配法則を利用した多項式の計算ができる</p> <p><input type="checkbox"/> 分数形の多項式の計算ができる</p> <p><input type="checkbox"/> 指数法則を理解し、使うことができる</p> <p><input type="checkbox"/> 乗除混合計算ができ、式の値を求められる</p> <p><input type="checkbox"/> 文字式を利用して整数の性質を説明できる</p> <p><input type="checkbox"/> 式の計算を利用して図形の問題が解ける</p> <p><input type="checkbox"/> 目的に応じて等式を変形できる</p>	

教科	数学	科目	数学	単位数	2.5	対象学年	中学2年生
						対象クラス	C・AC
使用教科書	これからの数学2（数研出版） これからの数学3（数研出版）						
使用教材（副教材）	スパイラルアップ 中学数学2年（数研出版） スパイラルアップ 中学数学3年（数研出版）						

年間計画

学期	学習内容・教材等	学習指導要領観点との対応	備考
1学期	<p>中学2年「これからの数学2」</p> <p>第1章 式の計算</p> <p>第2節 文字式の利用</p> <p>① 文字式の利用</p> <p>② 等式の変形</p> <p>中学2年「これからの数学2」</p> <p>第2章 連立方程式</p> <p>第1節 連立方程式</p> <p>① 2元1次方程式と連立方程式</p> <p>② 連立方程式の解き方</p> <p>③ いろいろな連立方程式の解き方</p> <p>第2節 連立方程式の利用</p> <p>① 連立方程式の利用</p> <p>中学2年「これからの数学2」</p> <p>第3章 1次関数</p> <p>第1節 1次関数</p> <p>① 1次関数</p> <p>② 1次関数の値の変化</p> <p>③ 1次関数のグラフ</p> <p>④ 1次関数の式の求め方</p>	<p><input type="checkbox"/> 文字式を利用して整数の性質を説明できる</p> <p><input type="checkbox"/> 式の計算を利用して図形の問題が解ける</p> <p><input type="checkbox"/> 目的に応じて等式を変形できる</p> <p><input type="checkbox"/> 2元1次方程式、連立方程式の意味とそれらの解の意味を理解する</p> <p><input type="checkbox"/> 2元1次方程式の1つの文字に値を代入し、もう1つの文字の値を求める</p> <p><input type="checkbox"/> 連立方程式を加減法や代入法を用いて解ける</p> <p><input type="checkbox"/> かつこ、小数・分数、$A=B=C$の形の連立方程式が解ける</p> <p><input type="checkbox"/> いろいろな問題場面に応じて、1元1次方程式や連立方程式を的確に用いられる</p> <p><input type="checkbox"/> 1次関数 $y=ax+b$ の意味と性質を理解する</p> <p><input type="checkbox"/> 与えられた式が、1次関数か否か見分けられる</p> <p><input type="checkbox"/> xの増加量、yの増加量、変化の割合の関係を理解し、2つから残る1つを求められる</p> <p><input type="checkbox"/> 与えられた式から、変化の割合、切片が求められる</p> <p><input type="checkbox"/> 1次関数と比例のグラフの関係を理解する</p> <p><input type="checkbox"/> 与えられた1次関数の式を、グラフで表せる</p> <p><input type="checkbox"/> 傾き、切片の意味、性質を理解する</p> <p><input type="checkbox"/> グラフから、傾き、切片を求めることができ、1次関数の式で表せる</p> <p><input type="checkbox"/> 変域つきの1次関数のグラフをかける</p> <p><input type="checkbox"/> 点の座標や傾き、2直線が平行・垂直など、いろいろな条件が与えられたときの直線の式を求められる</p>	
2学期	<p>中学2年「これからの数学2」</p> <p>第3章 1次関数</p> <p>第2節 1次関数と方程式</p> <p>① 2元1次方程式のグラフ</p> <p>② 連立方程式とグラフ</p> <p>第3節 1次関数の利用</p> <p>① 1次関数の利用</p> <p>中学3年「これからの数学3」</p> <p>第1章 式の計算</p> <p>第1節 多項式の計算</p> <p>① 単項式と多項式の乗法、除法</p> <p>② 多項式の乗法</p> <p>③ 展開の公式</p> <p>第2節 因数分解</p> <p>① 因数分解</p> <p>② 因数分解の公式</p> <p>第3節 式の計算の利用</p> <p>① 式の計算の利用</p>	<p><input type="checkbox"/> 2元1次方程式のグラフを、yについて解いたり、座標軸との交点を求めることによって、かくことができる</p> <p><input type="checkbox"/> 連立2元1次方程式の解とグラフの関係を理解し、利用できる</p> <p><input type="checkbox"/> 与えられた条件を満たす1次関数が求められる</p> <p><input type="checkbox"/> 単項式や多項式を含む乗法の計算ができる</p> <p><input type="checkbox"/> 多項式÷単項式の計算ができる</p> <p><input type="checkbox"/> 基本的な乗法公式を理解し、利用できる</p> <p><input type="checkbox"/> 因数分解の意味を理解する</p> <p><input type="checkbox"/> 共通因数をくくり出せる</p> <p><input type="checkbox"/> 基本的な因数分解の公式を理解し、利用できる</p> <p><input type="checkbox"/> 置き換えによる因数分解の方法を身につける</p> <p><input type="checkbox"/> 項の組合せを考えた因数分解の方法を身につける</p> <p><input type="checkbox"/> 式の値の計算に因数分解を利用できる</p> <p><input type="checkbox"/> 乗法公式や因数分解を利用した数の計算を身につける</p> <p><input type="checkbox"/> 文字式を用いて、数や図形の性質を証明できる</p>	
3学期	<p>中学3年「これからの数学3」</p> <p>第2章 平方根</p> <p>第1節 平方根</p> <p>① 平方根</p> <p>② 有理数と無理数</p> <p>第2節 根号をふくむ式の計算</p> <p>① 根号を含む式の乗法と除法</p> <p>② 根号を含む式の加法と減法</p> <p>③ いろいろな計算</p> <p>④ 近似値と有効数字</p> <p>第3節 身の回りにおける平方根</p> <p>① 身の回りにおける平方根</p>	<p><input type="checkbox"/> 有理数で表せない数（無理数）があることや、平方根を用いて考えることよきに関心をもち、数量を平方根を用いて表す</p> <p><input type="checkbox"/> 平方根の意味、根号の使い方を理解する</p> <p><input type="checkbox"/> 平方根の大小、平方根の積と商など、平方根の性質を理解する</p> <p><input type="checkbox"/> 分母を有理化する基本的な方法を身につける</p> <p><input type="checkbox"/> 根号をふくむ式の乗法、除法、加法、減法が計算できる</p> <p><input type="checkbox"/> 分配法則や乗法公式を利用、根号を含む式の計算ができる</p> <p><input type="checkbox"/> 分母が根号を含む数の和や差で表されている分数について、分母の有理化ができる</p> <p><input type="checkbox"/> 根号を含む数を代入して、式の値を求められる</p> <p><input type="checkbox"/> 平方根を整数部分と小数部分に分けられる</p> <p><input type="checkbox"/> 根号を使って表された数が、整数になるための条件など、平方根の性質を学ぶ</p>	

教科	数学	科目	数学	単位数	2.5	対象学年	中学3年生
						対象クラス	C・AC

使用教科書	これからの数学3 (数研出版) 高等学校 数学 I (数研出版)
使用教材 (副教材)	中学数学スタンダード問題集3年 (数研出版) マイクリア数学 中学3年 (新育開発出版) REPEAT 数学 I + A (数研出版) 4プロセス 数学 I + A (数研出版)

年間計画

学期	学習内容・教材等	学習指導要領観点との対応	備考
1学期	中学3年「これからの数学3」 第4章 関数 $y=ax^2$ 第1節 関数 $y=ax^2$ ① 2乗に比例する関数 ② 関数 $y=ax^2$ のグラフ ③ 関数 $y=ax^2$ の値の変化 第2節 関数の利用 ① 関数 $y=ax^2$ の利用 ② いろいろな関数 中学3年「これからの数学3」 第8章 標本調査 第1節 母集団と標本 ① 母集団と標本 ② 標本調査の利用	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 2乗に比例する関数 $y=ax^2$ の意味と性質を理解する <input type="checkbox"/> 1組の x, y の値から比例定数を求められる <input type="checkbox"/> 関数 $y=ax^2$ のグラフの性質を理解する <input type="checkbox"/> 比例定数の値によるグラフの特徴を理解する <input type="checkbox"/> 放物線, 軸, 頂点などの用語を理解する <input type="checkbox"/> x の変域から y の変域を求められる <input type="checkbox"/> 2次関数における変化の割合の意味を理解し、求められる <input type="checkbox"/> 具体的な事象について, 関数 を利用できる <input type="checkbox"/> 動点と図形の面積の問題について, y を x の式で表せる <input type="checkbox"/> x の変域によって式が異なる関数のグラフをかける <input type="checkbox"/> 連立方程式を用いて, 放物線と直線の交点の座標を求められる <input type="checkbox"/> 全数調査, 標本調査, 母集団, 標本について理解する 	
2学期	「高等学校 数学 I」 第1章 数と式 第1節 式の計算 ① 多項式の加法と減法 ② 多項式の乗法 ③ 因数分解 (コラム) x, y の2次式の因数分解 (発展) 3次式の展開と因数分解 第2節 実数 ① 実数 (研究) 数直線上の2点間の距離 ② 根号を含む式の計算 第3節 1次不等式 ① 不等式の性質 ② 1次不等式 ③ 絶対値を含む方程式・不等式 (研究) 絶対値と場合分け	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 多項式を降べきの順, 昇べきの順に整理できる <input type="checkbox"/> 交換・結合・分配法則を用いて計算できる <input type="checkbox"/> 因数分解の公式を利用できる <input type="checkbox"/> 文字の置き換えを利用し, 因数分解ができる <input type="checkbox"/> 次数の最も低い文字に着目し因数分解ができる <input type="checkbox"/> 有理数, 無理数, 実数を理解する <input type="checkbox"/> 平方根の意味・性質を理解する <input type="checkbox"/> 根号を含む式の加減法, 乗法の計算ができる <input type="checkbox"/> 分母の有理化ができる <input type="checkbox"/> 不等式の意味を理解し, 1次不等式が解ける <input type="checkbox"/> 連立不等式の意味を理解し, 連立1次不等式が解ける <input type="checkbox"/> 様々な事柄を不等式で表すことができ, 1次不等式の応用問題が解ける <input type="checkbox"/> 絶対値を含む方程式や不等式が解ける 	
3学期	「高等学校 数学 I」 第2章 集合と命題 ① 集合 (研究) 3つの集合の共通部分と和集合 ② 命題と条件 ③ 命題と証明 (研究) $\sqrt{2}$ が無理数であることの証明 中学校の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 条件を満たすものを集合の要素としてとらえる <input type="checkbox"/> 集合を要素で書き並べる方法と条件で示す方法を使い分けられる <input type="checkbox"/> 部分集合, 共通部分, 和集合, 空集合, 補集合を理解する <input type="checkbox"/> ド・モルガンの法則を利用できる <input type="checkbox"/> 命題の真偽を集合の包含関係と結びつけられる <input type="checkbox"/> 反例をあげ, 命題が偽であることを調べられる <input type="checkbox"/> 条件の否定, ド・モルガンの法則を理解し, 様々な条件の否定が求められる <input type="checkbox"/> 必要条件, 十分条件, 必要十分条件, 同値の定義を理解する <input type="checkbox"/> 命題の逆・裏・対偶の意味を理解し, それらの真偽を調べられる <input type="checkbox"/> 対偶による証明法や背理法を用いて証明できる 	

教科	数学	科目	IB数学	単位数	2	対象学年	中学1年生 MYP years 2
MYP科目群	数学					対象クラス	SA・C・AC
使用教科書	これからの数学 1 (数研出版)						
使用教材 (副教材)	スパイラルアップ中学数学 1年 (数研出版)						

科目のねらい

- 数学の原則と本質に対する理解を深める。
- さまざまな文脈において自分の考えを、自信をもって明確に伝えられるようにする。
- 論理的、批判的、創造的な思考を養う。
- 数学的な思考や問題解決に必要な自信、根気、および主体性を養う。
- 一般化や抽象化を行う能力を養う。
- 実生活のさまざまな状況や他の知識領域、将来の発展に、スキルを応用し、転移できるようにする。
- テクノロジーの発達と数学の発展が、どのように互いに影響し合ってきたかを認識する。
- 数学者の業績や数学の応用によって生じる道徳的、社会的、および倫理的な影響を認識する。
- 数学がもつ普遍性や、その多文化的・歴史的視点を認識することにより、数学がもつ国際的側面を認識する。
- 他の知識領域に対して数学がどのように貢献しているかを認識する。
- より高度な数学の学習のために必要となる知識、スキル、および姿勢を身につける。
- 自分自身および他者の学習成果物を批判的に振り返る能力を養う。

目標および評価規準

MYP 評価観点	
A: 知識と理解	i) なじみのある状況においても、なじみのない状況においても、問題を解くにあたり、適切な数学的手法を選択することができる。
	ii) 問題を解く際に、選択した数学的手法を的確に应用することができる。
	iii) さまざまな文脈の中で問題を正しく解くことができる。
B: パターンの探究	i) 数学の解法を応用することにより、パターンを認識することができる。
	ii) 発見に当てはまる関係性または一般法則としてパターンを説明することができる。
	iii) あるパターンが他の例にも当てはまるかどうかを検証することができる。
C: コミュニケーション	i) 口述する場合にも、記述する場合にも、適切な数学的言語（表記法、記号、専門用語）を用いることができる。
	ii) さまざまな形式の数学的表現を用いて情報を提示することができる。
	iii) -----
	iv) 論理的一貫性のある数学的推論の過程を展開することができる。
	v) 論理構造に従って情報をまとめることができる。
D: 実生活への応用	i) 実生活の中にある関連性のある要素を特定することができる。
	ii) 実生活における問題を解くにあたって適切な数学的手法を選択することができる。
	iii) 選択した数学的手法を的確に应用して解答を導くことができる。
	iv) 解答の正確度を説明することができる。
	v) 実生活の状況においてその解答が理に合っているかどうか詳しく述べるることができる。

関連概念（学習を通して、生徒は以下の概念についても考えます）

変化	同値	一般化	妥当性
近似	モデル	パターン	量
表現	単純化	空間	体系（システム）

年間計画

学期	ユニット	1:重要概念 2:グローバルな文脈 3:ATL	学習内容・教材等	総合的評価課題の MYP 評価観点 〔 〕内) および課題概要と評価方法	学習指導要領観点との対応
1学期	1	1. 関係性 2. 科学技術の革新 3. 批判的思考スキル リサーチスキル	中学1年「これからの数学1」 第5章 平面図形 第1節 平面図形 ① 平面上の直線 ② 図形の移動 第2節 作図 ① 作図の基本 第3節 円 ① 円 第6章 空間図形 第1節 空間図形 ① いろいろな立体 ② 空間における平面と直線 ③ 立体のいろいろな見方	単元テスト〔A〕 平面図形に関する知識、理解、問題解決能力、証明能力を総合的に評価するテスト。 レポート課題〔B C D〕 授業内容をまとめたり、自分の考えた内容を書く。図や絵を用いて説明してもよい。 最終レポート：様々な図形を移動する出来映えではなく、習ったことをうまく使って描けているかを見る。 授業内のグループワーク〔C D〕 少人数のグループで課題解決に取り組む。実力関係なく、課題について考える姿勢を評価対象として見る。	①知識・技能-A,B ②思考・判断・表現-B,D ③主体的に学習に取り組む態度-C,D
2学期			中学1年「これからの数学1」 第6章 空間図形 第2節 立体の体積と表面積 ① 立体の体積 ② 立体の展開図 ③ おうぎ形の計量 ④ 立体の表面積 ⑤ 球の体積と表面積 第7章 データの活用 第1節 データの整理とその活用 ① 度数の分布とヒストグラム ② データの比較 ③ 累積度数	単元テスト〔A〕 空間図形に関する知識、理解、問題解決能力を総合的に評価するテスト。 レポート課題〔B C D〕 授業内容をまとめたり、自分の考えた内容を書く。図や絵を用いて説明してもよい。 最終レポート：身の回りのもので考える出来映えではなく、習ったことをうまく使って描けているかを見る。 授業内のグループワーク〔C D〕 少人数のグループで課題解決に取り組む。実力関係なく、課題について考える姿勢を評価対象として見る。	①知識・技能-A,B ②思考・判断・表現-B,D ③主体的に学習に取り組む態度-C,D
		1. 関係性 2. 科学技術の革新 3. リサーチスキル コミュニケーションスキル 創造的思考スキル			
3学期	2		中学1年「これからの数学1」 第7章 データの活用 第2節 確率 ① ことからの起こりやすさ 中学3年「これからの数学3」 第8章 標本調査 第1節 母集団と標本 ① 母集団と標本 ② 標本調査の利用	単元テスト〔A〕 データに関する知識、理解、問題解決能力を総合的に評価するテスト。 レポート課題〔B C D〕 授業内容をまとめたり、自分の考えた内容を書く。図や絵を用いて説明してもよい。 最終レポート：データを調べて分析自分が興味あることを調べて、詳しく分析できているかを見る。 授業内のグループワーク〔C D〕 少人数のグループで課題解決に取り組む。正解にたどりつくまでにどれだけ考えたかを中心に見る。	①知識・技能-A,B ②思考・判断・表現-B,D ③主体的に学習に取り組む態度-C,D

教科	数学	科目	IB数学	単位数	2	対象学年	中学2年生 MYP years 3
MYP科目群	数学					対象クラス	C・AC
使用教科書	これからの数学2（数研出版） これからの数学3（数研出版）						
使用教材 (副教材)	スパイラルアップ [®] 中学数学2年（数研出版） スパイラルアップ [®] 中学数学3年（数研出版）						

科目のねらい

- 数学の原則と本質に対する理解を深める。
- さまざまな文脈において自分の考えを、自信をもって明確に伝えられるようにする。
- 論理的、批判的、創造的な思考を養う。
- 数学的な思考や問題解決に必要な自信、根気、および主体性を養う。
- 一般化や抽象化を行う能力を養う。
- 実生活のさまざまな状況や他の知識領域、将来の発展に、スキルを応用し、転移できるようにする。
- テクノロジーの発達と数学の発展が、どのように互いに影響し合ってきたかを認識する。
- 数学者の業績や数学の応用によって生じる道徳的、社会的、および倫理的な影響を認識する。
- 数学がもつ普遍性や、その多文化的・歴史的視点を認識することにより、数学がもつ国際的側面を認識する。
- 他の知識領域に対して数学がどのように貢献しているかを認識する。
- より高度な数学の学習のために必要となる知識、スキル、および姿勢を身につける。
- 自分自身および他者の学習成果物を批判的に振り返る能力を養う。

目標および評価規準

MYP 評価観点	
A: 知識と理解	i) なじみのある状況においても、なじみのない状況においても、問題を解くにあたり、適切な数学的手法を選択することができる。
	ii) 問題を解く際に、選択した数学的手法を的確に応用することができる。
	iii) さまざまな文脈の中で問題を正しく解くことができる。
B: パターンの探究	i) 数学の解法を選択し、それを応用することにより、複雑なパターンを発見することができる。
	ii) 発見に当てはまる関係性および一般法則、またはそのどちらかとしてパターンを説明することができる。
	iii) 関係性および一般法則、またはそのどちらかを検証し、正当化することができる。
C: コミュニケーション	i) 口述する場合にも、記述する場合にも、適切な数学的言語（表記法、記号、専門用語）を用いることができる。
	ii) さまざまな形式の数学的表現を用いて情報を提示することができる。
	iii) 形式が異なる複数の数学的表現を相互に置き換えることができる。
	iv) 論理的な一貫性があり、不備のない数学的推論の過程を展開することができる。
	v) 論理構造に従って情報をまとめることができる。
D: 実生活への応用	i) 実生活の状況の中にある関連性のある要素を特定することができる。
	ii) 実生活の状況に関する問題を解くにあたって適切な数学的手法を選択することができる。
	iii) 選択した数学的手法を的確に応用して解答を導くことができる。
	iv) 解答の正確度を説明することができる。
	v) 実生活の状況においてその解答が理に適っているかどうか説明することができる。

関連概念（学習を通して、生徒は以下の概念についても考えます）

変化	同値	一般化	妥当性
近似	モデル	パターン	量
表現	単純化	空間	体系（システム）

年間計画

学期	ユニット	1:重要概念 2:グローバルな文脈 3:ATL	学習内容・教材等	総括的評価課題の MYP 評価観点 ([]内) および課題概要と評価方法	学習指導要領観点との対応
1学期	1	1:関係性、論理、形式 2:科学技術の革新 3:批判的思考スキル コミュニケーションスキル リサーチスキル 自己管理スキル	<p>中学2年「これからの数学2」 第6章 データの活用 第1節 データの散らばり ① 四分位数と四分位範囲 ② 箱ひげ図 第2節 データの傾向と調査 ① データの傾向と調査</p> <p>中学3年「これからの数学3」 第8章 標本調査 第1節 母集団と標本 ① 母集団と標本 ② 標本調査の利用</p> <p>中学2年「これからの数学2」 第7章 確率 第1節 確率 ① 確率 ② いろいろな確率</p>	<p>単元テスト[A] 四分位数や箱ひげ図・標本調査に関する知識、理解、問題解決能力を総合的に評価するテスト。</p> <p>レポート課題[B C D] 授業内容をまとめたり、自分の考えた内容を書く。図や絵を用いて説明してもよい。 箱ひげ図から読み取れるデータの特徴や、確率とはどんなものなのかを正しく理解したうえで言語化できるかを見る。</p> <p>授業内のグループワーク[C D] 少人数のグループで課題解決に取り組む。実力関係なく、課題について考える姿勢を評価対象として見る。</p>	<p>①知識・技能 -A,B ②思考・判断・表現 -B,D ③主体的に学習に取り組む態度 -C,D</p>
2学期	2	1:関係性、論理、形式 2:グローバル化と持続可能性 3:創造的思考スキル 論理的思考スキル コミュニケーションスキル 自己管理スキル リサーチスキル	<p>中学2年「これからの数学2」 第4章 図形の性質と合同 第1節 平行線と角 ① 直線と角 ② 三角形の角 ③ 多角形の内角と外角 第2節 三角形の合同 ① 合同な図形 ② 三角形の合同条件 第3節 証明 ① 証明のしくみ</p> <p>第5章 三角形と四角形 第1節 三角形 ① 二等辺三角形 ② 正三角形 ③ 直角三角形</p>	<p>単元テスト[A] 平行線と角・三角形の合同に関する知識、理解、問題解決能力、証明能力を総合的に評価するテスト。</p> <p>レポート課題[B C D] 授業内容をまとめたり、自分の考えた内容を書く。図や絵を用いて説明してもよい。 円周角の定理・三平方の定理をうまく使って証明問題に取り組んでいるかを見る。</p> <p>授業内のグループワーク[C D] 少人数のグループで課題解決に取り組む。実力関係なく、課題について考える姿勢を評価対象として見る。</p>	<p>①知識・技能 -A,B ②思考・判断・表現 -B,D ③主体的に学習に取り組む態度 -C,D</p>
3学期			<p>中学2年「これからの数学2」 第5章 三角形と四角形 第1節 三角形 ④ ことからの逆と反例 第2節 四角形 ① 平行四辺形 ② 特別な平行四辺形 ③ 面積が等しい三角形</p>	<p>単元テスト[A] 特別な三角形や四角形に関する知識、理解、問題解決能力、証明能力を総合的に評価するテスト。</p> <p>レポート課題[B C D] 授業内容をまとめたり、自分の考えた内容を書く。図や絵を用いて説明してもよい。 授業内のグループワーク[C D] 少人数のグループで課題解決に取り組む。正解にたどりつくまでにどれだけ考えたかを中心に見る。</p> <p>総括的評価課題：新しい都市公園の設計。美的魅力と機能性、持続可能性を両立させる幾何学的なデザインを提案し、その数学的な正当性を証明する。</p>	<p>①知識・技能 -A,B ②思考・判断・表現 -B,D ③主体的に学習に取り組む態度 -C,D</p>

教科	数学	科目	IB数学	単位数	2	対象学年	中学3年生 MYP years 4
MYP科目群	数学					対象クラス	C・AC
使用教科書	これからの数学3（数研出版） 高等学校 数学A（数研出版）						
使用教材 (副教材)	中学数学スタンダード問題集3年（数研出版） マイクリア数学 中学3年（新開発出版） REPEAT 数学I+A（数研出版） 4プロセス 数学I+A（数研出版）						

科目のねらい

<ul style="list-style-type: none"> 数学の原則と本質に対する理解を深める。 さまざまな文脈において自分の考えを、自信をもって明確に伝えられるようにする。 論理的、批判的、創造的な思考を養う。 数学的な思考や問題解決に必要な自信、根気、および主体性を養う。 一般化や抽象化を行う能力を養う。 実生活のさまざまな状況や他の知識領域、将来の発展に、スキルを応用し、転移できるようにする。 テクノロジーの発達と数学の発展が、どのように互いに影響し合ってきたかを認識する。 数学者の業績や数学の応用によって生じる道徳的、社会的、および倫理的な影響を認識する。 数学がもつ普遍性や、その多文化的・歴史的視点を認識することにより、数学がもつ国際的側面を認識する。 他の知識領域に対して数学がどのように貢献しているかを認識する。 より高度な数学の学習のために必要となる知識、スキル、および姿勢を身につける。 自分自身および他者の学習成果物を批判的に振り返る能力を養う。

目標および評価規準

MYP 評価観点	
A: 知識と理解	i) なじみのある状況においても、なじみのない状況においても、問題を解くにあたり、適切な数学的手法を選択することができる。
	ii) 問題を解く際に、選択した数学的手法を的確に応用することができる。
	iii) さまざまな文脈の中で問題を正しく解くことができる。
B: パターンの探究	i) 数学の解法を選択し、それを応用することにより、複雑なパターンを発見することができる。
	ii) 発見に当てはまる関係性および一般法則、またはそのどちらかとしてパターンを説明することができる。
	iii) 関係性および一般法則、またはそのどちらかを検証し、正当化することができる。
C: コミュニケーション	i) 口述する場合にも、記述する場合にも、適切な数学的言語（表記法、記号、専門用語）を用いることができる。
	ii) さまざまな形式の数学的表現を用いて情報を提示することができる。
	iii) 形式が異なる複数の数学的表現を相互に置き換えることができる。
	iv) 論理的な一貫性があり、不備のない数学的推論の過程を展開することができる。
	v) 論理構造に従って情報をまとめることができる。
D: 実生活への応用	i) 実生活の状況の中にある関連性のある要素を特定することができる。
	ii) 実生活の状況に関する問題を解くにあたって適切な数学的手法を選択することができる。
	iii) 選択した数学的手法を的確に応用して解答を導くことができる。
	iv) 解答の正確度を説明することができる。
	v) 実生活の状況においてその解答が理に当たっているかどうか説明することができる。

関連概念（学習を通して、生徒は以下の概念についても考えます）

変化	同値	一般化	妥当性
近似	モデル	パターン	量
表現	単純化	空間	体系（システム）

年間計画

学期	ユニット	1:重要概念 2:グローバルな文脈 3:ATL	学習内容・教材等	総合的評価課題の MYP 評価観点 ([]内) および課題概要と評価方法	学習指導要領観点との対応
1学期	1	1:関係性 2:科学技術の革新 3:創造的思考・批判的思考スキル	中学3年「これからの数学3」 第5章 相似 第1節 相似な図形 ① 相似な図形の性質 ② 三角形の相似条件 ③ 相似な図形の面積比 ④ 相似な立体とその性質 第2節 平行線と線分の比 ① 三角形と比 ② 中点連結定理 ③ 平行線と線分の比 第3節 相似の利用 ① 縮図の利用 ② 相似の利用	単元テスト[A] 相似に関する知識、理解、問題解決能力、証明能力を総合的に評価するテスト。 レポート課題[B C D] 授業内容をまとめたり、自分の考えた内容を書く。図や絵を用いて説明してもよい。 最終レポート：イラストの2倍拡大イラストの出来映えではなく、習ったことをうまく使って描けているかを見る。 授業内のグループワーク[C D] 少人数のグループで課題解決に取り組む。実力関係なく、課題について考える姿勢を評価対象として見る。	①知識・技能-A,B ②思考・判断・表現-B,D ③主体的に学習に取り組む態度-C,D
2学期	2	1:関係性 2:科学技術の革新 3:創造的思考・転移スキル	中学3年「これからの数学3」 第6章 円 第1節 円 ① 円周角の定理 ② 円周角の定理の利用 ③ 円の性質の利用 中学3年「これからの数学3」 第7章 三平方の定理 第1節 三平方の定理 ① 三平方の定理 ② 三平方の定理の逆 第2節 三平方の定理の利用 ① 平面図形への利用 ② 空間図形への利用	単元テスト[A] 円や三平方の定理に関する知識、理解、問題解決能力、証明能力を総合的に評価するテスト。 レポート課題[B C D] 授業内容をまとめたり、自分の考えた内容を書く。図や絵を用いて説明してもよい。 円周角の定理・三平方の定理をうまく使って証明問題に取り組んでいるかを見る。 授業内のグループワーク[C D] 少人数のグループで課題解決に取り組む。実力関係なく、課題について考える姿勢を評価対象として見る。	①知識・技能-A,B ②思考・判断・表現-B,D ③主体的に学習に取り組む態度-C,D
3学期	3	1:関係性 2:科学技術の革新 3:コミュニケーション・協働スキル・創造的思考スキル	「高等学校 数学A」 準備 集合 「高等学校 数学A」 第3章 数学と人間の活動 中学の振り返り	単元テスト[A] 集合に関する知識、理解、問題解決能力、証明能力を総合的に評価するテスト。 レポート課題[B C D] 授業内容をまとめたり、自分の考えた内容を書く。図や絵を用いて説明してもよい。 主に数学的知識を用いることで有利に働くゲームの必勝法を考えたり、パズルを解く活動を行う。 授業内のグループワーク[C D] 少人数のグループで課題解決に取り組む。正解にたどりつくまでにどれだけ考えたかを中心に見る。	①知識・技能-A,B ②思考・判断・表現-B,D ③主体的に学習に取り組む態度-C,D

教科	理科	科目	理科	単位数	3.5	対象学年	中学1年生 MYP years 2
MYP科目群	理科					対象クラス	SA・C・AC
使用教科書	啓林館 未来へひろがるサイエンス1						
使用教材 (副教材)	iワーク						

科目のねらい

<ul style="list-style-type: none"> 科学とその意味するものを理解し正しく認識すること。 科学を利益と限界を伴った人間の試みとみなすこと。 疑問を抱き、問題を解決し、説明を構築し、議論を判断する、分析的で探究的かつ柔軟な思考を養うこと。 調査を計画・実施し、証拠を評価し、結論に達するスキルを養うこと。 効果的に協働しコミュニケーションをとる必要性を意識すること。 実世界における多様な文脈で言語スキルと知識を活用すること。 生物環境と非生物環境に対して敏感になること。 学習経験を振り返り、確かな情報に基づく選択をすること。

目標および評価規準

MYP 評価観点	
A: 知識と理解	i) 科学的知識の概要を述べること
	ii) 科学的知識および理解を応用して、なじみのある状況で設定された問題を解決し、なじみのない状況で設定された問題の解決案を提案すること
	iii) 情報を解釈して科学的に裏づけられた判断をすること
B: 探究とデザイン	i) 科学的調査によって検証されるための問題または適切な調査課題の概要を述べること
	ii) 科学的合理性に基づいて検証可能な予測の概要を述べること
	iii) 変数の操作方法と、どのようにしてデータを収集するかを述べること
	iv) 科学的調査を計画すること
C: 手法と評価	i) 収集し、変換したデータを提示すること
	ii) 科学的合理性に基づいて、データを解釈し結果の概要を述べること
	iii) 科学的調査の結果に基づいて予測の妥当性を論ずること
	iv) 方法の妥当性を論ずること
	v) 方法の改善または拡張を詳しく述べること
D: 科学的影響の振り返り	i) 具体的な問題または課題に対処するために、科学を利用・応用する方法を要約すること
	ii) 具体的な問題または課題を解決する際に、科学およびその応用を用いることの意味を述べ、要約すること
	iii) 科学的言語を効果的に用いること
	iv) 他者の成果と用いた情報に対して出典をつけること

関連概念（学習を通して、生徒は以下の概念についても考えます）

バランス	結果	エネルギー	環境
エビデンス	形式	機能	相互作用
モデル	運動	パターン	変化

年間計画

学期	ユニット	1:重要概念 2:グローバルな文脈 3:ATL	学習内容・教材等	総合的評価課題の MYP 評価観点 ([]内) および課題概要と評価方法	学習指導要領観点との対応
1学期	1 (生物)	1:体系 2:アイデンティティーと関係性 3:思考, コミュニケーション, リサーチ	自然の中にあふれる生命 1 身のまわりの生物の観察 2 生物のなかま分けのしかた いろいろな生物と共通点 第1章 植物の特徴と分類 1 花のつくり 2 子葉・葉・根のつくり 3 種子をつくらない植物 4 植物の分類 第2章 動物の特徴と分類 1 動物のからだのつくりと生活 2 背骨のある動物 3 背骨のない動物 4 動物の分類	「分類表を作成し、未知の生物を分類せよ！」 【A】知識と理解：作成した分類表に一貫性があり、未知の生物も根拠を基に分類できるか 【D】科学的影響の振り返り：生物の分類がどのような部分で役立っているかを述べられるか	知識・技能-[A][D], 期末考査 思考力・判断力・表現力等-[A][D], 期末考査 主体的に学習に取り組む態度-[A][D], 自学ノート
	2学期	2 (化学)	1:関係性 2:グローバル化と持続可能性 3:思考, コミュニケーション, リサーチ	身のまわりの物質 第1章 いろいろな物質とその性質 1 物質の区別 2 重さ・体積と物質の区別 身のまわりの物質 第2章 いろいろな気体とその性質 1 気体の区別 2 身のまわりのものから発生した気体の区別 第3章 水溶液の性質 1 物質のとけ方 2 濃さの表し方 3 溶質のとけ出し方 第4章 物質のすがたとその変化 1 物質のすがたの変化 2 状態変化と温度 3 混合物の分け方	「物質探偵団 ～正体不明の物質を特定せよ～」 【B】探究とデザイン：正体不明の物質を特定するために必要な知識と技法を考えているか 【C】手法と評価：正体不明の物質を特定するための実験から得られたデータを資格化して述べられているか
3学期		3 (物理)	1:関係性 2:科学技術の革新 3:思考, 社会性, 自己管理	光・音・力による現象 第2章 音による現象 1 音の伝わり方 2 音の大小と高低 光・音・力による現象 第1章 光による現象 1 光の進み方 2 光が通りぬけるときのような 3 レンズのはたらき 第3章 力による現象 1 力のはたらき 2 力の大きさのはかり方 3 力の表し方 4 1つの物体に2つの力がはたらくとき	「光・音・力の正体を探ろう～見えないエネルギーの法則性～」 【B】探究とデザイン：身近な現象のメカニズム(原理)をエネルギーとともに理解しているか 【C】手法と評価：現象のメカニズムを実験によって再現できているか
	4 (地学)	1:変化 2:空間的および時間的な位置づけ 3:思考, コミュニケーション, リサーチ	活きている地球 第1章 身近な大地 1 身近な大地の変化 2 地域の大地の観察 第2章 ゆれる大地 1 地震の発生とゆれの伝わり方 2 ゆれの大きさ 3 日本列島の地震 第3章 火をふく大地 1 火山の噴火 2 マグマの性質と火山 3 マグマからできた岩石 第4章 語る大地 1 地層のでき方と広がり 2 地層の岩石 3 地層・化石と大地の歴史 4 大地の恵みと災害	「変動する大地とどう共生する？」 【A】知識と理解：大地はどのように変動するかをモデル化できているか 【D】科学的影響の振り返り：大地の変化がもたらす恩恵と人間生活を関連付けて視覚化できているか	知識・技能-[A][D], 期末考査 思考力・判断力・表現力等-[A][D], 期末考査 主体的に学習に取り組む態度-[A][D], 自学ノート

教科	理科	科目	理科	単位数	4	対象学年	中学2年生 MYP years 3
MYP科目群	理科					対象クラス	Dクラス
使用教科書	未来へひろがるサイエンス2						
使用教材 (副教材)	iワーク(育伸社)						

科目のねらい

<ul style="list-style-type: none"> 科学とその意味するものを理解し正しく認識すること。 科学を利益と限界を伴った人間の試みとみなすこと。 疑問を抱き、問題を解決し、説明を構築し、議論を判断する、分析的で探究的かつ柔軟な思考を養うこと。 調査を計画・実施し、証拠を評価し、結論に達するスキルを養うこと。 効果的に協働しコミュニケーションをとる必要性を意識すること。 実世界における多様な文脈で言語スキルと知識を活用すること。 生物環境と非生物環境に対して敏感になること。 学習経験を振り返り、確かな情報に基づく選択をすること。

目標および評価規準

MYP 評価観点	
A: 知識と理解	i) 科学的知識を詳しく述べること
	ii) 科学的知識および理解を用いて、なじみのある状況およびなじみのない状況で設定された問題を解決すること
	iii) 情報を分析して科学的に裏づけられた判断をすること
B: 探究とデザイン	i) 科学的調査によって検証される問題または疑問を詳しく述べること
	ii) 検証可能な仮説の概要を述べ、科学的合理性をもって説明すること
	iii) 変数の操作方法を詳しく述べ、どのようにしてデータを収集するかを詳しく述べること
	iv) 科学的調査を計画すること
C: 手法と評価	i) 収集して変換したデータを提示すること
	ii) 科学的合理性に基づいて、データを解釈し結果を詳しく述べること
	iii) 科学的調査の結果に基づいて仮説の妥当性を論ずること
	iv) 方法の妥当性を論ずること
	v) 方法の改善または拡張について詳しく述べること
D: 科学的影響の振り返り	i) 具体的な問題または課題に対処するために科学を応用および利用する方法を詳しく述べること
	ii) 具体的な問題または課題を解決する際に、科学およびその応用を用いることの意味を議論して分析すること
	iii) 科学的言語を効果的に用いること
	iv) 他者の成果と用いた情報を記録すること

関連概念（学習を通して、生徒は以下の概念についても考えます）

バランス	結果	エネルギー	環境
エビデンス	形式	機能	相互作用
モデル	運動	パターン	変化

年間計画

学期	ユニット	1:重要概念 2:グローバルな文脈 3:ATL	学習内容・教材等	総合的評価課題の MYP 評価観点 ([]内) および課題概要と評価方法	学習指導要領観点との対応
1学期	1 (化学)	1:変化 2:科学技術の革新 3:思考、コミュニケーション、管理・調整	化学変化と原子・分子 1章 物質の成り立ち 2章 物質の表し方 3章 さまざまな化学変化 4章 化学変化と物質の質量	確認テスト【A,B】 レポート作成【C,D】 化学式や化学反応式、水の電気分解、 日本刀の製造、化学変化による温度変化	①知識・技能-A、B ②思考・判断・表現-C ③主体的に学習に取り組む態度-D
	2 (生物)	1:体系 2:機能、モデル 3:創造的思考	生物の体のつくりとはたらき 1章 生物の体をつくるもの 2章 植物の体のつくりとはたらき 3章 動物の体のつくりとはたらき 4章 動物の行動のしくみ	確認テスト【A,B,C】 レポート作成【A,B,C】 「生命の本質は細胞で説明できるのか？」 2～4章の内容を各グループでまとめる	①知識・技能-A、B ②思考・判断・表現-C ③主体的に学習に取り組む態度-B
2学期	3 (地学)	1:変化 2:機能、モデル 3:創造的思考、コミュニケーション	地球の大気と天気の変化 1章 地球をとり巻く大気のように 2章 空気中の水の変化 3章 天気の変化と大気の動き 4章 大気の動きと日本の四季	確認テスト【A】 レポート作成【C,D】 水の沸点と大気圧の関係性、雲のでき方	①知識・技能-A ②思考・判断・表現-C ③主体的に学習に取り組む態度-D
3学期	4 (物理)	1:関係性 2:科学技術の革新 3:創造的思考、コミュニケーション	電流とその利用 1章 電流の性質 2章 電流の正体 3章 電流と磁界	レポート作成【B,C,D】 回路に流れる電流、回路に加わる電圧、 電圧と電流の関係、電流による発熱量、 電流がつくる磁界、電流が磁界から受ける力、 発電の仕組み	①知識・技能-B ②思考・判断・表現-B,C ③主体的に学習に取り組む態度-D

教科	理科	科目	理科	単位数	4	対象学年	中学3年生 MYP years 4
MYP科目群	理科					対象クラス	C・AC
使用教科書	啓林館 未来へ広がるサイエンス3						
使用教材 (副教材)	iワーク 理科中3(啓林館準拠)						

科目のねらい

<ul style="list-style-type: none"> 科学とその意味するものを理解し正しく認識すること。 科学を利益と限界を伴った人間の試みとみなすこと。 疑問を抱き、問題を解決し、説明を構築し、議論を判断する、分析的で探究的かつ柔軟な思考を養うこと。 調査を計画・実施し、証拠を評価し、結論に達するスキルを養うこと。 効果的に協働しコミュニケーションをとる必要性を意識すること。 実世界における多様な文脈で言語スキルと知識を活用すること。 生物環境と非生物環境に対して敏感になること。 学習経験を振り返り、確かな情報に基づく選択をすること。

目標および評価規準

MYP 評価観点	
A: 知識と理解	i) 科学的知識を詳しく述べること
	ii) 科学的知識および理解を用いて、なじみのある状況およびなじみのない状況で設定された問題を解決すること
	iii) 情報を分析して科学的に裏づけられた判断をすること
B: 探究とデザイン	i) 科学的調査によって検証される問題または疑問を詳しく述べること
	ii) 検証可能な仮説の概要を述べ、科学的合理性をもって説明すること
	iii) 変数の操作方法を詳しく述べ、どのようにしてデータを収集するかを詳しく述べること
	iv) 科学的調査を計画すること
C: 手法と評価	i) 収集して変換したデータを提示すること
	ii) 科学的合理性に基づいて、データを解釈し結果を詳しく述べること
	iii) 科学的調査の結果に基づいて仮説の妥当性を論ずること
	iv) 方法の妥当性を論ずること
	v) 方法の改善または拡張について詳しく述べること
D: 科学的影響の振り返り	i) 具体的な問題または課題に対処するために科学を応用および利用する方法を詳しく述べること
	ii) 具体的な問題または課題を解決する際に、科学およびその応用を用いることの意味を議論して分析すること
	iii) 科学的言語を効果的に用いること
	iv) 他者の成果と用いた情報を記録すること

関連概念 (学習を通して、生徒は以下の概念についても考えます)

バランス	結果	エネルギー	環境
エビデンス	形式	機能	相互作用
モデル	運動	パターン	変化

年間計画

学期	ユニット	1:重要概念 2:グローバルな文脈 3:ATL	学習内容・教材等	総合的評価課題の MYP 評価観点 ([]内) および課題概要と評価方法	学習指導要領観点との対応
1学期	1 (化学)	1: 変化 2: 科学技術の革新 3: 批判的思考・協働スキル	物質分野:「化学変化とイオン」 1章: 水溶液とイオン 2章: 電池とイオン 3章: 酸・アルカリと塩	中和反応の仮説と実験計画の立案【B】 金属のイオンへのなりやすさをグラフ・表に整理し、考察するレポート【C】	①知識・技能-B ②思考・判断・表現-C ③主体的に学習に取り組む態度-B
	2 (生物)	1: 変化 2: 科学技術の革新 3: コミュニケーション・批判的思考スキル	生命分野:「生命の連続性」 章: 生物のふえ方と成長 2章: 遺伝の規則性と遺伝子 3章: 生物の種類の多様性と進化	1 遺伝子や細胞の構造・働きについての知識確認テスト【A】 遺伝情報の利用技術に関する考察【B、D】	①知識・技能-A、B ②思考・判断・表現-B、D ③主体的に学習に取り組む態度-D
2学期	3 (物理)	1: 関係性 2: 空間的・時間的位置づけ 3: コミュニケーション・批判的思考スキル	力学分野:「運動とエネルギー」 1章: 力の合成と分解 2章: 物体の運動 章: 仕事とエネルギー 章: 多様なエネルギーとその移り変わり 5章: エネルギー資源とその利用	運動と力に関する問題解決型小テスト【A】 斜面上の運動の仮説と実験設計(グループで立案)【B】 物体にはたらくエネルギーのデータ処理とグラフ化、結果の解釈をレポートにまとめる【C】	①知識・技能-A、B ②思考・判断・表現-B、C ③主体的に学習に取り組む態度-B、C
	4 (地学)	1: 形式 2: 個人的表現と文化的表現、時間的・空間的位置づけ 3: 管理調整、批判的思考・転移スキル	天体分野:「宇宙を観る」 章: 宇宙の正体 章: 太陽と恒星の動き 3章: 月と金星の動きと見え方	1 地球の運動と月の満ち欠けに関する理解を問う小テスト【A】 2 天体の動きと暦・生活のつながりに関するプレゼン発表【D】	①知識・技能-A ②思考・判断・表現-D ③主体的に学習に取り組む態度-D
3学期	5 (環境)	1: 相互作用 2: 持続可能性 3: 調査・問題解決スキル	環境分野:「自然と人間」 章: 自然界のつり合い 章: さまざまな物質の利用と人間 3章: 科学技術の発展 章: 人間と環境 章: 持続可能な社会を目指して	1 温暖化・物質循環の理解テスト【A】 2 地域の環境課題に関する調査計画の立案(仮説・変数)【B】 4 調査・統計資料をもとにデータ処理と分析を行う【C】 5 科学的視点をもとにした提案ポスターを作成し、プレゼンする【D】	①知識・技能-A、C ②思考・判断・表現-B、C ③主体的に学習に取り組む態度-D

教科	音楽	科目	音楽	単位数	1.3	対象学年	中学1年生 MYP years 2
MYP科目群	芸術（音楽）					対象クラス	SA・C・AC
使用教科書	中学音楽 音楽のおくりもの 音楽1、器楽						
使用教材 (副教材)	コーラスフェスティバル、アルトリコーダー						

科目のねらい

<ul style="list-style-type: none"> 生涯にわたって芸術とのかかわりを楽しむ。 さまざまな時代、文化、文脈にわたって芸術を探究する。 芸術とその文脈の間の関係性を理解する。 芸術の創作や実演に必要なスキルを培う。 アイデアを創造的に表現する。 若い芸術家としての自分の成長を振り返る。
--

目標および評価規準

MYP 評価観点	
A: 調査	i) 探究テーマに関連して、選択した芸術分野のムーブメントやジャンルを調査する
	ii) 選択したムーブメントやジャンルの芸術作品またはパフォーマンスについて詳しく述べる
B: 発展	i) 実践的にアイデアを探究し、芸術作品やパフォーマンスの完成に向けた取り組みに活かす
	ii) 最終的な芸術作品やパフォーマンスの芸術的意図を、探究テーマに沿って明確に提示する
C: 創作・実演	i) 芸術作品を創作または実演する
D: 評価	i) 自分の芸術作品やパフォーマンスを評価する
	ii) 芸術家としての自分の成長を振り返る

関連概念（学習を通して、生徒は以下の概念についても考えます）

受け手	境界	構成	表現
ジャンル	革新	解釈	物語
劇・戯曲	発表	役	構造

年間計画

学期	ユニット	1:重要概念 2:グローバルな文脈 3:ATL	学習内容・教材等	総合的評価課題の MYP 評価観点 （【 】内） および課題概要と評価方法	学習指導要領観点との対応
1学期	unit1	1:変化 2:チーム、役割 3:創造的思考スキル	・くいしんぼうのラップ ・Let's Search for Tomorrow ・喜びの歌 ・魔王	くいしんぼうのラップ発表会【B】【C】 3人1組となり、「くいしんぼうのラップ」の発表を行う。言葉がもつリズムについて考え、3つのパートの掛け合いを音楽的に表現する。また、楽譜に書いている記号以外の表現を実践的に探究する。 評価方法【B】【C】：実技	①知識・技能-C ②思考判断表現-B ③主体的に取り組む態度-B
2学期	unit2	1:コミュニケーション 2:個人の能力の有用性とエージェンシー 3:協働スキル	・合唱コンクールクラス曲 ・ヴァイオリン協奏曲「四季」より「春」	合唱コンクール【B】【C】【D】 他者の見解に耳を傾けながら改善点を見つけ、発表までの練習過程について実践的探究を示すと同時に自身のパフォーマンスについて評価する。 評価方法【B】【D】：ワークシート 【C】実技	①知識・技能-C ②思考・判断・表現-B ③主体的に学習に取り組む態度-D
3学期	unit3	1:美的感性 2:分析と議論 3:批判的思考スキル	・蛍の光 ・組曲「展覧会の絵」	絵から音楽、音楽から絵へ【A】【B】 作曲の経緯や時代背景について調査し、自分の思い浮かべた情景やイメージと音楽を形づくっている要素とのかかわりについて触れながら作品の解説を書く。	①知識・技能-A ②思考・判断・表現-B ③主体的に学習に取り組む態度-AB

教科	音楽	科目	音楽	単位数	1	対象学年	中学2年生 MYP years 3
MYP科目群	芸術（音楽）					対象クラス	C・AC
使用教科書	中学音楽 音楽のおくりもの 音楽2・3上、2・3下、器楽						
使用教材 (副教材)	コーラスフェスティバル、アルトリコーダー						

科目のねらい

<ul style="list-style-type: none"> 生涯にわたって芸術とのかかわりを楽しむ。 さまざまな時代、文化、文脈にわたって芸術を探究する。 芸術とその文脈の間の関係性を理解する。 芸術の創作や実演に必要なスキルを培う。 アイデアを創造的に表現する。 若い芸術家としての自分の成長を振り返る。
--

目標および評価規準

MYP 評価観点	
A: 調査	i) 探究テーマに関連して、選択した芸術分野のムーブメントやジャンルを調査する
	ii) 選択したムーブメントやジャンルの芸術作品またはパフォーマンスを分析する
B: 発展	i) 実践的にアイデアを探究し、芸術作品やパフォーマンスの完成に向けた取り組みに活かす
	ii) 最終的な芸術作品やパフォーマンスの芸術的意図を、探究テーマに沿って明確に提示する
C: 創作・実演	i) 芸術作品を創作または実演する
D: 評価	i) 自分の芸術作品やパフォーマンスを評価する
	ii) 芸術家としての自分の成長を振り返る

関連概念（学習を通して、生徒は以下の概念についても考えます）

受け手	境界	構成	表現
ジャンル	革新	解釈	物語
劇・戯曲	発表	役	構造

年間計画

学期	ユニット	1:重要概念 2:グローバルな文脈 3:ATL	学習内容・教材等	総括的評価課題の MYP 評価観点 （【 】内） および課題概要と評価方法	学習指導要領観点との対応
1学期	1	1.変化 2.空間的・時間的位置づけ[時代] 3.メディアリテラシースキル	・合唱曲「COSMOS」 ・アメージンググレイス ・歌舞伎「勧進帳」	リコーダーでの表現の幅を広げる【C】 より高難度な運指に取り組み、自分の思いや意図を楽器を用いて表現する方法を実践的に探究し、自身のパフォーマンスについて評価する。	①知識・技能-C ②思考・判断・表現-C ③主体的に学習に取り組む態度-C
2学期	2	1:コミュニケーション 2:個人の能力の有用性とエージェンシー 3:協働スキル	・合唱コンクールクラス曲 ・バレエ音楽「ボレロ」 ・大きな古時計	合唱コンクール【B】【C】【D】 他者の見解に耳を傾けながら改善点を見つけ、発表までの練習過程について実践的探究を示すと同時に自身のパフォーマンスについて評価する。	①知識・技能-C ②思考・判断・表現-B ③主体的に学習に取り組む態度-D
3学期	3	1:美的感性 2:個人的・文化的表現 3:批判的思考スキル	・交響曲第5番	二重奏のアンサンブルの楽曲演奏に取り組み、表現者が音楽を通してコミュニケーションすることで、楽曲の良さや美しさを音楽を形づくっている要素の特徴と関わらせて表現する。	①知識・技能-A ②思考・判断・表現-B ③主体的に学習に取り組む態度-AB

教科	音楽	科目	音楽	単位数	1	対象学年	中学3年生 MYP years 4
MYP科目群	芸術（音楽）					対象クラス	C・AC
使用教科書	中学音楽 音楽のおくりもの 音楽2・3上、2・3下、器楽						
使用教材 (副教材)	コーラスフェスティバル、アルトリコーダー						

科目のねらい

<ul style="list-style-type: none"> 生涯にわたって芸術とのかかわりを楽しむ。 さまざまな時代、文化、文脈にわたって芸術を探究する。 芸術とその文脈の間の関係性を理解する。 芸術の創作や実演に必要なスキルを培う。 アイデアを創造的に表現する。 若い芸術家としての自分の成長を振り返る。
--

目標および評価規準

MYP 評価観点	
A: 調査	i) 探究テーマに関連して、選択した芸術分野のムーブメントやジャンルを調査する
	ii) 選択したムーブメントやジャンルの芸術作品またはパフォーマンスを分析する
B: 発展	i) 実践的にアイデアを探究し、芸術作品やパフォーマンスの完成に向けた取り組みに活かす
	ii) 最終的な芸術作品やパフォーマンスの芸術的意図を、探究テーマに沿って明確に提示する
C: 創作・実演	i) 芸術作品を創作または実演する
D: 評価	i) 自分の芸術作品やパフォーマンスを評価する
	ii) 芸術家としての自分の成長を振り返る

関連概念（学習を通して、生徒は以下の概念についても考えます）

受け手	境界	構成	表現
ジャンル	革新	解釈	物語
劇・戯曲	発表	役	構造

年間計画

学期	ユニット	1:重要概念 2:グローバルな文脈 3:ATL	学習内容・教材等	総括的評価課題の MYP 評価観点 （【 】内）および課題概要と評価方法	学習指導要領観点との対応
1学期	1	1.変化 2.空間的・時間的位置づけ[時代] 3.メディアリテラシースキル	・合唱曲「あなたへ」 ・サザエさん ・オペラ「アイーダ」	総合芸術の魅力【A】【B】 オペラ「アイーダ」を鑑賞し、芸術鑑賞会でのミュージカル、昨年度既習の歌舞伎との比較鑑賞によって感じた類似点または相違点から、2つの視点を結び付けて「総合芸術の魅力」を論ずる。また、鎌倉・江戸時代の文化をどのように芸術として表現しているかについて考察する。	①知識・技能-A ②思考・判断・表現-B ③主体的に学習に取り組む態度-B
2学期	2	1:コミュニケーション 2:個人の能力の有用性とエージェンシー 3:協働スキル	・合唱コンクールクラス曲 ・バレエ音楽「モルダウ」	合唱コンクール【B】【C】【D】 他者の見解に耳を傾けながら改善点を見つけ、発表までの練習過程について実践的探究を示すと同時に自身のパフォーマンスについて評価する。	①知識・技能-C ②思考・判断・表現-B ③主体的に学習に取り組む態度-D
3学期	3	1:美的感性 2:個人的・文化的表現 3:コミュニケーションスキル	・旅立ちの日に	卒業式での学年合唱に向けて【B】【D】 卒業に際し、自らの3年間の学校生活を振り返り、楽曲の良さや美しさを音楽を形づくっている要素の特徴と関わらせて表現する。	①知識・技能-B ②思考・判断・表現-B ③主体的に学習に取り組む態度-D

教科	美術	科目	美術	単位数	1.3	対象学年	中学1年生 MYP years 2
MYP科目群	芸術（美術）					対象クラス	SA・C・AC
使用教科書	美術 1 (光村図書)						
使用教材 (副教材)	美術 I 資料(光村図書)						

科目のねらい

<ul style="list-style-type: none"> 生涯にわたって芸術とのかかわりを楽しむ。 さまざまな時代、文化、文脈にわたって芸術を探究する。 芸術とその文脈の間の関係性を理解する。 芸術の創作や実演に必要なスキルを培う。 アイデアを創造的に表現する。 若い芸術家としての自分の成長を振り返る。
--

目標および評価規準

MYP 評価観点	
A: 調査	i) 探究テーマに関連して、選択した芸術分野のムーブメントやジャンルを調査する
	ii) 選択したムーブメントやジャンルの芸術作品またはパフォーマンスについて詳しく述べる
B: 発展	i) 実践的にアイデアを探究し、芸術作品やパフォーマンスの完成に向けた取り組みに活かす
	ii) 最終的な芸術作品やパフォーマンスの芸術的意図を、探究テーマに沿って明確に提示する
C: 創作・実演	i) 芸術作品を創作または実演する
D: 評価	i) 自分の芸術作品やパフォーマンスを評価する
	ii) 芸術家としての自分の成長を振り返る

関連概念（学習を通して、生徒は以下の概念についても考えます）

受け手	境界	構成	表現
ジャンル	革新	解釈	物語
発表	表象	様式	視覚文化

年間計画

学期	ユニット	1:重要概念 2:グローバルな文脈 3:ATL	学習内容・教材等	総合的評価課題の MYP 評価観点 （【】内）および課題概要と評価方法	学習指導要領観点との対応
1学期	2	1:変化 2:科学技術の革新 3:コミュニケーション、整理整頓、情動、振り返り、批判的思考、創造的思考、転移	「水彩で描く」 絵や彫刻で表す A 表現 (1) ア(ア) B 鑑賞 (1) ア(イ) 共通事項ア 教材 アクリル絵の具 スケッチブック 鉛筆 ねりけし 光村図書『美術 1 資料』P2～7、30～35	色の原理を踏まえた色相環を制作する【B】【C】 色の三原色や混色による色の変化と いった、美術における基礎知識を体感しながらリサーチし、色の変化や科学技術について考察する。考察を踏まえ、実際に色相環を作図する。 評価方法【B】【C】：実技	①知識・技能 C ②思考・判断・表現力 B ③主体的に取り組む態度 B
2学期	4	1.美的感性 2.空間的および時間的な位置づけ 3.コミュニケーション、整理整頓、情動、振り返り、批判的思考、創造的思考、転移	「空間と光・影」 絵やデザインで表す A 表現 (1)イ(ウ) B 鑑賞 (1)ア(イ) 教材 アクリル絵の具 スケッチブック 鉛筆 ねりけし ライト 日本文教出版美術 2.3 上 P36.37	空間と光の美しさが表れた靴のデッサンを描く【A】【C】 光と影による色彩の変化とモノの位置関係などに着目し、空間に与える変化が身近なものにどのような影響を与えるのか考察する。そして調べた作品に対して自分なりの考察を説明できているかを評価する。完成した作品から、技能面(デッサン、着色、デザインの再現度)を評価する 評価方法【A】：レポート 評価方法【C】：実技	①知識・技能 C ②思考・判断・表現力 A ③主体的に取り組む態度 A
3学期	6	1.コミュニケーション 2.個人的表現と文化的表現 3. 整理整頓、情動、振り返り、情報リテラシー、メディアリテラシー	「暮らしの中のデザイン」 デザインや工芸 A 表現 (1) イ(イ) B 鑑賞 (1) ア(ア) 共通事項ア 教材 グリーティングカード 日本文教出版『美術 1』P50.51	想いを込めたメッセージカード制作【B】【D】 完成した作品やレポートの記述から、テーマ設定に対して、効果的な表現・工夫が施されているか、情報量を評価する。 評価方法【B】：レポート 評価方法【D】：実技	①知識・技能 B ②思考・判断・表現力 B ③主体的に取り組む態度 D

教科	美術	科目	美術	単位数	1	対象学年	中学2年生 MYP years 3
MYP科目群	芸術（美術）					対象クラス	C・AC
使用教科書	光村図書2・3						
使用教材 (副教材)	スケッチブック、樹脂粘土、アクリルガッシュ、版木						

科目のねらい

<ul style="list-style-type: none"> 生涯にわたって芸術とのかかわりを楽しむ。 さまざまな時代、文化、文脈にわたって芸術を探究する。 芸術とその文脈の間の関係性を理解する。 芸術の創作や実演に必要なスキルを培う。 アイデアを創造的に表現する。 若い芸術家としての自分の成長を振り返る。
--

目標および評価規準

MYP 評価観点	
A: 調査	i) 探究テーマに関連して、選択した芸術分野のムーブメントやジャンルを調査する
	ii) 選択したムーブメントやジャンルの芸術作品またはパフォーマンスを分析する
B: 発展	i) 実践的にアイデアを探究し、芸術作品やパフォーマンスの完成に向けた取り組みに活かす
	ii) 最終的な芸術作品やパフォーマンスの芸術的意図を、探究テーマに沿って明確に提示する
C: 創作・実演	i) 芸術作品を創作または実演する
D: 評価	i) 自分の芸術作品やパフォーマンスを評価する
	ii) 芸術家としての自分の成長を振り返る

関連概念（学習を通して、生徒は以下の概念についても考えます）

受け手	境界	構成	表現
ジャンル	革新	解釈	物語
発表	表象	様式	視覚文化

年間計画

学期	ユニット	1:重要概念 2:グローバルな文脈 3:ATL	学習内容・教材等	総括的評価課題の MYP 評価観点 （【 】内） および課題概要と評価方法	学習指導要領観点との対応
1学期	1	1:コミュニケーション 2:個人的表現と文化的表現 3:創造的思考スキル	・樹脂粘土での和菓子制作	日本の良さが伝わる和菓子を作る。【B】【C】 日本の伝統的な菓子である和菓子の形や色に込められた意味をリサーチし、文化的な視点から独自のデザインを考案する。視覚的に美しく、文化的背景が伝わるよう工夫して樹脂粘土による和菓子を作成する。和菓子の形や色に込められた意味を調べ、自分なりの表現を加えたオリジナルの和菓子を作成する。 評価方法【B】【C】：実技	①知識・技能-C ②思考・判断・表現-C ③主体的に学習に取り組む態度-B
2学期	2	1:アイデンティティー 2:空間的・時間的位置づけ 3:創造的思考スキル	木版画作成	単色木版画を作成する。【A】【D】 木版画を作成し、構図や陰影、余白について学ぶ。また、浮世絵の歴史について調べ、ジャポニスムや象徴主義の作品と自らが作成した版画を比較し評価する。 評価方法【A】：作品 【D】：レポート	①知識・技能-D ②思考・判断・表現-A ③主体的に学習に取り組む態度-D
3学期	3	1:美的感性 2:個人的表現と文化的表現 3:情動スキル	・鉛筆デッサン	鳥の剥製デッサン【C】 鳥の剥製を骨格・生態について学びながら観察し、光と影・テクスチャーの表現技術を身に付け、鳥の形態や質感を鉛筆デッサンで忠実に再現する。 評価方法【C】：実技	①知識・技能-C ②思考・判断・表現-C ③主体的に学習に取り組む態度-C

教科	美術	科目	美術	単位数	1	対象学年	中学3年生 MYP years 4
MYP科目群	芸術（美術）					対象クラス	C・AC
使用教科書	光村図書2・3						
使用教材 (副教材)	スケッチブック、箱						

科目のねらい

<ul style="list-style-type: none"> 生涯にわたって芸術とのかかわりを楽しむ。 さまざまな時代、文化、文脈にわたって芸術を探究する。 芸術とその文脈の間の関係性を理解する。 芸術の創作や実演に必要なスキルを培う。 アイデアを創造的に表現する。 若い芸術家としての自分の成長を振り返る。
--

目標および評価規準

MYP 評価観点	
A: 調査	i) 探究テーマに関連して、選択した芸術分野のムーブメントやジャンルを調査する
	ii) 選択したムーブメントやジャンルの芸術作品またはパフォーマンスを分析する
B: 発展	i) 実践的にアイデアを探究し、芸術作品やパフォーマンスの完成に向けた取り組みに活かす
	ii) 最終的な芸術作品やパフォーマンスの芸術的意図を、探究テーマに沿って明確に提示する
C: 創作・実演	i) 芸術作品を創作または実演する
D: 評価	i) 自分の芸術作品やパフォーマンスを評価する
	ii) 芸術家としての自分の成長を振り返る

関連概念（学習を通して、生徒は以下の概念についても考えます）

受け手	境界	構成	表現
ジャンル	革新	解釈	物語
発表	表象	様式	視覚文化

年間計画

学期	ユニット	1:重要概念 2:グローバルな文脈 3:ATL	学習内容・教材等	総括的評価課題の MYP 評価観点 （【 】内） および課題概要と評価方法	学習指導要領観点との対応
1学期	1	1:コミュニケーション 2:個人的表現と文化的表現 3:批判的思考スキル	コンセプチュアルアート	静物が語るもの【A】【B】【C】 コンセプチュアルアートについて学び、自らがテーマとしたものの作品の関連について述べ、タイトルと解説書をつけて展覧会を行う。 評価方法【A】【B】:解説書 【C】:実技	①知識・技能-C ②思考・判断・表現-B ③主体的に学習に取り組む態度-A
2学期	2	1:変化 2:アイデンティティーと関係性 3:創造的思考	ボックスアート、プレゼンテーション	15歳の私【C】【D】 中学卒業に向け、15歳の「今」の自分を表現するボックスアートの作成を行う。立体作品としての奥行きや空間、色彩感、素材などに焦点を当て、自分を表現する方法を実践的に探究する。また、作品をプレゼンテーションにまとめ、発表する。	①知識・技能-C ②思考・判断・表現-D ③主体的に学習に取り組む態度-D
3学期					

教科	保健体育	科目	保健体育	単位数	3	対象学年	中学1年生 MYP years 2
MYP科目群	保健体育					対象クラス	SA・C・ACクラス
使用教科書	最新 中学校保健体育（大修館）						
使用教材 (副教材)	ステップアップ体育						

科目のねらい

<ul style="list-style-type: none"> 探究的手法を使って保健体育の概念について探求すること。 さまざまな状況に効果的に参加すること。 身体活動の価値を理解すること。 健康的なライフスタイルを実現し、維持すること。 効果的に協働し、コミュニケーションを図ること。 ポジティブな人間関係を構築し、社会的責任を行動で示すこと。 自分の学習経験を振り返ること。

目標および評価規準

MYP 評価観点	
A: 知識と理解	i) 「保健体育」に関する、事実的、手続きの、概念的知識を簡単に述べること
	ii) なじみのある、あるいはなじみのない状況において設定された問題について詳しく述べ、解決するために必要な「保健体育」の知識を特定すること
	iii) 理解を伝えるために、「保健体育」の専門用語を使用すること
B: パフォーマンスの計画	i) パフォーマンスの改善に向けた目標を特定すること
	ii) 身体活動と健康を改善するための計画を作成し、それについて簡単に述べること
C: 応用と実践	i) 幅広いスキルや技術を思い出し、応用すること
	ii) 幅広い戦略や動きの概念を思い出し、応用すること
	iii) 効果的なパフォーマンスに必要な情報を思い出し、応用すること
D: パフォーマンスの振り返りと改善	i) 対人スキルを強化するための戦略を特定し、示す
	ii) 計画の有効性を、その成果に基づき詳しく述べること
	iii) パフォーマンスについて詳しく述べ、要約すること

関連概念（学習を通して、生徒は以下の概念についても考えます）

適応	バランス	選択	エネルギー
環境	機能	相互作用	運動
ものの見方	改良	空間	システム

年間計画

学期	ユニット	選択	1:重要概念 2:グローバルな文脈 3:ATL	学習内容・教材等	総合的評価課題の MYP 評価観点 ([]内) および課題概要と評価方法	学習指導要領観点との対応
1学期	1	男女	1.変化 2.アイデンティティ関係性 3.コミュニケーションスキル、批判的思考スキル、振り返りスキル	A.体づくりの運動 (ア.体ほぐしの運動・イ.体力を高める運動) 新体力テストは方法を理解し計測する。	[B] (個人) 新体力測定において種目選択し、記録を分析し動作をレポートにまとめる。(グループ) 学習計画を立て、進捗や活動を分析・評価する。他のグループの成果を観察評価を行い反省する。	②思考・判断・表現-B ③学びに向かう力-B
	2	男女	1.変化 2.科学的・技術的革新 3.コミュニケーションスキル・協働スキル・批判的思考スキル	C.陸上競技 (ア.短距離走・リレー)	[B] (個人) より良いバトンパスとなるように、自己やチームの状況を分析し、効果的な目標の設定と練習計画ができてきているかを評価する。 [C] (個人) スムーズなバトンパスができてきているかを評価する。	①知識・技能-B ②思考・判断・表現-C
	3	男女	1.変化 2.空間と時間 3.振り返りスキル	B.器械運動 (ア.マット)	[C] (個人) 回転系の技術習得・一連の動きの滑らかさ動に意識をして画像撮影を実施し試技と本番の比較をする。	①知識・技能-C
2学期	4	男子	1.発展 2.科学的・技術的革新 3.協働スキル、リサーチスキル、整理整頓スキル	E.球技 (サッカー)	[B] 個人の課題を発見し、改善に向けた練習の計画を立て実践する。 [C] ボールコントロールを身につけ、それを活かした簡易ゲームを行う。実技試験を行う。	①知識・技能-C ③学びに向かう力-B
		女子	1.関係 2.空間と時間 3.コミュニケーションスキル・協働スキル・振り返りスキル	E.球技 (バスケットボール)	[B] 自チームで選択した作戦が実行できるための練習計画を立てる。 [D] 振り返りの中で、自分たちのパフォーマンスを評価し、それに基づいて練習計画を再設計する。	②思考・判断・表現-D ③学びに向かう力-B
	5	男子	1.関係 2.アイデンティティと関わり合い 3.コミュニケーションスキル・協働スキル	F.武道 (ア.剣道)	[A] (個人) 剣道の行い方、礼法や他者へのマナーを身につける。 [C] (個人・2人組) 自己や相手の身を守る方法を知り、実践する。受け、打ち込み、引き技の実技試験を行う。	①知識・技能-A,C
		女子	1.発展 2.個人的・文化的表現 3.コミュニケーションスキル・協働スキル・創造的思考スキル	G.ダンス (ア.創作ダンス) 実施種目: 創作ダンス	[A] 創作ダンスの歴史や作成方法をレポートにまとめる。 [B] (グループ) 学習計画を立て、進捗や活動を分析・評価する	①知識・技能-A ③学びに向かう力-B
	6	男子	1.伝達 2.空間と時間 3.協働スキル、批判的思考スキル	E.球技 (バレーボール)	[B] 個人技能のレベルアップとチームとしてのレベルアップに必要な計画を立て、その計画を評価する。 [C] サーブのセッターへの送球の正確性を評価する。学びで得た知識およびパフォーマンスを、動画をもとに示す。	②思考・判断・表現-B ③学びに向かう力-C
		女子	1.関係 2.アイデンティティと関わり合い 3.コミュニケーションスキル、協働スキル、振り返りスキル、批判的思考スキル	E.球技 (ソフトボール)	[B] (グループ) チームや個人の課題を発見し、改善に向けた練習計画を立てて実践する。進捗や活動を分析・評価する。 [D] 互いの活動を評価し、学習の振り返りをレポートにまとめる。他のグループの成果についても観察評価し、レポートにまとめる。	②思考・判断・表現-D ③学びに向かう力-B
3学期	7	男子	1.関係 2.アイデンティティと関わり合い 3.コミュニケーションスキル、協働スキル、振り返りスキル、批判的思考スキル	E.球技 (ソフトボール)	[B] (グループ) チームや個人の課題を発見し、改善に向けた練習計画を立てて実践する。進捗や活動を分析・評価する。 [D] 互いの活動を評価し、学習の振り返りをレポートにまとめる。他のグループの成果についても観察評価し、レポートにまとめる。	②思考・判断・表現-D ③学びに向かう力-B
		女子	1.関係 2.アイデンティティと関わり合い 3.コミュニケーションスキル・協働スキル	F.武道 (ア.剣道)	[A] (個人) 剣道の行い方、礼法や他者へのマナーを身につける。 [C] (個人・2人組) 自己や相手の身を守る方法を知り、実践する。受け、打ち込み、引き技の実技試験を行う。	①知識・技能-A,C
	8	男子	1.発展 2.個人的・文化的表現 3.コミュニケーションスキル・協働スキル・創造的思考スキル	G.ダンス (ウ.現代的なリズムのダンス) 実施種目: ヒップホップダンス	[A] ヒップホップの歴史やステップをレポートにまとめる。 [B] (グループ) 学習計画を立て、進捗や活動を分析・評価する	①知識・技能-A ③学びに向かう力-B
		女子	1.伝達 2.空間と時間 3.協働スキル、批判的思考スキル	E.球技 (バレーボール)	[B] 個人技能のレベルアップとチームとしてのレベルアップに必要な計画を立て、その計画を評価する。 [C] サーブのセッターへの送球の正確性を評価する。学びで得た知識およびパフォーマンスを、動画をもとに示す。	②思考・判断・表現-B ③学びに向かう力-C
通年	9	男女	1.伝達 2.科学的・技術的革新 3.協働スキル・振り返りスキル・情報リテラシースキル・メディアリテラシー・批判的思考スキル・創造的思考スキル・転移スキル	H.保健・体育理論	[A] (個人・グループ) 運動やスポーツの効果・学び方・安全について理解する 評価規準A (個人・グループ) 健康な生活と病気の予防やケガの防止と応急手当を自分と他者のこととしてとらえ、思考し、理解を深める。 [D] 何を学んだか、またその学びを今後の生活にどう活かすかを考え、文章にまとめる。	①知識・技能-A ②思考・判断・表現-D

教科	保健体育	科目	保健体育	単位数	3	対象学年	中学2年生 MYP years 3
MYP科目群	保健体育					対象クラス	C・AC
使用教科書	最新 中学校保健体育（大修館）						
使用教材 （副教材）	ステップアップ体育						

科目のねらい

<ul style="list-style-type: none"> 探究的手法を使って保健体育の概念について探求すること。 さまざまな状況に効果的に参加すること。 身体活動の価値を理解すること。 健康的なライフスタイルを実現し、維持すること。 効果的に協働し、コミュニケーションを図ること。 ポジティブな人間関係を構築し、社会的責任を行動で示すこと。 自分の学習経験を振り返ること。

目標および評価規準

MYP 評価観点	
A: 知識と理解	i) 「保健体育」に関する、事実的、手続的、概念的知識を詳しく述べる
	ii) なじみのある、あるいはなじみのない状況において設定された問題を説明し、解決するために、「保健体育」に関する知識を応用する
	iii) 理解を伝えるために、「保健体育」の専門用語を効果的に応用する
B: パフォーマンスの計画	i) パフォーマンスの改善に向けた目標を簡単に述べる
	ii) 身体能力と健康を改善するための計画を設計し、説明すること
C: 応用と実践	i) 幅広いスキルや技術を示し、応用すること
	ii) 幅広い戦略や動きの概念を示し、応用すること
	iii) 効果的なパフォーマンスに必要な情報を簡単に述べ、応用すること
D: パフォーマンスの振り返りと改善	i) 対人スキルを強化するための戦略を詳しく述べ、示す
	ii) 計画の有効性を、その成果に基づき説明する
	iii) パフォーマンスを説明し、評価する

関連概念（学習を通して、生徒は以下の概念についても考えます）

適応	バランス	選択	エネルギー
環境	機能	相互作用	運動
ものの見方	改良	空間	システム

年間計画

学期	ユニット	選択	1:重要概念 2:グローバルな文脈 3:ATL	学習内容・教材等	総合的評価課題の MYP 評価観点 ([]内) および課題概要と評価方法	学習指導要領 観点との対応
1学期	1	男女	1.変化 2.アイデンティティと関わり合い 3.コミュニケーションスキル・協働スキル・創造的思考スキル	A.体づくりの運動 (ア.体ほくしの運動・イ.体力を高める運動) 新体力テストは方法を理解し計測する	【A】(個人・グループ) 体の構造や運動の原則も考慮しながら、各種目の目的に適した準備運動を動画で作成する。作成に用いた知識をまとめ、作り上げた準備運動が適切であることを説明する記述を評価する。 【B】(個人) 準備運動を作成するにあたっての学習計画を立てて、進捗や活動を分析・自己評価しているかを評価する。 【D】(個人) 成果物の評価基準に照らし合わせて、作り上げた準備運動を詳細に振り返っているかを評価する。	①知識・技能-A ②学びに向かう力-B ③思考・判断・表現-D
	2	男女	1.ものの見方 2.科学的・技術的革新 3.コミュニケーションスキル・協働スキル	C.陸上競技 (ア.ハードル走)	【B】(個人) より良いハードリング動作となるように、自己の状況を分析し、効果的な目標の設定と練習計画ができていないかを評価する。 【C】(個人) スムーズなハードリング動作ができていないかを評価する。	①知識・技能-C ②学びに向かう力-B
	3	男女	1.伝達 2.空間と時間 3.コミュニケーションスキル・情動スキル・振り返りスキル	B.器械運動 (ア.マット)	【B】チームや個人の力を認識し、集団としての構成を計画的にプログラムする。 【C】グループにおける技の構成と個人の技能を評価する。	①知識・技能-C ②思考・判断・表現-B
2学期	4	男	1.関係 2.空間と時間 3.コミュニケーションスキル・協働スキル・振り返りスキル	E.球技 (ア.バスケットボール)	【B】自チームで選択した作戦が実行できるための練習計画を立てる。 【D】振り返りの中で、自分たちのパフォーマンスを評価し、それに基づいて練習計画を再設計する。	①学びに向かう力-B ②思考・判断・表現-D
		女	1.伝達 2.アイデンティティと関わり合い 3.協働スキル、創造的思考スキル、情報リテラシースキル	E.球技 (ア.ハンドボール)	【A】(個人) ハンドボールの技術、行い方をまとめているかを評価する。 【D】(個人) グループの戦術を評価し、レポートにまとめているかを評価する。	①知識・技能-A ②思考・判断・表現-D
	5	男	1.関係 2.アイデンティティと関わり合い 3.コミュニケーションスキル・協働スキル	F.武道 (イ.剣道)	【A】(個人) 剣道の行い方、礼法や他者へのマナーを身につける。 【C】(個人・2人組み) 自己や相手の身を守る方法を知り、実践する。面打ちや正面打ちの実技試験を行う。	①知識・技能-A,C
		女	1.発展 2.個人的・文化的表現 3.コミュニケーションスキル・協働スキル・創造的思考スキル	G.ダンス (ア.創作ダンス)	【A】(グループ) 「伝える」「応答する」をテーマに創作活動の意味合いを考え、仲間と表現する方法を考える。 【B】(個人) 個人テストへ向け学習計画を立て、進捗や活動を分析・評価する。	①知識・技能-A ②学びに向かう力-B
	6	男	1.発展 2.科学的・技術的革新 3.協働スキル、リサーチスキル、整理整頓スキル	E.球技 (ア.サッカー)	【B】個人の課題を発見し、改善に向けた練習の計画を立て実践する。 【C】ボールコントロールを身につけ、それを活かした簡易ゲームを行う。実技試験を行う。	①知識・技能-C ②学びに向かう力-B
		女	1.変化 2.アイデンティティと関係 3.コミュニケーションスキル・協働スキル・創造的思考スキル	E.球技 (ア.アルティメット)	【B】チームメンバーと連携をとりながら、よりよいパフォーマンスを作り上げるための計画を行う。 【D】チームとしてのパフォーマンスを評価し、それに基づき計画や行動の仕方を再設計する。	①学びに向かう力-B ②思考・判断・表現-D
3学期	7	男	1.関係 2.個人的・文化的表現 3.整理整頓スキル・協働スキル・情動スキル	G.ダンス (ア.創作ダンス)	【B】(個人) より良い創作ダンスとなるように学習計画を立て、効果的な目標の設定と練習計画ができていないかを評価する。また、自己の計画を的確に振り返っているかを評価する。 【C】(グループ・個人) テーマにふさわしい作品づくり、まとめ、表現しているかを評価する。	①知識・技能-C ②学びに向かう力-B
		女	1.関係 2.アイデンティティと関わり合い 3.コミュニケーションスキル・協働スキル	F.武道 (イ.剣道)	【A】(個人) 剣道の行い方、礼法や他者へのマナーを身につける。 【C】(個人・2人組み) 自己や相手の身を守る方法を知り、実践する。面打ちや正面打ちの実技試験を行う。	①知識・技能-A,C
	8	男	1.関係 2.アイデンティティと関わり合い 3.コミュニケーションスキル、協働スキル、振り返りスキル、批判的思考スキル	E.球技 (ウ.ソフトボール)	【B】(グループ) チームや個人の課題を発見し、改善に向けた練習計画を立てて実践する。進捗や活動を分析・評価する。 【D】互いの活動を評価し、学習の振り返りをレポートにまとめる。他のグループの成果についても観察評価し、レポートにまとめる。	②学びに向かう力-B ③思考・判断・表現-D
		女	1.関係 2.空間と時間 3.コミュニケーションスキル	E.球技 (イ.テニス)	【A】ルール・グリップの握り方を学ぶ。 【B】(グループ) 学習計画を立て、進捗や活動を分析・評価する	①知識・技能-C ②学びに向かう力-B
通年	9	男女	1.関係 2.アイデンティティと関係性 3.コミュニケーション・情動・メディアリテラシー	H.保健・体育理論	【A】(個人・グループ) 運動やスポーツの効果・学び方・安全を理解する。 【A】(個人・グループ) 健康と環境を自分と他者のこととしてとらえ、思考し、理解を深める。評価規準D何を学んだか、またその学びを今後の生活にどう活かすかを考え、文章にまとめる。	①知識・技能-A ③思考・判断・表現-D

教科	保健体育	科目	保健体育	単位数	3	対象学年	中学3年生 MYP years 4
MYP科目群	保健体育					対象クラス	C・AC
使用教科書	最新 中学校保健体育（大修館）						
使用教材 (副教材)	ステップアップ体育						

科目のねらい

<ul style="list-style-type: none"> 探究的手法を使って保健体育の概念について探求すること。 さまざまな状況に効果的に参加すること。 身体活動の価値を理解すること。 健康的なライフスタイルを実現し、維持すること。 効果的に協働し、コミュニケーションを図ること。 ポジティブな人間関係を構築し、社会的責任を行動で示すこと。 自分の学習経験を振り返ること。

目標および評価規準

MYP 評価観点	
A: 知識と理解	i) 「保健体育」に関する、事実的、手続的、概念的知識を詳しく述べる
	ii) なじみのある、あるいはなじみのない状況において設定された問題を説明し、解決するために、「保健体育」に関する知識を応用する
	iii) 理解を伝えるために、「保健体育」の専門用語を効果的に応用する
B: パフォーマンスの計画	i) パフォーマンスの改善に向けた目標を簡単に述べる
	ii) 身体能力と健康を改善するための計画を設計し、説明すること
C: 応用と実践	i) 幅広いスキルや技術を示し、応用すること
	ii) 幅広い戦略や動きの概念を示し、応用すること
	iii) 効果的なパフォーマンスに必要な情報を簡単に述べ、応用すること
D: パフォーマンスの振り返りと改善	i) 対人スキルを強化するための戦略を詳しく述べ、示す
	ii) 計画の有効性を、その成果に基づき説明する
	iii) パフォーマンスを説明し、評価する

関連概念（学習を通して、生徒は以下の概念についても考えます）

適応	バランス	選択	エネルギー
環境	機能	相互作用	運動
ものの見方	改良	空間	システム

年間計画

学期	ユニット	選択	1:重要概念 2:グローバルな文脈 3:ATL	学習内容・教材等	総括的評価課題の MYP 評価観点 ([]内) および課題概要と評価方法	学習指導要領観点との対応
1学期	1	男女	1.変化 2.空間と時間 3.振り返りスキル、批判的思考スキル、情報リテラシースキル	A.体つくりの運動（ア.体ほくしの運動・イ.体力を高める運動）	[A]（個人・グループ）体の構造や運動の原則も考慮しながら、各種目の目的に適した準備運動を考える。共有した知識をまとめ、作り上げた準備運動が適切であることを説明する記述を評価する。 [B]（個人）準備運動を作成するにあたっての学習計画を立てて、進捗や活動を分析・自己評価しているかを評価する。 [D]（個人）成果物の評価基準に照らし合わせて、作り上げた準備運動を詳細に振り返っているかを評価する。	①知識・技能-A ②学びに向かう力-B ③思考・判断・表現-D
		男女	1.ものの見方 2.科学的・技術的革新 3.コミュニケーションスキル、協働スキル	C.陸上競技（走り幅跳び）	[B]（個人）より良い踏み切り動作となるように、自己の状況を分析し、効果的な目標の設定と練習計画ができていくかを評価する。 [C]（個人）スムーズな踏み切り動作ができていくかを評価する。	①知識・技能-C ②学びに向かう力-B
	2	男子	1.関係 2.空間と時間 3.コミュニケーションスキル	E.球技（イ.卓球）	[B]個人の課題を発見し、改善に向けた練習の計画を立て実践する。 [C]ストローク技術を身につけ、それを活かしたゲームを行う。実技試験を行う。	①知識・技能-C ②学びに向かう力-B
		女子	1.伝達 2.アイデンティティと関わり合い 3.協働スキル、創造的思考スキル、情報リテラシースキル	E.球技（ア.ハンドボール）	[A]（個人）ハンドボールの技術、行い方をまとめているかを評価する。 [D]（個人）チームの戦術を評価し、レポートにまとめているかを評価する。	①知識・技能-A ②思考・判断・表現-D
2学期	3	男子	1.関係 2.アイデンティティと関わり合い 3.コミュニケーションスキル、協働スキル、振り返りスキル、批判的思考スキル	E.球技（ウ.ソフトボール）	[B]（グループ）チームや個人の課題を発見し、改善に向けた練習計画を立てて実践する。進捗や活動を分析・評価する。 [D]互いの活動を評価し、学習の振り返りをレポートにまとめる。他のグループの成果についても観察評価し、レポートにまとめる。	②学びに向かう力-B ③思考・判断・表現-D
		女子	1.変化 2.アイデンティティと関わり合い 3.協働スキル、振り返りスキル	E.球技（イ.バレーボール）	[B]個人技能のレベルアップとチームとしてのレベルアップに必要な計画を立て、その計画を評価する。 [C]学びで得た知識およびパフォーマンスを、動レポートにまとめている評価する。	①知識・技能-C ②思考・判断・表現-B
	4	男子	1.伝達 2.アイデンティティと関わり合い 3.協働スキル、創造的思考スキル、情報リテラシースキル	E.球技（テニス）	[B]個人の課題を発見し、改善に向けた練習の計画を立て実践する。 [C]ボールコントロールを身につけ、それを活かしたゲームを行う。実技試験を行う。	①知識・技能-C ②学びに向かう力-B
		女子	1.関係性 2.個人的・文化的表現 3.整理整頓スキル、協働スキル、情動スキル	G.ダンス（創作ダンス）	[B]（個人）より良い創作ダンスとなるように学習計画を立て、効果的な目標の設定と練習計画ができていくかを評価する。また、自己の計画を的確に振り返っているかを評価する。 [C]（グループ・個人）テーマにふさわしい作品を作り、まとめ、表現しているかを評価する。	①知識・技能-C ②学びに向かう力-B
	5	男子	1.伝達 2.アイデンティティと関わり合い 3.協働スキル、創造的思考スキル、情報リテラシースキル	E.球技（ア.ハンドボール）	[A]（個人）ハンドボールの技術、行い方をまとめているかを評価する。 [D]（個人）チームの戦術を評価し、レポートにまとめているかを評価する。	①知識・技能-A ②思考・判断・表現-D
		女子	1.発展 2.科学的・技術的革新 3.協働スキル、リサーチスキル、整理整頓スキル	E.球技（ア.サッカー）	[B]個人やチームの課題を発見し、改善に向けた練習の計画を立て実践する。 [C]ボールコントロールを身につけ、それを活かした簡易ゲームを行う。実技試験を行う。	①知識・技能-C ②学びに向かう力-B
3学期	6	男子	1.変化 2.アイデンティティと関わり合い 3.協働スキル・振り返りスキル	E.球技（イ.バレーボール）	[B]個人やチームの課題を発見し、改善に向けた練習の計画を立て実践する。 [C]ボールコントロールを身につけ、チームとしての戦術活かしたゲームを行う。実技試験を行う。	①知識・技能-C ②思考・判断・表現-B
		男子	1.関係 2.空間と時間 3.コミュニケーションスキル、協働スキル、振り返りスキル	E.球技（ア.バスケットボール）	[B]自チームで選択した作戦が実行できるための練習計画を立てレポートにまとめる。 [D]振り返りの中で、自分たちのパフォーマンスを評価し、それに基づいて練習計画を再設計する。	①学びに向かう力-B ②思考・判断・表現-D
	7	女子	1.関係 2.空間と時間 3.コミュニケーションスキル	E.球技（イ.卓球）	[B]個人の課題を発見し、改善に向けた練習の計画を立て実践する。 [C]ストローク技術を身につけ、それを活かしたゲームを行う。実技試験を行う。	①知識・技能-C ②学びに向かう力-B
		女子	1.関係 2.空間と時間 3.コミュニケーションスキル、協働スキル、振り返りスキル	E.球技（ア.バスケットボール）	[B]自チームで選択した作戦が実行できるための練習計画を立てレポートにまとめる。 [D]振り返りの中で、自分たちのパフォーマンスを評価し、それに基づいて練習計画を再設計する。	①学びに向かう力-B ②思考・判断・表現-D
通年	8	男女	1.関係性 2.グローバル化と持続可能性 3.コミュニケーションスキル、情動スキル	H.保健・体育理論	[A]（個人・グループ）運動やスポーツの効果、学び方・安全を理解する。 [A]（個人・グループ）健康と環境を自分と他者のこととしてとらえ、思考し、理解を深める。 [D]何を学んだか、またその学びを今後の生活にどう活かすかを考え、レポートにまとめる。	①知識・技能-A

教科	技術家庭	科目	技術	単位数	1	対象学年	中学1年生 MYP years 2
MYP科目群	デザイン(技術)					対象クラス	SA・C・AC
使用教科書	新しい技術・家庭 技術分野 (東京書籍)						
使用教材 (副教材)	Google ドキュメント、Googleスライド、Googleスプレッドシート、Canva						

科目のねらい

<ul style="list-style-type: none"> デザインするプロセスを楽しみ、その優雅さとパワーを知ること。 さまざまな学習分野の知識、理解、スキルを深め、デザインサイクルを用いて問題に対するソリューションをデザインし、制作すること。 情報の入手・処理・伝達、ソリューションのモデル化と制作、および問題解決の手段として、効果的に技術を活用、応用すること。 デザインの革新が生活、グローバル社会、環境にもたらす影響への認識を深めること。 それぞれの文化的、政治的、社会的、歴史的、そして環境的な文脈において、過去、現在、未来のデザインを認識すること。 他者の視点を尊重することを覚え、問題の解決にはいくつかの方法があることを認識すること。 誠実さと正直さをもって活動し、自らの行動に責任をもつことで、効果的な仕事の進め方を覚えること。
--

目標および評価規準

MYP 評価観点	
A: 探究と分析	i) 課題解決の必要性を説明し、その妥当性を示すこと
	ii) 課題解決のために必要とされるリサーチの主要な点を述べ、優先順位をつけること
	iii) 課題解決のヒントとなる、ひとつの既存製品の主要な特長を詳しく述べること
	iv) 先行研究の主な結果を提示すること
B: アイデアの発展	i) ソリューションの成功条件の一覧表を作成すること
	ii) 他者が正しく解釈できる、実現可能なデザイン案を作成すること
	iii) 選択したデザインを提示すること
	iv) 選択したソリューションを制作するための主要な点を簡単に記したスケッチや図案を作成すること
C: 課題解決	i) 時間やリソースを無駄なく使い、他の生徒もそれを見てソリューションが制作できるような計画について簡単に述べること
	ii) ソリューションの制作にあたり、優れた技術的スキルを示すこと
	iii) 意図した通りに機能し、適切に提示されたソリューションを、計画に従って作成すること
	iv) ソリューションの制作にあたり、選択したデザインや計画に変更を加えた部分を列挙すること
D: 評価	i) ソリューションの効果を評価するためのデータを生成する、簡単に適切なテスト方法をデザインすること
	ii) 効果の測定結果を設計仕様書と付き合わせて、ソリューションの効果を簡単に述べること
	iii) ソリューションをどのように改善できるかを簡単に述べること
	iv) ソリューションが顧客やターゲット層に及ぼす影響を簡単に述べること

関連概念(学習を通して、生徒は以下の概念についても考えます)

調整	協働	人間工学	評価
形式	機能	革新	発明
市場とトレンド	ものの見方	リソース	持続可能性

年間計画

学期	ユニット	1:重要概念 2:グローバルな文脈 3:ATL	学習内容・教材等	総合的評価課題の MYP 評価観点 ([]内) および課題概要と評価方法	学習指導要領観点との対応
1学期	1、2	1:コミュニティ、コミュニケーション 2:個人的表現と文化的表現 3:情報リテラシー、管理・調整、振り返り、コミュニケーション	D情報の技術 (1)生活や社会を支える情報の技術 (2)ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題の解決	<p>「オリジナル時間割表をデザインしよう」</p> <p>【A】探究と分析：他者の視点を的確に捉えているか。 【B】アイデアの発展：デザイン案に論理性と創造性があるか。 【C】課題解決：実用的で視覚的にも明快な時間割を作成できたか。 【D】評価：他者からのフィードバックを分析し、改善提案ができるか。</p> <p>「情報モラルを広めるためのポスターをデザインしよう」</p> <p>【A】探究と分析：情報モラルの問題や目的が明確か 【B】アイデアの発展：メッセージ性とデザイン計画に一貫性があるか 【C】制作：表現の工夫・視覚的な完成度・著作権配慮ができていないか 【D】評価：効果や改善点を客観的に分析しているか</p>	①知識・技能【A】【B】、期末考査 ②思考・判断・表現【C】【D】、期末考査 ③主体的に学習に取り組む態度【B】【D】、学習プリント
2学期	3	1.システム 2.科学技術の革新 3.批判的思考、情報リテラシー、コミュニケーション、振り返り	D情報の技術 (1)生活や社会を支える情報の技術 (2)ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題の解決 (4)社会の発展と情報の技術	<p>「ミュージアムレポートでの学びを伝えるプレゼンテーションをデザインしよう」</p> <p>【A】探究と分析：ミュージアムレポートの内容を的確に整理し、目的を明確にできているか 【B】アイデアの発展：構成やスライド設計に一貫性・創造性があるか 【C】課題解決：発表資料の完成度・話し方・視覚的訴求力 【D】評価と改善：他者の意見を分析し、改善点を明確に示しているか</p>	①知識・技能【A】【B】、期末考査 ②思考・判断・表現【C】【D】、期末考査 ③主体的に学習に取り組む態度【B】【D】、学習プリント
3学期	4	1.発展 2.科学技術の革新 3.思考、コミュニケーション、自己管理	D情報の技術 (1)生活や社会を支える情報の技術 (2)ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題の解決 (3)計測・制御のプログラミングによる問題の解決 (4)社会の発展と情報の技術	<p>「スクラッチで課題解決のためのプログラムをデザインしよう」</p> <p>【A】探究と分析：プログラムの目的や必要性を的確に示しているか 【B】アイデアの発展：設計図や構想が明確で、論理的に構成されているか 【C】課題解決：意図通りに動作し、見やすく使いやすいプログラムになっているか 【D】評価：テストやフィードバックをもとに改善点を明確にしているか</p>	①知識・技能【A】【B】、期末考査 ②思考・判断・表現【C】【D】、期末考査 ③主体的に学習に取り組む態度【B】【D】、学習プリント

教科	技術家庭	科目	技術	単位数	1	対象学年	中学2年生 MYP years 3
MYP科目群	デザイン (技術)					対象クラス	C・AC
使用教科書	新しい技術・家庭 技術分野 (東京書籍)						
使用教材 (副教材)	Google ドキュメント、Googleスライド、Googleスプレッドシート、Canva、Tinkercad						

科目のねらい

<ul style="list-style-type: none"> デザインするプロセスを楽しみ、その優雅さとパワーを知ること。 さまざまな学習分野の知識、理解、スキルを深め、デザインサイクルを用いて問題に対するソリューションをデザインし、制作すること。 情報の入手・処理・伝達、ソリューションのモデル化と制作、および問題解決の手段として、効果的に技術を活用、応用すること。 デザインの革新が生活、グローバル社会、環境にもたらす影響への認識を深めること。 それぞれの文化的、政治的、社会的、歴史的、そして環境的な文脈において、過去、現在、未来のデザインを認識すること。 他者の視点を尊重することを覚え、問題の解決にはいくつもの方法があることを認識すること。 誠実さと正直さをもって活動し、自らの行動に責任をもつことで、効果的な仕事の進め方を覚えること。
--

目標および評価規準

MYP 評価観点	
A: 探究と分析	i) ソリューションの提供の必要性を説明し、その妥当性を示すこと
	ii) ソリューション開発のために必要とされる一次および二次資料によるリサーチを特定し、優先順位をつけ、それを述べたリサーチ計画を作成すること
	iii) ソリューション開発のヒントを得るため、幅広く既存の製品を分析すること
	iv) 先行研究を分析し、それについて述べながら、デザインブリーフを作成すること
B: アイデアの発展	i) 収集したデータに基づき、ソリューションのデザインに関する成功規準を簡単に述べた設計仕様書を作成すること
	ii) 他者が正しく解釈できる、実現可能な幅広いデザイン案を提示すること
	iii) 選択したデザインを提示し、そのデザインを選択した理由を簡単に述べること
	iv) 正確なスケッチや図案を作成し、選択したソリューションの制作に対する要件を簡単に述べること
C: 課題解決	i) 論理的に筋の通った計画を立てる。その計画は時間やリソースを無駄なく使う方法が簡単に述べられており、他の生徒もそれを見てソリューションの制作ができるものになっていること
	ii) ソリューションの制作にあたり、優れた技術的スキルを示すこと
	iii) 計画に従い、意図した通りの機能を実現するようソリューションを制作すること
	iv) ソリューションの制作にあたり、選ばれたデザインや計画に対して変更を加えた場合には、その理由を説明すること
D: 評価	i) ソリューションの効果を測定するための正確なデータを生成する、詳細かつ適切なテスト方法について詳しく述べること
	ii) 効果の測定結果を設計仕様書と付き合わせて、ソリューションの効果を説明すること
	iii) ソリューションをどのように改善できるかを詳しく述べること
	iv) ソリューションが顧客やターゲット層に及ぼす影響を詳しく述べること

関連概念 (学習を通して、生徒は以下の概念についても考えます)

調整	協働	人間工学	評価
形式	機能	革新	発明
市場とトレンド	もの見方	リソース	持続可能性

年間計画

学期	ユニット	1:重要概念 2:グローバルな文脈 3:ATL	学習内容・教材等	総合的評価課題の MYP 評価観点 ([]内) および課題概要と評価方法	学習指導要領観点との対応
1学期	1	1.伝達 2.科学的・技術的イノベーション 3.思考、研究、コミュニケーション、自己管理	A材料と加工の技術 (1)生活や社会を支える材料と加工の技術 (2)材料と加工の技術による問題の解決 (3)社会の発展と材料と加工の技術	「アイデアを形にする～製図で伝えるデザイン～」 [A]探究と分析:図の目的や種類を理解し、他者の図面を分析する。 [B]アイデアの発展:自分のデザインアイデアを複数のスケッチや図面で表現する。 [C]課題解決:手描きまたはデジタルツール(Tinkercad, Canva)で正確な図面を作成する。 [D]評価:完成した図面がどれだけ正確に意図を伝えられるかを評価し、改善点を提案する。	①知識・技能[A][B]、期末考査 ②思考・判断・表現[C][D]、期末考査 ③主体的に学習に取り組む態度[B][D]、学習プリント
2学期	2	1.持続可能性 2.地球規模化と持続可能性 3.思考、研究、コミュニケーション、自己管理、社会的	B生物育成の技術 (1)生活や社会を支える生物育成の技術 (2)生物育成の技術による問題の解決 (3)社会の発展と生物育成の技術 Cエネルギー変換の技術 (1)生活や社会を支えるエネルギー変換の技術 (2)エネルギー変換の技術による問題の解決 (3)社会の発展とエネルギー変換の技術	「自然と共に生きるエネルギーデザイン～生きものと環境を守る発電のかたち～」 [A]探究と分析:各種発電方法(火力、水力、風力、原子力、地熱、太陽光など)の特性を分析し、現在の課題を理解する。発電の種類ごとの環境・生態系への影響を調査し、比較分析する。 [B]アイデアの発展:持続可能で、自然と共生するエネルギーミックスのアイデアを構想する。 [C]課題解決:生態系への配慮を取り入れた「未来の発電施設/地域エネルギーモデル」をデザインする。 [D]評価:提案が生物・環境・人間にどのような影響を与えるかを評価し、改善案を提示する。	①知識・技能[A][B]、期末考査 ②思考・判断・表現[C][D]、期末考査 ③主体的に学習に取り組む態度[B][D]、学習プリント
3学期	3	1.機能、持続可能性 2.科学的・技術的イノベーション 3.思考、探究、コミュニケーション、自己管理、社会的	A材料と加工の技術 (1)生活や社会を支える材料と加工の技術 (2)材料と加工の技術による問題の解決 (3)社会の発展と材料と加工の技術	「材料と環境を考える～木材の力と持続可能なデザイン～」 [A]探究と分析:各材料(木材・金属・プラスチック)の特性を調べ、環境への影響や持続可能性を分析する。 [B]アイデアの発展:木材を活用した製品や建築デザインのアイデアを構想する。 [C]課題解決:木材を使ったプロトタイプ(模型・簡易家具・構造物など)を制作する。 [D]評価:材料選択の環境的・機能的影響を評価し、改良案を提案する。	①知識・技能[A][B]、期末考査 ②思考・判断・表現[C][D]、期末考査 ③主体的に学習に取り組む態度[B][D]、学習プリント

教科	技術家庭	科目	技術	単位数	1	対象学年	中学3年生 MYP years 4
MYP科目群	デザイン (技術)					対象クラス	C・AC
使用教科書	新しい技術・家庭 技術分野 (東京書籍)						
使用教材 (副教材)	Google ドキュメント、Googleスライド、Googleスプレッドシート、Canva、Tinkercad						

科目のねらい

<ul style="list-style-type: none"> デザインするプロセスを楽しみ、その優雅さとパワーを知ること。 さまざまな学習分野の知識、理解、スキルを深め、デザインサイクルを用いて問題に対するソリューションをデザインし、制作すること。 情報の入手・処理・伝達、ソリューションのモデル化と制作、および問題解決の手段として、効果的に技術を活用、応用すること。 デザインの革新が生活、グローバル社会、環境にもたらす影響への認識を深めること。 それぞれの文化的、政治的、社会的、歴史的、そして環境的な文脈において、過去、現在、未来のデザインを認識すること。 他者の視点を尊重することを覚え、問題の解決にはいくつもの方法があることを認識すること。 誠実さと正直さをもって活動し、自らの行動に責任をもつことで、効果的な仕事の進め方を覚えること。
--

目標および評価規準

MYP 評価観点	
A: 探究と分析	i) ソリューションの提供の必要性を説明し、その妥当性を示すこと
	ii) ソリューション開発のために必要とされる一次および二次資料によるリサーチを特定し、優先順位をつけ、それを述べたリサーチ計画を作成すること
	iii) ソリューション開発のヒントを得るため、幅広く既存の製品を分析すること
	iv) 先行研究を分析し、それについて述べながら、デザインブリーフを作成すること
B: アイデアの発展	i) 収集したデータに基づき、ソリューションのデザインに関する成功規準を簡単に述べた設計仕様書を作成すること
	ii) 他者が正しく解釈できる、実現可能な幅広いデザイン案を提示すること
	iii) 選択したデザインを提示し、そのデザインを選択した理由を簡単に述べること
	iv) 正確なスケッチや図案を作成し、選択したソリューションの制作に対する要件を簡単に述べること
C: 課題解決	i) 論理的に筋の通った計画を立てる。その計画は時間やリソースを無駄なく使う方法が簡単に述べられており、他の生徒もそれを見てソリューションの制作ができるものになっていること
	ii) ソリューションの制作にあたり、優れた技術的スキルを示すこと
	iii) 計画に従い、意図した通りの機能を実現するようソリューションを制作すること
	iv) ソリューションの制作にあたり、選ばれたデザインや計画に対して変更を加えた場合には、その理由を説明すること
D: 評価	i) ソリューションの効果を測定するための正確なデータを生成する、詳細かつ適切なテスト方法について詳しく述べること
	ii) 効果の測定結果を設計仕様書と付き合わせて、ソリューションの効果を説明すること
	iii) ソリューションをどのように改善できるかを詳しく述べること
	iv) ソリューションが顧客やターゲット層に及ぼす影響を詳しく述べること

関連概念 (学習を通して、生徒は以下の概念についても考えます)

調整	協働	人間工学	評価
形式	機能	革新	発明
市場とトレンド	ものの見方	リソース	持続可能性

年間計画

学期	ユニット	1:重要概念 2:グローバルな文脈 3:ATL	学習内容・教材等	総括的評価課題の MYP 評価観点 ([]内) および課題概要と評価方法	学習指導要領観点との対応
1学期	1	1.機能、変化 2.科学的・技術的イノベーション 3.思考、研究、コミュニケーション、自己管理、社会的	Cエネルギー変換の技術 (1)生活や社会を支えるエネルギー変換の技術 (2)エネルギー変換の技術による問題の解決 (3)社会の発展とエネルギー変換の技術	「手回し発電機で学ぶエネルギー変換〜力を光に変えるエネルギーのデザイン〜」 【A】探究と分析:エネルギー変換の仕組みを理解し、手回し発電機の構造を分析する。 【B】アイデアの発展:手回し発電機的设计案(簡易スケッチや回路図)を作成する。 【C】課題解決:実際に手回し発電機を制作し、電球やLEDを点灯させる。 【D】評価:発電量や効率を測定・比較し、設計や制作方法を改善する。	①知識・技能【A】【B】、期末考査 ②思考・判断・表現【C】【D】、期末考査 ③主体的に学習に取り組む態度【B】【D】、学習プリント
2学期	2	1.機能、変化 2.科学的・技術的イノベーション 3.思考、研究、コミュニケーション、自己管理、社会的	A材料と加工の技術 (1)生活や社会を支える材料と加工の技術 (2)材料と加工の技術による問題の解決 (3)社会の発展と材料と加工の技術 D情報の技術 (1)生活や社会を支える情報の技術	「デジタルと手作りで作る自分だけの本棚」 【A】探究と分析: 材料の特性や既存の本棚デザインを分析し、改善点を考える。 材料や既存本棚の構造を分析し、3Dで再現する方法を理解する。 【B】アイデアの発展: デザインブリーフとスケッチを作成し、材料・サイズ・機能を決定する。 3Dデザインソフトで本棚設計案を作成する。 【C】課題解決: 選定した材料と設計に基づき、実際に本棚を制作する。デジタル設計に基づき、実際に本棚を制作する。 【D】評価: 使用後の安定性・使いやすさ・耐久性・デザイン性を評価し、改善点を提示する。 デジタル設計と実物の精度・使いやすさを比較評価し、改善案を提案する。	①知識・技能【A】【B】、期末考査 ②思考・判断・表現【C】【D】、期末考査 ③主体的に学習に取り組む態度【B】【D】、学習プリント
3学期			①知識・技能【A】【B】、期末考査 ②思考・判断・表現【C】【D】、期末考査 ③主体的に学習に取り組む態度【B】【D】、学習プリント		

教科	技術家庭	科目	家庭	単位数	1	対象学年	中学1年生 MYP years 2
MYP科目群	デザイン(家庭)					対象クラス	SA・C・AC
使用教科書	東京書籍「新しい技術・家庭 家庭分野」						
使用教材 (副教材)	明治図書「技術・家庭総合ノート 家庭分野」						

科目のねらい

<ul style="list-style-type: none"> デザインするプロセスを楽しみ、その優雅さとパワーを知ること。 さまざまな学習分野の知識、理解、スキルを深め、デザインサイクルを用いて問題に対するソリューションをデザインし、制作すること。 情報の入手・処理・伝達、ソリューションのモデル化と制作、および問題解決の手段として、効果的に技術を活用、応用すること。 デザインの革新が生活、グローバル社会、環境にもたらす影響への認識を深めること。 それぞれの文化的、政治的、社会的、歴史的、そして環境的な文脈において、過去、現在、未来のデザインを認識すること。 他者の視点を尊重することを覚え、問題の解決にはいくつかの方法があることを認識すること。 誠実さと正直さをもって活動し、自らの行動に責任をもつことで、効果的な仕事の進め方を覚えること。
--

目標および評価規準

MYP 評価観点	
A: 探究と分析	i) 課題解決の必要性を説明し、その妥当性を示すこと
	ii) 課題解決のために必要とされるリサーチの主要な点を述べ、優先順位をつけること
	iii) 課題解決のヒントとなる、ひとつの既存製品の主要な特長を詳しく述べること
	iv) 先行研究の主な結果を提示すること
B: アイデアの発展	i) ソリューションの成功条件の一覧表を作成すること
	ii) 他者が正しく解釈できる、実現可能なデザイン案を作成すること
	iii) 選択したデザインを提示すること
	iv) 選択したソリューションを制作するための主要な点を簡単に記したスケッチや図案を作成すること
C: 課題解決	i) 時間やリソースを無駄なく使い、他の生徒もそれを見てソリューションが制作できるような計画について簡単に述べること
	ii) ソリューションの制作にあたり、優れた技術的スキルを示すこと
	iii) 意図した通りに機能し、適切に提示されたソリューションを、計画に従って作成すること
	iv) ソリューションの制作にあたり、選択したデザインや計画に変更を加えた部分を列挙すること
D: 評価	i) ソリューションの効果を評価するためのデータを生成する、簡単に適切なテスト方法をデザインすること
	ii) 効果の測定結果を設計仕様書と付き合わせて、ソリューションの効果を簡単に述べること
	iii) ソリューションをどのように改善できるかを簡単に述べること
	iv) ソリューションが顧客やターゲット層に及ぼす影響を簡単に述べること

関連概念(学習を通して、生徒は以下の概念についても考えます)

調整	協働	人間工学	評価
形式	機能	革新	発明
市場とトレンド	ものの見方	リソース	持続可能性

年間計画

学期	ユニット	1:重要概念 2:グローバルな文脈 3:ATL	学習内容・教材等	総合的評価課題の MYP 評価観点 ([]内) および課題概要と評価方法	学習指導要領観点との対応
1学期	1	1: 表現 2: 自分や文化を表現する方法を考える 3: 自己管理・思考	・年中行事の調査 ・家族と家庭生活 ・幼少期のふり返し ・バンダナ制作(アイロンプリント)	【A】文化や家族について調べる 【B】デザイン計画 【C】バンダナ製作 【D】ふり返しレポート 【評価方法】 調査=ワーク・レポート、 計画=ワークシート、 製作=作品、 ふり返し=ふり返しカード・レポート・発表など	家族・家庭生活/衣生活/文化理解 ①知識・技能【A】【B】、期末考査 ②思考・判断・表現【C】【D】、期末考査 ③主体的に学習に取り組む態度【B】【D】、学習プリント
2学期	2	1: 機能 2: 暮らしと文化・環境のつながり 3: 情報リテラシー・思考・自己管理	・日本と世界の住文化 ・住居の役割と工夫 ・ティッシュボックスケースの製作 ・茶道実習(1時間)	【A】住文化や茶道を調べる 【B】住まいやふるまいの計画 【C】製作と体験 【D】ふり返しと発表 【評価方法】 調査=ワーク・レポート、 計画=ワークシート、 製作=作品、 ふり返し=ふり返しカード・レポート・発表など	住生活/住文化/礼法 ①知識・技能【A】【B】、期末考査 ②思考・判断・表現【C】【D】、期末考査 ③主体的に学習に取り組む態度【B】【D】、学習プリント
3学期	3	1: 表現 2: 贈ることによる気持ちの表現 3: コミュニケーション・思考	・防災学習(D・技術科と連携して箸袋製作) ・防災学習(DVD・座学) VD・座学)	【A】防災や贈る文化について調査 【B】学校における防災計画 【C】ハザードマップの製作 【D】危険個所のふり返し 【評価方法】 調査=ワーク・レポート、 計画=ワークシート、 製作=作品、 ふり返し=ふり返しカード・レポート・発表など	①知識・技能【A】【B】、期末考査 ②思考・判断・表現【C】【D】、期末考査 ③主体的に学習に取り組む態度【B】【D】、学習プリント

教科	技術家庭	科目	家庭	単位数	1	対象学年	中学2年生 MYP years 3
MYP科目群	デザイン(家庭)					対象クラス	C・AC
使用教科書	東京書籍「新しい技術・家庭 家庭分野」						
使用教材 (副教材)	明治図書「技術・家庭総合ノート 家庭分野」						

科目のねらい

<ul style="list-style-type: none"> デザインするプロセスを楽しみ、その優雅さとパワーを知ること。 さまざまな学習分野の知識、理解、スキルを深め、デザインサイクルを用いて問題に対するソリューションをデザインし、制作すること。 情報の入手・処理・伝達、ソリューションのモデル化と制作、および問題解決の手段として、効果的に技術を活用、応用すること。 デザインの革新が生活、グローバル社会、環境にもたらす影響への認識を深めること。 それぞれの文化的、政治的、社会的、歴史的、そして環境的な文脈において、過去、現在、未来のデザインを認識すること。 他者の視点を尊重することを覚え、問題の解決にはいくつもの方法があることを認識すること。 誠実さと正直さをもって活動し、自らの行動に責任をもつことで、効果的な仕事の進め方を覚えること。
--

目標および評価規準

MYP 評価観点	
A: 探究と分析	i) ソリューションの提供の必要性を説明し、その妥当性を示すこと
	ii) ソリューション開発のために必要とされる一次および二次資料によるリサーチを特定し、優先順位をつけ、それを述べたリサーチ計画を作成すること
	iii) ソリューション開発のヒントを得るため、幅広く既存の製品を分析すること
	iv) 先行研究を分析し、それについて述べながら、デザインブリーフを作成すること
B: アイデアの発展	i) 収集したデータに基づき、ソリューションのデザインに関する成功規準を簡単に述べた設計仕様書を作成すること
	ii) 他者が正しく解釈できる、実現可能な幅広いデザイン案を提示すること
	iii) 選択したデザインを提示し、そのデザインを選択した理由を簡単に述べること
	iv) 正確なスケッチや図案を作成し、選択したソリューションの制作に対する要件を簡単に述べること
C: 課題解決	i) 論理的に筋の通った計画を立てる。その計画は時間やリソースを無駄なく使う方法が簡単に述べられており、他の生徒もそれを見てソリューションの制作ができるものになっていること
	ii) ソリューションの制作にあたり、優れた技術的スキルを示すこと
	iii) 計画に従い、意図した通りの機能を実現するようソリューションを制作すること
	iv) ソリューションの制作にあたり、選ばれたデザインや計画に対して変更を加えた場合には、その理由を説明すること
D: 評価	i) ソリューションの効果を測定するための正確なデータを生成する、詳細かつ適切なテスト方法について詳しく述べること
	ii) 効果の測定結果を設計仕様書と付き合わせて、ソリューションの効果を説明すること
	iii) ソリューションをどのように改善できるかを詳しく述べること
	iv) ソリューションが顧客やターゲット層に及ぼす影響を詳しく述べること

関連概念(学習を通して、生徒は以下の概念についても考えます)

調整	協働	人間工学	評価
形式	機能	革新	発明
市場とトレンド	ものの見方	リソース	持続可能性

年間計画

学期	ユニット	1:重要概念 2:グローバルな文脈 3:ATL	学習内容・教材等	総合的評価課題の MYP 評価観点 ([I]内) および課題概要と評価方法	学習指導要領観点との対応
1学期	1	1: 機能 2: 衣服の役割や文化 3: 自己管理・調査・思考	・衣服と文化／洗濯の基礎 ・衣服の映像視聴 ・刺し子のティッシュカバー制作	【A】衣服について調べる 【B】刺し子のデザイン計画 【C】刺し子製作 【D】ふり返り 【評価方法】 調査＝ワーク・レポート、 計画＝ワークシート、 製作＝作品、 ふり返り＝ふり返りカード・レポート・発表など	衣生活／生活文化／針仕事 ①知識・技能【A】【B】、期末考査 ②思考・判断・表現【C】【D】、期末考査 ③主体的に学習に取り組む態度【B】【D】、学習プリント
2学期	2	1: 意識 2: 消費者としての選択 3: 情報リテラシー・自己管理	・消費生活と契約、表示 ・巾着袋製作 ・茶道実習(ふるまい)	【A】消費生活を調べる 【B】巾着の用途と計画 【C】製作と所作の実践 【D】ふり返り 【評価方法】 調査＝ワーク・レポート、 計画＝ワークシート、 製作＝作品、 ふり返り＝ふり返りカード・レポート・発表など	消費生活／衣生活／礼法 ①知識・技能【A】【B】、期末考査 ②思考・判断・表現【C】【D】、期末考査 ③主体的に学習に取り組む態度【B】【D】、学習プリント
3学期	3	1: 持続可能性 2: モノの循環と工夫 3: 創造性・思考	・消費生活のまとめと発展 ・掃除道具製作(リユース)	【A】環境への意識を調査 【B】掃除道具の計画 【C】製作 【D】生活への活かし方のふり返り 【評価方法】 調査＝ワーク・レポート、 計画＝ワークシート、 製作＝作品、 ふり返り＝ふり返りカード・レポート・発表など	環境／リサイクル／生活技術 ①知識・技能【A】【B】、期末考査 ②思考・判断・表現【C】【D】、期末考査 ③主体的に学習に取り組む態度【B】【D】、学習プリント

教科	技術家庭	科目	家庭	単位数	1	対象学年	中学3年生 MYP years 4
MYP科目群	デザイン(家庭)					対象クラス	C・AC
使用教科書	東京書籍「新しい技術・家庭 家庭分野」						
使用教材 (副教材)	明治図書「技術・家庭総合ノート 家庭分野」						

科目のねらい

<ul style="list-style-type: none"> デザインするプロセスを楽しみ、その優雅さとパワーを知ること。 さまざまな学習分野の知識、理解、スキルを深め、デザインサイクルを用いて問題に対するソリューションをデザインし、制作すること。 情報の入手・処理・伝達、ソリューションのモデル化と制作、および問題解決の手段として、効果的に技術を活用、応用すること。 デザインの革新が生活、グローバル社会、環境にもたらす影響への認識を深めること。 それぞれの文化的、政治的、社会的、歴史的、そして環境的な文脈において、過去、現在、未来のデザインを認識すること。 他者の視点を尊重することを覚え、問題の解決にはいくつもの方法があることを認識すること。 誠実さと正直さをもって活動し、自らの行動に責任をもつことで、効果的な仕事の進め方を覚えること。
--

目標および評価規準

MYP 評価観点	
A: 探究と分析	i) ソリューションの提供の必要性を説明し、その妥当性を示すこと
	ii) ソリューション開発のために必要とされる一次および二次資料によるリサーチを特定し、優先順位をつけ、それを述べたリサーチ計画を作成すること
	iii) ソリューション開発のヒントを得るため、幅広く既存の製品を分析すること
	iv) 先行研究を分析し、それについて述べながら、デザインブリーフを作成すること
B: アイデアの発展	i) 収集したデータに基づき、ソリューションのデザインに関する成功規準を簡単に述べた設計仕様書を作成すること
	ii) 他者が正しく解釈できる、実現可能な幅広いデザイン案を提示すること
	iii) 選択したデザインを提示し、そのデザインを選択した理由を簡単に述べること
	iv) 正確なスケッチや図案を作成し、選択したソリューションの制作に対する要件を簡単に述べること
C: 課題解決	i) 論理的に筋の通った計画を立てる。その計画は時間やリソースを無駄なく使う方法が簡単に述べられており、他の生徒もそれを見てソリューションの制作ができるものになっていること
	ii) ソリューションの制作にあたり、優れた技術的スキルを示すこと
	iii) 計画に従い、意図した通りの機能を実現するようソリューションを制作すること
	iv) ソリューションの制作にあたり、選ばれたデザインや計画に対して変更を加えた場合には、その理由を説明すること
D: 評価	i) ソリューションの効果を測定するための正確なデータを生成する、詳細かつ適切なテスト方法について詳しく述べること
	ii) 効果の測定結果を設計仕様書と付き合わせて、ソリューションの効果を説明すること
	iii) ソリューションをどのように改善できるかを詳しく述べること
	iv) ソリューションが顧客やターゲット層に及ぼす影響を詳しく述べること

関連概念(学習を通して、生徒は以下の概念についても考えます)

調整	協働	人間工学	評価
形式	機能	革新	発明
市場とトレンド	ものの見方	リソース	持続可能性

年間計画

学期	ユニット	1:重要概念 2:グローバルな文脈 3:ATL	学習内容・教材等	総合的評価課題の MYP 評価観点 (【 】内) および課題概要と評価方法	学習指導要領観点との対応
1学期	1	1: アイデンティティ 2: 成長やつながりの理解 3: 思考・調査	・保育DVD・教科書 ・手形アート ・成長のふり返し	【A】乳幼児の特徴を調べる 【B】手形アートの計画 【C】製作 【D】自分の成長のふり返し 【評価方法】 調査＝ワーク・レポート、 計画＝ワークシート、 製作＝作品、 ふり返し＝ふり返しカード・レポート・発表など	保育／発達理解／自己理解 ①知識・技能【A】【B】、期末考査 ②思考・判断・表現【C】【D】、期末考査 ③主体的に学習に取り組む態度【B】【D】、学習プリント
2学期	2	1: 機能 2: 家族や人との関係性 3: 自己管理・技能	・食の基礎知識 ・茶道体験 ・エプロン・三角巾製作	【A】衣と食のつながりを調査 【B】衣類製作の計画 【C】製作 【D】調理実習への意識づけ 【評価方法】 調査＝ワーク・レポート、 計画＝ワークシート、 製作＝作品、 ふり返し＝ふり返しカード・レポート・発表など	衣生活／食生活／礼法 ①知識・技能【A】【B】、期末考査 ②思考・判断・表現【C】【D】、期末考査 ③主体的に学習に取り組む態度【B】【D】、学習プリント
3学期	3	1: 持続可能性 2: 安全で豊かな食 3: 自己管理・創造性	・調理の基礎、食中毒予防 ・幼児のおやつ調理実習	【A】栄養と安全を調査 【B】おやつ計画 【C】調理実習 【D】つくることの意味をまとめる 【評価方法】 調査＝ワーク・レポート、 計画＝ワークシート、 製作＝作品、 ふり返し＝ふり返しカード・レポート・発表など	食生活／衛生管理／調理と発達理解 ①知識・技能【A】【B】、期末考査 ②思考・判断・表現【C】【D】、期末考査 ③主体的に学習に取り組む態度【B】【D】、学習プリント

教科	英語	科目	英語	単位数	5	対象学年	中学1年生 MYP years 2
MYP科目群	言語の習得					対象クラス	Dクラス
使用教科書	English PBL 1, Basic Grammar for Teens 1						
使用教材 (副教材)	Diary of a Wimpy Kid						

科目のねらい

<ul style="list-style-type: none"> 母語と自己の文化的遺産を維持しながら、付加言語に習熟する。 多様な言語と文化的遺産に対する敬意と理解を身につける。 さらなる言語学習、また学習、就労、余暇などさまざまな実際の場面や、多様な受け手と目的に対応するために必要なコミュニケーションスキルを身につける。 マルチメディアやさまざまなコミュニケーションの伝達様式などの幅広い学習ツールを使用してマルチリテラシーのスキルを身につける。 さまざまな文学テキストおよび非文学テキストを鑑賞できるようになり、批判的かつ創造的な方法で意味の構築と解釈ができるようになる。 思考、振り返り、自己表現、および他の科目の学習のための原動力として言語を認識、活用し、読み書きの能力を向上させるツールとしても活用できるようになる。 言語の本質と、言語的、文化的、社会的要素から成る言語学習のプロセスを理解することができるようになる。 言語が使用されているコミュニティの文化的特徴を理解できるようになる。 自己の文化や異なる文化をもつ人のものの方への意識と理解を養うことで、自己やその他のコミュニティへの参加と行動につながる。 言語学習への興味、探究、および生涯にわたる関心、また言語の習得における喜びを養う。
--

目標および評価規準

MYP 評価観点	
A: 聞くこと	i) 明示的および暗示的な情報（事実や意見、および裏づけとなる詳細）を特定できる。
	ii) 表現技法を分析できる。
	iii) つながりを分析できる。
B: 読むこと	i) 明示的および暗示的な情報（事実や意見、および裏づけとなる詳細）を特定できる。
	ii) 表現技法を分析できる。
	iii) つながりを分析できる。
C: 話すこと	i) 広範囲の語彙を使用できる。
	ii) 広範囲の文法的構造をたいてい正確に使用できる。
	iii) 明確な発音と抑揚を用いてわかりやすく話せる。
	iv) 必要なすべて、またはほぼすべての情報を明確かつ効果的に伝達できる。
D: 書くこと	i) 広範囲の語彙を使用できる。
	ii) 広範囲の文法的構造をたいてい正確に使用できる。
	iii) さまざまなシンプルおよび少し複雑な接続表現を使用して、的確な形式で効果的にわかりやすく情報を整理できる。
	iv) 文脈に合うように、受け手と目的をはっきりと意識したうえで、必要なすべて、またはほぼすべての情報を伝達できる。

関連概念（学習を通して、生徒は以下の概念についても考えます）

発音	受け手	文脈	表現技法
形式	機能	意味	メッセージ
パターン	目的	構成	言葉の選択

年間計画

学期	ユニット	1:重要概念 2:グローバルな文脈 3:ATL	学習内容・教材等	総合的評価課題の MYP 評価観点 ([]内) および課題概要と評価方法	学習指導要領観点との対応
1学期	Unit 1: About Me / Self- introduction	1: Communication 2: Identities & Relationships 3: Communication, Self- management	・自己紹介 (名前・年齢・好きなこと) ・英語と日本語の挨拶の違い (bowing, handshake, eye contact, personal space) ・挨拶のロールプレイ (日本式 / 英語式比較) ・自己紹介スピーチ練習 be動詞 (I am / You are) 、人称代名詞、 所有形容詞 (my, your) ・三人称単数 (He is / She is) 、所有格 's, this / that / these / those	【A】【C】【D】 Self-introductionスピーチ+自己紹介パラグラフ	知識・技能／思考・判断・表現 ／主体的態度
	Unit 2: My Ideal School Curriculum	1: Creativity / Connections 2: Globalization & Sustainability, Personal & Cultural Expression 3: Research, Communication, Critical Thinking	・世界の学校の時間割・特徴 (日本・US・UK・ Finlandなど) ・教科名英語表現 (math, science, art, PE, etc.) ・どの科目が必要?なぜ? ・自分の理想の学校カリキュラム設計 ・一般動詞の現在形、頻度副詞、時間表現	【B】【C】【D】 My Ideal School Curriculumスピーチ	思考・判断・表現／知識・技能 ／主体的態度
2学期	Unit 3 Natural Disasters	1: Change / Cause & Effect 2: Scientific & Technical Innovation 3: Research, Critical Thinking, Information Literacy	・自然災害の種類 brainstorm ・しくみ (mechanism) 図示: earthquake, tsunami, flood ・防災・避難語彙 ・安全対策 ・There is / There are、場所を表す前置 詞、命令文 (Go straight, Turn left)	【A】【B】【C】 How a Natural Disaster Happensスピーチ	知識・技能／思考・判断・表現 ／主体的態度
	Unit 4 Festivals	1: Culture / Connections 2: Personal & Cultural Expression / Globalization 3: Collaboration / Communication / Creative Thinking	・地域の祭り (日本) ・世界の祭り ・食べ物 (dango, turkey, samosa, churros) ・Travel plan & festival tour schedule ・観光パンフレット英語 ・単数・複数 ・好き・嫌い ・できる・できない ・現在進行形 ・現在形の疑問文 ・be動詞と一般動詞の過去形	【B】【C】【D】 Festival Poster Project ①フェスティバルの紹介 ②歴史や文化的意味 ③食べ物・活動内容 ④おすすめポイント・日程 (ツアー形式)	知識・技能／思考・判断・表現 ／主体的態度
3学期	Unit 5 Endangered Animals	1: Change / Systems / Responsibility 2: Globalization & Sustainability / Scientific & Technical Innovation 3: Research, Problem- solving, Communication	・動物の分類 ・生息環境 (forest, ocean, desert) ・絶滅危惧種と絶滅した動物 ・研究: なぜ絶滅危惧種なのか?どのように保 護するのか? ・解決策を英語で提案 ・パンフレット制作 ・be going to (未来の予定) 、want to + 動詞	【B】【C】【D】 Endangered Animal Pamphlet Project ①動物の基本情報 ②絶滅の原因 ③保護の方法と提案	知識・技能／思考・判断・表現 ／主体的態度

教科	英語	科目	英語	単位数	5	対象学年	中学2年生 MYP years 3
MYP科目群	言語の習得					対象クラス	Dクラス
使用教科書	English PBL 2, Basic Grammar for Teens 2						
使用教材 (副教材)	The Twits						

科目のねらい

<ul style="list-style-type: none"> 母語と自己の文化的遺産を維持しながら、付加言語に習熟する。 多様な言語と文化的遺産に対する敬意と理解を身につける。 さらなる言語学習、また学習、就労、余暇などさまざまな実際の場面や、多様な受け手と目的に対応するために必要なコミュニケーションスキルを身につける。 マルチメディアやさまざまなコミュニケーションの伝達様式などの幅広い学習ツールを使用してマルチリテラシーのスキルを身につける。 さまざまな文学テキストおよび非文学テキストを鑑賞できるようになり、批判的かつ創造的な方法で意味の構築と解釈ができるようになる。 思考、振り返り、自己表現、および他の科目の学習のための原動力として言語を認識、活用し、読み書きの能力を向上させるツールとしても活用できるようになる。 言語の本質と、言語的、文化的、社会的要素から成る言語学習のプロセスを理解することができるようになる。 言語が使用されているコミュニティの文化的特徴を理解できるようになる。 自己の文化や異なる文化をもつ人のものの方への意識と理解を養うことで、自己やその他のコミュニティへの参加と行動につながる。 言語学習への興味、探究、および生涯にわたる関心、また言語の習得における喜びを養う。
--

目標および評価規準

MYP 評価観点	
A: 聞くこと	i) 明示的および暗示的な情報（事実や意見、および裏づけとなる詳細）を特定できる。
	ii) 表現技法を分析できる。
	iii) つながり分析できる。
B: 読むこと	i) 明示的および暗示的な情報（事実や意見、および裏づけとなる詳細）を特定できる。
	ii) 表現技法を分析できる。
	iii) つながり分析できる。
C: 話すこと	i) 広範囲の語彙を使用できる。
	ii) 広範囲の文法的構造をたいてい正確に使用できる。
	iii) 明確な発音と抑揚を用いてわかりやすく話せる
	iv) やりとりにおいて、必要なすべて、またはほぼすべての情報を明確かつ効果的に伝達できる。
D: 書くこと	i) 広範囲の語彙を使用できる。
	ii) 広範囲の文法的構造をたいてい正確に使用できる。
	iii) 広範囲にわたるシンプルおよび複雑な接続表現を使用して、適切な形式で効果的にわかりやすく情報を整理できる。
	iv) 文脈に合うように、受け手と目的をはっきりと意識したうえで、必要なすべて、またはほぼすべての情報を伝達できる。

関連概念（学習を通して、生徒は以下の概念についても考えます）

受け手	文脈	表現技法	共感
機能	イディオム（慣用句）	意味	メッセージ
視点	目的	構成	言葉の選択

年間計画

学期	ユニット	1:重要概念 2:グローバルな文脈 3:ATL	学習内容・教材等	総合的評価課題の MYP 評価観点 ([]内) および課題概要と評価方法	学習指導要領観点との対応
1学期	Unit 1: Health	1: Communication / Connections 2: Identities and Relationships 3: Communication / Self-management / Research	<ul style="list-style-type: none"> ・運動・睡眠・食習慣など ・睡眠習慣、運動の利点と習慣 ・健康的・不健康な食べ物 ・should / shouldn't (助言) ・リサーチ：自分の生活習慣を調べる ・be動詞、人称代名詞、所有形容詞 ・三人称単数、所有格 's、指示語 	<p>【A】【B】【D】</p> <p>Health Poster「健康アドバイスポスター」</p>	知識・技能／思考・判断・表現／主体的態度
	Unit 2: Space	1: Communication 2: Globalization & Sustainability 3: Research, Communication, Critical Thinking	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽系、地球、惑星調査、大気、重力 ・比較 (bigger than / farther from) ・一般動詞の現在形、頻度副詞、時間表現 ・可算名詞／不可算名詞 	<p>【A】【B】【D】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選んだ惑星について特徴・大気・気候等をまとめる ・レポート＋クラス説明 	思考・判断・表現／知識・技能／主体的態度
2学期	Unit 3 Restaurants	1: Communication 2: Globalization and Sustainability 3: Creative Thinking, Media Literacy, Communication	<ul style="list-style-type: none"> ・レストランの種類 ・メニューの構成 ・My Favorite Restaurant (紹介文) ・食品ロス ・数えられる/数えられない名詞 ・some/any ・there is/are ・前置詞、命令文 ・現在進行形 	<p>【A】【C】【D】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリジナルメニュー作成 ・テーマに沿ったメニュー (料理説明・価格・写真・おすすめコメント) ・口頭で紹介 (店のコンセプト＋おすすめ) 	知識・技能／思考・判断・表現／主体的態度
	Unit 4 Technology	1: Creativity 2: Scientific and Technical Innovation 3: Creative Thinking, Problem Solving, Communication	<ul style="list-style-type: none"> ・発明、有名な技術 ・問題と解決策 ・新しい技術を考案 ・未来表現 (will) ・説明文の構成・過去形 ・規則動詞 ・不規則動詞 ・was / were 	<p>【B】【C】【D】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新技術プレゼン ・問題 → 解決策 → 新技術の説明 ・ポスター or スライドを用いた口頭発表 	知識・技能／思考・判断・表現／主体的態度
3学期	Unit 5 Environment	1: Connections / Development 2: Globalization & Sustainability 3: Research, Critical Thinking, Communication	<ul style="list-style-type: none"> ・自然物・人工物 ・環境を守る方法 ・環境問題、原因・結果、改善案 ・原因・結果の表現 (because, so) ・be going to (予定)、want to + 動詞 	<p>【A】【B】【C】【D】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境問題スライド ・1つの環境問題を調査し説明：原因→影響→解決策 ・スライド＋発表 	知識・技能／思考・判断・表現／主体的態度

教科	英語	科目	英語	単位数	5	対象学年	中学3年生 MYP years 4
MYP科目群	言語の習得					対象クラス	Dクラス
使用教科書	English PBL 3, Basic English Grammar						
使用教材 (副教材)	The Boy in the Striped Pyjamas, Wonder						

科目のねらい

<ul style="list-style-type: none"> 母語と自己の文化的遺産を維持しながら、付加言語に習熟する。 多様な言語と文化的遺産に対する敬意と理解を身につける。 さらなる言語学習、また学習、就労、余暇などさまざまな実際の場面や、多様な受け手と目的に対応するために必要なコミュニケーションスキルを身につける。 マルチメディアやさまざまなコミュニケーションの伝達様式などの幅広い学習ツールを使用してマルチリテラシーのスキルを身につける。 さまざまな文学テキストおよび非文学テキストを鑑賞できるようになり、批判的かつ創造的な方法で意味の構築と解釈ができるようになる。 思考、振り返り、自己表現、および他の科目の学習のための原動力として言語を認識、活用し、読み書きの能力を向上させるツールとしても活用できるようになる。 言語の本質と、言語的、文化的、社会的要素から成る言語学習のプロセスを理解することができるようになる。 言語が使用されているコミュニティの文化的特徴を理解できるようになる。 自己の文化や異なる文化をもつ人のものの方への意識と理解を養うことで、自己やその他のコミュニティへの参加と行動につながる。 言語学習への興味、探究、および生涯にわたる関心、また言語の習得における喜びを養う。
--

目標および評価規準

MYP 評価観点	
A: 聞くこと	i) 明示的および暗示的な情報（事実や意見、および裏づけとなる詳細）を特定できる。
	ii) 表現技法を分析できる。
	iii) つながり分析できる。
B: 読むこと	i) 明示的および暗示的な情報（事実や意見、および裏づけとなる詳細）を特定できる。
	ii) 表現技法を分析できる。
	iii) つながり分析できる。
C: 話すこと	i) 広範囲の語彙を使用できる。
	ii) 広範囲の文法的構造をたいてい正確に使用できる。
	iii) 明確な発音と抑揚を用いてわかりやすく話せる
	iv) やりとりにおいて、必要なすべて、またはほぼすべての情報を明確かつ効果的に伝達できる。
D: 書くこと	i) 広範囲の語彙を使用できる。
	ii) 広範囲の文法的構造をたいてい正確に使用できる。
	iii) 広範囲にわたるシンプルおよび複雑な接続表現を使用して、適切な形式で効果的にわかりやすく情報を整理できる。
	iv) 文脈に合うように、受け手と目的をはっきりと意識したうえで、必要なすべて、またはほぼすべての情報を伝達できる。

関連概念（学習を通して、生徒は以下の概念についても考えます）

受け手	文脈	表現技法	共感
機能	イディオム（慣用句）	意味	メッセージ
視点	目的	構成	言葉の選択

年間計画

学期	ユニット	1:重要概念 2:グローバルな文脈 3:ATL	学習内容・教材等	総合的評価課題の MYP 評価観点 ([]内) および課題概要と評価方法	学習指導要領観点との対応
1学期	Unit 1: History	1: Culture 2: Orientation in Space and Time 3: Research / Communication / Critical Thinking	<ul style="list-style-type: none"> ・国の比較 ・先住民 ・歴史的出来事・場所 ・芸術と文学 ・過去表現・比較級・最上級 ・過去表現 ・パッセージ要約 ・現在形の復習 ・不定詞 (I want to...) ・関係代名詞の導入 ・比較・表現 	<p>[A] [B] [C] [D]</p> <p>国ポスター & プレゼン</p> <p>・国を一つ選び、歴史・文化・先住民・芸術を調査</p> <p>・ポスター作成 + 発表</p>	知識・技能 / 思考・判断・表現 / 主体的態度
	Unit 2: Poverty	1: Connections 2: Fairness & Development 3: Research, Communication, Critical Thinking	<ul style="list-style-type: none"> ・必要・不必要 ・貧困のサイクル (世界と日本) ・先進国と発展途上国 ・問題と解決策 ・because, so, need to ・過去形 (復習) ・過去進行形 (I was playing...) ・動名詞 ・目的の不定詞 	<p>[A] [B] [C] [D]</p> <p>貧困問題を一つ選び、原因と解決策を説明</p>	思考・判断・表現 / 知識・技能 / 主体的態度
2学期	Unit 3 AI	1: Development 2: Scientific and Technical Innovation 3: Research, Thinking, Creative Thinking	<ul style="list-style-type: none"> AIとは何か AIの種類 倫理・プライバシー 未来への影響 ・future expressions, if / 条件文 ・受動態の導入 ・関係代名詞 ・接続詞 	<p>[A] [B] [C] [D]</p> <p>・AI デザイン+セールストーク</p>	知識・技能 / 思考・判断・表現 / 主体的態度
	Unit 4 Innovation	1: Creativity 2: Scientific and Technical Innovation 3: Creative Thinking, Research, Communication	<ul style="list-style-type: none"> ・デザインの基本原則 ・原因と結果の関係 ・表やグラフでデータを記録 ・実社会の問題解決 ・簡単な予測を立てる ・拡張された不定詞 ・比較級 ・最上級の復習 	<p>[A] [B] [C] [D]</p> <p>・社会・学校・生活の問題を一つ選び、新しい発明を提案</p>	知識・技能 / 思考・判断・表現 / 主体的態度
3学期	Unit 5 Future Goals	1: Identity 2: Personal & Cultural Expression 3: Self-management, Thinking, Communication	<ul style="list-style-type: none"> ・将来の夢 ・キャリア計画 ・長所・短所 ・future forms (will, going to, hope to, plan to) ・目的を表す不定詞 ・現在完了形の導入 ・仮定法 	<p>[A] [B] [C] [D]</p> <p>・未来ポートフォリオ</p>	知識・技能 / 思考・判断・表現 / 主体的態度

教科	英語	科目	英語	単位数	5	対象学年	中学1年生 MYP years 2
MYP科目群	言語の習得					対象クラス	Eクラス
使用教科書	English PBL 1, Basic Grammar for Teens 1						
使用教材 (副教材)	Monkeys in School, Hello, Clunk, Wild Weather						

科目のねらい

<ul style="list-style-type: none"> 母語と自己の文化的遺産を維持しながら、付加言語に習熟する。 多様な言語と文化的遺産に対する敬意と理解を身につける。 さらなる言語学習、また学習、就労、余暇などさまざまな実際の場面や、多様な受け手と目的に対応するために必要なコミュニケーションスキルを身につける。 マルチメディアやさまざまなコミュニケーションの伝達様式などの幅広い学習ツールを使用してマルチリテラシーのスキルを身につける。 さまざまな文学テキストおよび非文学テキストを鑑賞できるようになり、批判的かつ創造的な方法で意味の構築と解釈ができるようになる。 思考、振り返り、自己表現、および他の科目の学習のための原動力として言語を認識、活用し、読み書きの能力を向上させるツールとしても活用できるようになる。 言語の本質と、言語的、文化的、社会的要素から成る言語学習のプロセスを理解することができるようになる。 言語が使用されているコミュニティーの文化的特徴を理解できるようになる。 自己の文化や異なる文化をもつ人のものの方への意識と理解を養うことで、自己やその他のコミュニティーへの参加と行動につながる。 言語学習への興味、探究、および生涯にわたる関心、また言語の習得における喜びを養う。
--

目標および評価規準

MYP 評価観点	
A: 聞くこと	i) 明示的および暗示的な情報（事実や意見、および裏づけとなる詳細）を特定できる。
	ii) 表現技法を分析できる。
	iii) つながり分析できる。
B: 読むこと	i) 明示的および暗示的な情報（事実や意見、および裏づけとなる詳細）を特定できる。
	ii) 表現技法を分析できる。
	iii) つながり分析できる。
C: 話すこと	i) 広範囲の語彙を使用できる。
	ii) 広範囲の文法的構造をたいてい正確に使用できる。
	iii) 明確な発音と抑揚を用いてわかりやすく話せる。
	iv) 必要なすべて、またはほぼすべての情報を明確かつ効果的に伝達できる。
D: 書くこと	i) 広範囲の語彙を使用できる。
	ii) 広範囲の文法的構造をたいてい正確に使用できる。
	iii) さまざまなシンプルおよび少し複雑な接続表現を使用して、的確な形式で効果的にわかりやすく情報を整理できる。
	iv) 文脈に合うように、受け手と目的をはっきりと意識したうえで、必要なすべて、またはほぼすべての情報を伝達できる。

関連概念（学習を通して、生徒は以下の概念についても考えます）

発音	受け手	文脈	表現技法
形式	機能	意味	メッセージ
パターン	目的	構成	言葉の選択

年間計画

学期	ユニット	1:重要概念 2:グローバルな文脈 3:ATL	学習内容・教材等	総合的評価課題の MYP 評価観点 ([]内) および課題概要と評価方法	学習指導要領観点との対応
1学期	Unit 1: About Me / Self- introduction	1: Communication 2: Identities & Relationships 3: Communication, Self- management	<ul style="list-style-type: none"> 自己紹介 (名前・年齢・好きなこと) 英語と日本語の挨拶の違い (bowing, handshake, eye contact, personal space) 挨拶のロールプレイ (日本式 / 英語式比較) 自己紹介スピーチ練習 be動詞 (I am / You are) 、人称代名詞、所有形容詞 (my, your) 三人称単数 (He is / She is) 、所有格 's, this / that / these / those 	<p>[A] [C] [D] Self-introductionスピーチ+自己紹介パラグラフ</p>	知識・技能／思考・判断・表現 ／主体的態度
	Unit 2: My Ideal School Curriculum	1: Creativity / Connections 2: Globalization & Sustainability, Personal & Cultural Expression 3: Research, Communication, Critical Thinking	<ul style="list-style-type: none"> 世界の学校の時間割・特徴 (日本・US・UK・Finlandなど) 教科名英語表現 (math, science, art, PE, etc.) どの科目が必要?なぜ? 自分の理想の学校カリキュラム設計 一般動詞の現在形、頻度副詞、時間表現 	<p>[B] [C] [D] My Ideal School Curriculumスピーチ</p>	思考・判断・表現／知識・技能 ／主体的態度
2学期	Unit 3 Natural Disasters	1: Change / Cause & Effect 2: Scientific & Technical Innovation 3: Research, Critical Thinking, Information Literacy	<ul style="list-style-type: none"> 自然災害の種類 brainstorm しくみ (mechanism) 図示: earthquake, tsunami, flood 防災・避難語彙 安全対策 There is / There are, 場所を表す前置詞、命令文 (Go straight, Turn left) 	<p>[A] [B] [C] How a Natural Disaster Happensスピーチ</p>	知識・技能／思考・判断・表現 ／主体的態度
	Unit 4 Festivals	1: Culture / Connections 2: Personal & Cultural Expression / Globalization 3: Collaboration / Communication / Creative Thinking	<ul style="list-style-type: none"> 地域の祭り (日本) 世界の祭り 食べ物 (dango, turkey, samosa, churros) Travel plan & festival tour schedule 観光パンフレット英語 単数・複数 好き・嫌い できる・できない 現在進行形 現在形の疑問文 be動詞と一般動詞の過去形 	<p>[B] [C] [D] Festival Poster Project ①フェスティバルの紹介 ②歴史や文化的意味 ③食べ物・活動内容 ④おすすめポイント・日程 (ツアー形式)</p>	知識・技能／思考・判断・表現 ／主体的態度
3学期	Unit 5 Endangered Animals	1: Change / Systems / Responsibility 2: Globalization & Sustainability / Scientific & Technical Innovation 3: Research, Problem- solving, Communication	<ul style="list-style-type: none"> 動物の分類 生息環境 (forest, ocean, desert) 絶滅危惧種と絶滅した動物 研究: なぜ絶滅危惧種なのか?どのように保護するのか? 解決策を英語で提案 パンフレット制作 be going to (未来の予定) 、 want to + 動詞 	<p>[B] [C] [D] Endangered Animal Pamphlet Project ①動物の基本情報 ②絶滅の原因 ③保護の方法と提案</p>	知識・技能／思考・判断・表現 ／主体的態度

教科	英語	科目	英語	単位数	5	対象学年	中学2年生 MYP years 3
MYP科目群	言語の習得					対象クラス	Eクラス
使用教科書	English PBL 2, Basic Grammar for Teens 2						
使用教材 (副教材)	How to study Health, In the Sky, Food Around the World						

科目のねらい

<ul style="list-style-type: none"> 母語と自己の文化的遺産を維持しながら、付加言語に習熟する。 多様な言語と文化的遺産に対する敬意と理解を身につける。 さらなる言語学習、また学習、就労、余暇などさまざまな実際の場面や、多様な受け手と目的に対応するために必要なコミュニケーションスキルを身につける。 マルチメディアやさまざまなコミュニケーションの伝達様式などの幅広い学習ツールを使用してマルチリテラシーのスキルを身につける。 さまざまな文学テキストおよび非文学テキストを鑑賞できるようになり、批判的かつ創造的な方法で意味の構築と解釈ができるようになる。 思考、振り返り、自己表現、および他の科目の学習のための原動力として言語を認識、活用し、読み書きの能力を向上させるツールとしても活用できるようになる。 言語の本質と、言語的、文化的、社会的要素から成る言語学習のプロセスを理解することができるようになる。 言語が使用されているコミュニティの文化的特徴を理解できるようになる。 自己の文化や異なる文化をもつ人のものの方への意識と理解を養うことで、自己やその他のコミュニティへの参加と行動につながる。 言語学習への興味、探究、および生涯にわたる関心、また言語の習得における喜びを養う。
--

目標および評価規準

MYP 評価観点	
A: 聞くこと	i) 明示的および暗示的な情報（事実や意見、および裏づけとなる詳細）を特定できる。
	ii) 表現技法を分析できる。
	iii) つながり分析できる。
B: 読むこと	i) 明示的および暗示的な情報（事実や意見、および裏づけとなる詳細）を特定できる。
	ii) 表現技法を分析できる。
	iii) つながり分析できる。
C: 話すこと	i) 広範囲の語彙を使用できる。
	ii) 広範囲の文法的構造をたいてい正確に使用できる。
	iii) 明確な発音と抑揚を用いてわかりやすく話せる
	iv) やりとりにおいて、必要なすべて、またはほぼすべての情報を明確かつ効果的に伝達できる。
D: 書くこと	i) 広範囲の語彙を使用できる。
	ii) 広範囲の文法的構造をたいてい正確に使用できる。
	iii) 広範囲にわたるシンプルおよび複雑な接続表現を使用して、適切な形式で効果的にわかりやすく情報を整理できる。
	iv) 文脈に合うように、受け手と目的をはっきりと意識したうえで、必要なすべて、またはほぼすべての情報を伝達できる。

関連概念（学習を通して、生徒は以下の概念についても考えます）

受け手	文脈	表現技法	共感
機能	イディオム（慣用句）	意味	メッセージ
視点	目的	構成	言葉の選択

年間計画

学期	ユニット	1:重要概念 2:グローバルな文脈 3:ATL	学習内容・教材等	総合的評価課題の MYP 評価観点 ([]内) および課題概要と評価方法	学習指導要領観点との対応
1学期	Unit 1: Health	1: Communication / Connections 2: Identities and Relationships 3: Communication / Self-management / Research	<ul style="list-style-type: none"> ・運動・睡眠・食習慣など ・睡眠習慣、運動の利点と習慣 ・健康的・不健康な食べ物 ・should / shouldn't (助言) ・リサーチ：自分の生活習慣を調べる ・be動詞、人称代名詞、所有形容詞 ・三人称単数、所有格 's、指示語 	<p>【A】【B】【D】</p> <p>Health Poster「健康アドバイスポスター」</p>	知識・技能／思考・判断・表現／主体的態度
	Unit 2: Space	1: Communication 2: Globalization & Sustainability 3: Research, Communication, Critical Thinking	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽系、地球、惑星調査、大気、重力 ・比較 (bigger than / farther from) ・一般動詞の現在形、頻度副詞、時間表現 ・可算名詞／不可算名詞 	<p>【A】【B】【D】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選んだ惑星について特徴・大気・気候等をまとめる ・レポート＋クラス説明 	思考・判断・表現／知識・技能／主体的態度
2学期	Unit 3 Restaurants	1: Communication 2: Globalization and Sustainability 3: Creative Thinking, Media Literacy, Communication	<ul style="list-style-type: none"> ・レストランの種類 ・メニューの構成 ・My Favorite Restaurant (紹介文) ・食品ロス ・数えられる/数えられない名詞 ・some/any ・there is/are ・前置詞、命令文 ・現在進行形 	<p>【A】【C】【D】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリジナルメニュー作成 ・テーマに沿ったメニュー (料理説明・価格・写真・おすすめコメント) ・口頭で紹介 (店のコンセプト＋おすすめ) 	知識・技能／思考・判断・表現／主体的態度
	Unit 4 Technology	1: Creativity 2: Scientific and Technical Innovation 3: Creative Thinking, Problem Solving, Communication	<ul style="list-style-type: none"> ・発明、有名な技術 ・問題と解決策 ・新しい技術を考案 ・未来表現 (will) ・説明文の構成・過去形 ・規則動詞 ・不規則動詞 ・was / were 	<p>【B】【C】【D】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新技術プレゼン ・問題 → 解決策 → 新技術の説明 ・ポスター or スライドを用いた口頭発表 	知識・技能／思考・判断・表現／主体的態度
3学期	Unit 5 Environment	1: Connections / Development 2: Globalization & Sustainability 3: Research, Critical Thinking, Communication	<ul style="list-style-type: none"> ・自然物・人工物 ・環境を守る方法 ・環境問題、原因・結果、改善案 ・原因・結果の表現 (because, so) ・be going to (予定)、want to + 動詞 	<p>【A】【B】【C】【D】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境問題スライド ・1つの環境問題を調査し説明：原因→影響→解決策 ・スライド＋発表 	知識・技能／思考・判断・表現／主体的態度

教科	英語	科目	英語	単位数	5	対象学年	中学3年生 MYP years 4
MYP科目群	言語の習得					対象クラス	Eクラス
使用教科書	English PBL 3, Basic English Grammar						
使用教材 (副教材)	Watching World						

科目のねらい

<ul style="list-style-type: none"> 母語と自己の文化的遺産を維持しながら、付加言語に習熟する。 多様な言語と文化的遺産に対する敬意と理解を身につける。 さらなる言語学習、また学習、就労、余暇などさまざまな実際の場面や、多様な受け手と目的に対応するために必要なコミュニケーションスキルを身につける。 マルチメディアやさまざまなコミュニケーションの伝達様式などの幅広い学習ツールを使用してマルチリテラシーのスキルを身につける。 さまざまな文学テキストおよび非文学テキストを鑑賞できるようになり、批判的かつ創造的な方法で意味の構築と解釈ができるようになる。 思考、振り返り、自己表現、および他の科目の学習のための原動力として言語を認識、活用し、読み書きの能力を向上させるツールとしても活用できるようになる。 言語の本質と、言語的、文化的、社会的要素から成る言語学習のプロセスを理解することができるようになる。 言語が使用されているコミュニティの文化的特徴を理解できるようになる。 自己の文化や異なる文化をもつ人のものの方への意識と理解を養うことで、自己やその他のコミュニティへの参加と行動につながる。 言語学習への興味、探究、および生涯にわたる関心、また言語の習得における喜びを養う。
--

目標および評価規準

MYP 評価観点	
A: 聞くこと	i) 明示的および暗示的な情報（事実や意見、および裏づけとなる詳細）を特定できる。
	ii) 表現技法を分析できる。
	iii) つながり分析できる。
B: 読むこと	i) 明示的および暗示的な情報（事実や意見、および裏づけとなる詳細）を特定できる。
	ii) 表現技法を分析できる。
	iii) つながり分析できる。
C: 話すこと	i) 広範囲の語彙を使用できる。
	ii) 広範囲の文法的構造をたいてい正確に使用できる。
	iii) 明確な発音と抑揚を用いてわかりやすく話せる
	iv) やりとりにおいて、必要なすべて、またはほぼすべての情報を明確かつ効果的に伝達できる。
D: 書くこと	i) 広範囲の語彙を使用できる。
	ii) 広範囲の文法的構造をたいてい正確に使用できる。
	iii) 広範囲にわたるシンプルおよび複雑な接続表現を使用して、適切な形式で効果的にわかりやすく情報を整理できる。
	iv) 文脈に合うように、受け手と目的をはっきりと意識したうえで、必要なすべて、またはほぼすべての情報を伝達できる。

関連概念（学習を通して、生徒は以下の概念についても考えます）

受け手	文脈	表現技法	共感
機能	イディオム（慣用句）	意味	メッセージ
視点	目的	構成	言葉の選択

年間計画

学期	ユニット	1:重要概念 2:グローバルな文脈 3:ATL	学習内容・教材等	総合的評価課題の MYP 評価観点 ([]内) および課題概要と評価方法	学習指導要領観点との対応
1学期	Unit 1: History	1: Culture 2: Orientation in Space and Time 3: Research / Communication / Critical Thinking	<ul style="list-style-type: none"> ・国の比較 ・先住民 ・歴史的出来事・場所 ・芸術と文学 ・過去表現・比較級・最上級 ・過去表現 ・パッセージ要約 ・現在形の復習 ・不定詞 (I want to...) ・関係代名詞の導入 ・比較・表現 	[A] [B] [C] [D] 国ポスター & プレゼン ・国を一つ選び、歴史・文化・先住民・芸術を調査 ・ポスター作成 + 発表	知識・技能 / 思考・判断・表現 / 主体的態度
	Unit 2: Poverty	1: Connections 2: Fairness & Development 3: Research, Communication, Critical Thinking	<ul style="list-style-type: none"> ・必要・不必要 ・貧困のサイクル (世界と日本) ・先進国と発展途上国 ・問題と解決策 ・because, so, need to ・過去形 (復習) ・過去進行形 (I was playing...) ・動名詞 ・目的の不定詞 	[A] [B] [C] [D] 貧困問題を一つ選び、原因と解決策を説明	思考・判断・表現 / 知識・技能 / 主体的態度
2学期	Unit 3 AI	1: Development 2: Scientific and Technical Innovation 3: Research, Thinking, Creative Thinking	AIとは何か AIの種類 倫理・プライバシー 未来への影響 ・future expressions, if / 条件文 ・受動態の導入 ・関係代名詞 ・接続詞	[A] [B] [C] [D] ・AI デザイン+セールストーク	知識・技能 / 思考・判断・表現 / 主体的態度
	Unit 4 Innovation	1: Creativity 2: Scientific and Technical Innovation 3: Creative Thinking, Research, Communication	<ul style="list-style-type: none"> ・デザインの基本原則 ・原因と結果の関係 ・表やグラフでデータを記録 ・実社会の問題解決 ・簡単な予測を立てる ・拡張された不定詞 ・比較級 ・最上級の復習 	[A] [B] [C] [D] ・社会・学校・生活の問題を一つ選び、新しい発明を提案	知識・技能 / 思考・判断・表現 / 主体的態度
3学期	Unit 5 Future Goals	1: Identity 2: Personal & Cultural Expression 3: Self-management, Thinking, Communication	<ul style="list-style-type: none"> ・将来の夢 ・キャリア計画 ・長所・短所 ・future forms (will, going to, hope to, plan to) ・目的を表す不定詞 ・現在完了形の導入 ・仮定法 	[A] [B] [C] [D] ・未来ポートフォリオ	知識・技能 / 思考・判断・表現 / 主体的態度

教科	英語	科目	英語	単位数	5	対象学年	中学1年生 MYP years 2
MYP科目群	言語の習得					対象クラス	Pクラス
使用教科書	English PBL Starter, 英語ラボ①						
使用教材 (副教材)	Hello, Goodbye, Schools, Wild Cats						

科目のねらい

<ul style="list-style-type: none"> 母語と自己の文化的遺産を維持しながら、付加言語に習熟する。 多様な言語と文化的遺産に対する敬意と理解を身につける。 さらなる言語学習、また学習、就労、余暇などさまざまな実際の場面や、多様な受け手と目的に対応するために必要なコミュニケーションスキルを身につける。 マルチメディアやさまざまなコミュニケーションの伝達様式などの幅広い学習ツールを使用してマルチリテラシーのスキルを身につける。 さまざまな文学テキストおよび非文学テキストを鑑賞できるようになり、批判的かつ創造的な方法で意味の構築と解釈ができるようになる。 思考、振り返り、自己表現、および他の科目の学習のための原動力として言語を認識、活用し、読み書きの能力を向上させるツールとしても活用できるようになる。 言語の本質と、言語的、文化的、社会的要素から成る言語学習のプロセスを理解することができるようになる。 言語が使用されているコミュニティの文化的特徴を理解できるようになる。 自己の文化や異なる文化をもつ人のものの方への意識と理解を養うことで、自己やその他のコミュニティへの参加と行動につながる。 言語学習への興味、探究、および生涯にわたる関心、また言語の習得における喜びを養う。
--

目標および評価規準

MYP 評価観点	
A: 聞くこと	i) 明示的および暗示的な情報（事実や意見、および裏づけとなる詳細）を特定できる。
	ii) 表現技法を分析できる。
	iii) つながり分析できる。
B: 読むこと	i) 明示的および暗示的な情報（事実や意見、および裏づけとなる詳細）を特定できる。
	ii) 表現技法を分析できる。
	iii) つながり分析できる。
C: 話すこと	i) 広範囲の語彙を使用できる。
	ii) 広範囲の文法的構造をたいてい正確に使用できる。
	iii) 明確な発音と抑揚を用いてわかりやすく話せる。
	iv) 必要なすべて、またはほぼすべての情報を明確かつ効果的に伝達できる。
D: 書くこと	i) 広範囲の語彙を使用できる。
	ii) 広範囲の文法的構造をたいてい正確に使用できる。
	iii) さまざまなシンプルおよび少し複雑な接続表現を使用して、的確な形式で効果的にわかりやすく情報を整理できる。
	iv) 文脈に合うように、受け手と目的をはっきりと意識したうえで、必要なすべて、またはほぼすべての情報を伝達できる。

関連概念（学習を通して、生徒は以下の概念についても考えます）

発音	受け手	文脈	表現技法
形式	機能	意味	メッセージ
パターン	目的	構成	言葉の選択

年間計画

学期	ユニット	1:重要概念 2:グローバルな文脈 3:ATL	学習内容・教材等	総合的評価課題の MYP 評価観点 ([]内) および課題概要と評価方法	学習指導要領観点との対応
1学期	Unit 1: Dream Vacation	1: Communication / Culture 2: Globalization & Sustainability / Identities & Relationships 3: Communication, Research, Creative Thinking, Social Skills	・国名と地理 ・行きたい国とその理由 ・交通手段 ・宿泊施設 : hotel, homestay, hostel ・Festival / Local food / Climate ・旅行会話 ・旅行広告・観光ポスターの表現 ・"Dream Vacation Poster" 作成 ・be動詞 (I am / You are) 、人称代名詞、所有形容詞 (my, your) ・三人称単数 (He is / She is) 、所有格 's, this / that / these / those	[B] [C] [D] 行きたい国を紹介 (場所・国旗・言語・名物)	知識・技能 / 思考・判断・表現 / 主体的態度
	Unit 2: Wild Animals	1: Communication / Connections 2: Identities & Relationships / Globalization & Sustainability 3: Research, Communication, Thinking, Social Skills	・動物の種類 ・特徴 ・Food ・like/dislike理由の説明 ・Habitat ・"My Favorite Wild Animal" research activity ・Poster制作 ・一般動詞の現在形、頻度副詞、時間表現	[B] [C] [D] ポスターを作成し、英語で口頭発表	思考・判断・表現 / 知識・技能 / 主体的態度
2学期	Unit 3 School Lunch	1: Communication / Culture / Responsibility 2: Globalization & Sustainability / Personal & Cultural Expression 3: Research, Communication, Critical Thinking, Collaboration	・(健康的 / 不健康な食べ物) ・食べ物の分類 ・世界の学校給食 ・味と食感の形容詞 ・好き嫌い理由の説明表現 ・「良い給食」とは? 栄養・文化・環境の視点から考える ・理想の給食メニューづくり ・パンフレット制作とスピーチ準備・There is / There are、場所を表す前置詞、命令文 (Go straight, Turn left)	[A] [C] [D] スピーチでプレゼンテーション	知識・技能 / 思考・判断・表現 / 主体的態度
	Unit 4 Culture	1: Culture / Communication/Identity 2: Personal & Cultural Expression / Identities and Relationships 3: Research / Communication / Creative Thinking / Social Skills	・国の名前・国旗 ・言語 ・文化の象徴 ・文化を英語で説明する表現 ・「日本文化」vs「他国文化」の比較 ・Culture Poster 制作活動 (個人またはペア) ・単数・複数 ・好き・嫌い ・できる・できない ・現在進行形 ・現在形の疑問文 ・be動詞と一般動詞の過去形	[B] [C] [D] ポスター 英語で口頭発表	知識・技能 / 思考・判断・表現 / 主体的態度
3学期	Unit 5 Dream Job	1: Identity / Communication / Development 2: Identities and Relationships / Personal & Cultural Expression 3: Research, Self-management, Communication	・職業に関する語彙 ・Dream Job (なりたい職業・理由) ・その仕事に必要な skills ・必要な education (資格・勉強・訓練) ・将来の目標 ・自己の強みを英語で話す ・「My Dream Speech」 ・be going to (未来の予定) 、want to + 動詞	[C] [D] スピーチ原稿作成 + 口頭発表	知識・技能 / 思考・判断・表現 / 主体的態度

教科	英語	科目	英語	単位数	5	対象学年	中学2年生 MYP years 3
MYP科目群	言語の習得					対象クラス	Pクラス
使用教科書	English PBL 1, 英語ラボ②						
使用教材 (副教材)	Monkeys in School, Hello, Clunk, Wild Weather						

科目のねらい

<ul style="list-style-type: none"> 母語と自己の文化的遺産を維持しながら、付加言語に習熟する。 多様な言語と文化的遺産に対する敬意と理解を身につける。 さらなる言語学習、また学習、就労、余暇などさまざまな実際の場面や、多様な受け手と目的に対応するために必要なコミュニケーションスキルを身につける。 マルチメディアやさまざまなコミュニケーションの伝達様式などの幅広い学習ツールを使用してマルチリテラシーのスキルを身につける。 さまざまな文学テキストおよび非文学テキストを鑑賞できるようになり、批判的かつ創造的な方法で意味の構築と解釈ができるようになる。 思考、振り返り、自己表現、および他の科目の学習のための原動力として言語を認識、活用し、読み書きの能力を向上させるツールとしても活用できるようになる。 言語の本質と、言語的、文化的、社会的要素から成る言語学習のプロセスを理解することができるようになる。 言語が使用されているコミュニティの文化的特徴を理解できるようになる。 自己の文化や異なる文化をもつ人のものの方への意識と理解を養うことで、自己やその他のコミュニティへの参加と行動につながる。 言語学習への興味、探究、および生涯にわたる関心、また言語の習得における喜びを養う。
--

目標および評価規準

MYP 評価観点	
A: 聞くこと	i) 明示的および暗示的な情報（事実や意見、および裏づけとなる詳細）を特定できる。
	ii) 表現技法を分析できる。
	iii) つながり分析できる。
B: 読むこと	i) 明示的および暗示的な情報（事実や意見、および裏づけとなる詳細）を特定できる。
	ii) 表現技法を分析できる。
	iii) つながり分析できる。
C: 話すこと	i) 広範囲の語彙を使用できる。
	ii) 広範囲の文法的構造をたいてい正確に使用できる。
	iii) 明確な発音と抑揚を用いてわかりやすく話せる
	iv) やりとりにおいて、必要なすべて、またはほぼすべての情報を明確かつ効果的に伝達できる。
D: 書くこと	i) 広範囲の語彙を使用できる。
	ii) 広範囲の文法的構造をたいてい正確に使用できる。
	iii) 広範囲にわたるシンプルおよび複雑な接続表現を使用して、適切な形式で効果的にわかりやすく情報を整理できる。
	iv) 文脈に合うように、受け手と目的をはっきりと意識したうえで、必要なすべて、またはほぼすべての情報を伝達できる。

関連概念（学習を通して、生徒は以下の概念についても考えます）

受け手	文脈	表現技法	共感
機能	イディオム（慣用句）	意味	メッセージ
視点	目的	構成	言葉の選択

年間計画

学期	ユニット	1:重要概念 2:グローバルな文脈 3:ATL	学習内容・教材等	総合的評価課題の MYP 評価観点 ([]内) および課題概要と評価方法	学習指導要領観点との対応
1学期	Unit 1: About Me / Self- introduction	1: Communication 2: Identities & Relationships 3: Communication, Self- management	・自己紹介 (名前・年齢・好きなこと) ・英語と日本語の挨拶の違い (bowing, handshake, eye contact, personal space) ・挨拶のロールプレイ (日本式 / 英語式比較) ・自己紹介スピーチ練習 ・be動詞、人称代名詞、所有形容詞 ・三人称単数、所有格 's、指示語	[A] [C] [D] Self-introductionスピーチ + 自己紹介パラグラフ	知識・技能 / 思考・判断・表現 / 主体的態度
	Unit 2: My Ideal School Curriculum	1: Creativity / Connections 2: Globalization & Sustainability, Personal & Cultural Expression 3: Research, Communication, Critical Thinking	・世界の学校の時間割・特徴 (日本・US・UK・Finlandなど) ・教科名英語表現 (math, science, art, PE, etc.) ・どの科目が必要? なぜ? ・自分の理想の学校カリキュラム設計 ・一般動詞の現在形、頻度副詞、時間表現 ・可算名詞 / 不可算名詞	[B] [C] [D] My Ideal School Curriculumスピーチ	思考・判断・表現 / 知識・技能 / 主体的態度
2学期	Unit 3 Natural Disasters	1: Change / Cause & Effect 2: Scientific & Technical Innovation 3: Research, Critical Thinking, Information Literacy	・自然災害の種類 brainstorm ・しくみ (mechanism) 図示: earthquake, tsunami, flood ・防災・避難語彙 ・安全対策 ・There is / There are、前置詞、命令文 ・現在進行形	[A] [B] [C] How a Natural Disaster Happensスピーチ	知識・技能 / 思考・判断・表現 / 主体的態度
	Unit 4 Festivals	1: Culture / Connections 2: Personal & Cultural Expression / Globalization 3: Collaboration / Communication / Creative Thinking	・地域の祭り (日本) ・世界の祭り ・食べ物 (dango, turkey, samosa, churros) ・Travel plan & festival tour schedule ・観光パンフレット英語 ・過去形 (規則動詞・不規則動詞、was / were)	[B] [C] [D] Festival Poster Project ①フェスティバルの紹介 ②歴史や文化的意味 ③食べ物・活動内容 ④おすすめポイント・日程 (ツアー形式)	知識・技能 / 思考・判断・表現 / 主体的態度
3学期	Unit 5 Endangered Animals	1: Change / Systems / Responsibility 2: Globalization & Sustainability / Scientific & Technical Innovation 3: Research, Problem- solving, Communication	・動物の分類 ・生息環境 (forest, ocean, desert) ・絶滅危惧種と絶滅した動物 ・研究: なぜ絶滅危惧種なのか? どのように保護するのか? ・解決策を英語で提案 ・パンフレット制作 ・be going to (予定)、want to + 動詞	[B] [C] [D] Endangered Animal Pamphlet Project ①動物の基本情報 ②絶滅の原因 ③保護の方法と提案	知識・技能 / 思考・判断・表現 / 主体的態度

教科	英語	科目	英語	単位数	5	対象学年	中学3年生 MYP years 4
MYP科目群	言語の習得					対象クラス	Pクラス
使用教科書	English PBL 2						
使用教材 (副教材)	英語ラボ③ Watching Light						

科目のねらい

<ul style="list-style-type: none"> 母語と自己の文化的遺産を維持しながら、付加言語に習熟する。 多様な言語と文化的遺産に対する敬意と理解を身につける。 さらなる言語学習、また学習、就労、余暇などさまざまな実際の場面や、多様な受け手と目的に対応するために必要なコミュニケーションスキルを身につける。 マルチメディアやさまざまなコミュニケーションの伝達様式などの幅広い学習ツールを使用してマルチリテラシーのスキルを身につける。 さまざまな文学テキストおよび非文学テキストを鑑賞できるようになり、批判的かつ創造的な方法で意味の構築と解釈ができるようになる。 思考、振り返り、自己表現、および他の科目の学習のための原動力として言語を認識、活用し、読み書きの能力を向上させるツールとしても活用できるようになる。 言語の本質と、言語的、文化的、社会的要素から成る言語学習のプロセスを理解することができるようになる。 言語が使用されているコミュニティの文化的特徴を理解できるようになる。 自己の文化や異なる文化をもつ人のものの見方への意識と理解を養うことで、自己やその他のコミュニティへの参加と行動につながる。 言語学習への興味、探究、および生涯にわたる関心、また言語の習得における喜びを養う。

目標および評価規準

MYP 評価観点	
A: 聞くこと	i) 明示的および暗示的な情報（事実や意見、および裏づけとなる詳細）を特定できる。
	ii) 表現技法を分析できる。
	iii) つながり分析できる。
B: 読むこと	i) 明示的および暗示的な情報（事実や意見、および裏づけとなる詳細）を特定できる。
	ii) 表現技法を分析できる。
	iii) つながり分析できる。
C: 話すこと	i) 広範囲の語彙を使用できる。
	ii) 広範囲の文法的構造をたいてい正確に使用できる。
	iii) 明確な発音と抑揚を用いてわかりやすく話せる
	iv) やりとりにおいて、必要なすべて、またはほぼすべての情報を明確かつ効果的に伝達できる。
D: 書くこと	i) 広範囲の語彙を使用できる。
	ii) 広範囲の文法的構造をたいてい正確に使用できる。
	iii) 広範囲にわたるシンプルおよび複雑な接続表現を使用して、適切な形式で効果的にわかりやすく情報を整理できる。
	iv) 文脈に合うように、受け手と目的をはっきりと意識したうえで、必要なすべて、またはほぼすべての情報を伝達できる。

関連概念（学習を通して、生徒は以下の概念についても考えます）

受け手	文脈	表現技法	共感
機能	イディオム（慣用句）	意味	メッセージ
視点	目的	構成	言葉の選択

年間計画

学期	ユニット	1:重要概念 2:グローバルな文脈 3:ATL	学習内容・教材等	総合的評価課題の MYP 評価観点 ([]内) および課題概要と評価方法	学習指導要領観点との対応
1学期	Unit 1: Health	1. Communication 2. Personal and Cultural Expression 3. Research, Communication, Thinking, Self-Management Skills	<ul style="list-style-type: none"> ・食事 ・睡眠 ・健康的な食生活 ・Should / Shouldn't ・過去表現・比較級・最上級 ・過去表現 ・現在形の復習 ・不定詞 (I want to…) ・関係代名詞の導入 ・比較・表現 	<p>[A][B][C][D] 「食事・睡眠・健康的な生活」をテーマに、健康的な生活習慣を紹介する。 ・ポスター作成 + 発表</p>	知識・技能 / 思考・判断・表現 / 主体的態度
	Unit 2: Space	1. Development 2. Scientific and Technical Innovation 3. Research, Communication, Thinking Skills	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽系 ・地球 ・発見と探究 ・大気 ・重力 ・形容詞 ・because, so, need to ・過去形 (復習) ・過去進行形 (I was playing…) ・動名詞 ・目的の不定詞 	<p>[A][B][C][D] 調査・研究を行い、テーマ (太陽系・地球・大気・重力など) について英語でレポートを書く。 調査・研究 + レポート</p>	知識・技能 / 思考・判断・表現 / 主体的態度
2学期	Unit 3: Restaurants	1. Creativity 2. Globalization and Sustainability 3. Communication, Thinking, Social Skills	<ul style="list-style-type: none"> ・お気に入りのレストラン ・お金を稼ぐこと・経営 ・フードロス ・広告・宣伝 ・because, so, need to ・How often ・Which do you prefer ・future expressions, if / 条件文 ・受動態の導入 ・関係代名詞 ・接続詞 	<p>[A][B][C][D] オリジナルのレストランとメニューをデザインし、集客のための広告方法を考え、英語で紹介する。 メニュー + レポート + 発表</p>	知識・技能 / 思考・判断・表現 / 主体的態度
	Unit 4: Technology	1. Creativity 2. Scientific and Technical Innovation 3. Communication, Thinking, Research Skills	<ul style="list-style-type: none"> ・テクノロジー ・車・乗り物 ・広告・宣伝 ・問題解決 ・比較級 ・最上級の復習 	<p>[A][B][C][D] 新しいテクノロジーを考案・デザインし、その目的や特徴、解決できる問題について英語でプレゼンテーションを行う。 ポスター + 発表</p>	知識・技能 / 思考・判断・表現 / 主体的態度
3学期	Unit 5: Environment	1. Connections 2. Globalization and Sustainability 3. Research, Thinking, Communication Skills	<ul style="list-style-type: none"> ・環境の種類 ・環境問題 ・原因 ・結果・影響 ・解決策 ・因果関係 ・future forms (will, going to, hope to, plan to) ・目的を表す不定詞 ・現在完了形の導入 ・仮定法 	<p>[A][B][C][D] 身近または世界の環境問題を一つ選び、その原因と影響、解決策について調べ、スライドショーを作成して英語で発表する。 スライドショー + 発表</p>	知識・技能 / 思考・判断・表現 / 主体的態度